

福井淳註釋

鼈頭註釋

傍訓刑法

傍訓刑法附則

傍訓治罪法合冊

傍訓治罪法參考

傍訓監獄則

明治十七年第三月刊行

036202-000-0

特14-237

傍訓刑法治罪法監獄則（鼈頭註釋）

福井 淳／著

M17

BBP-0883



福井溥註釋

鼈頭註釋

傍訓刑法

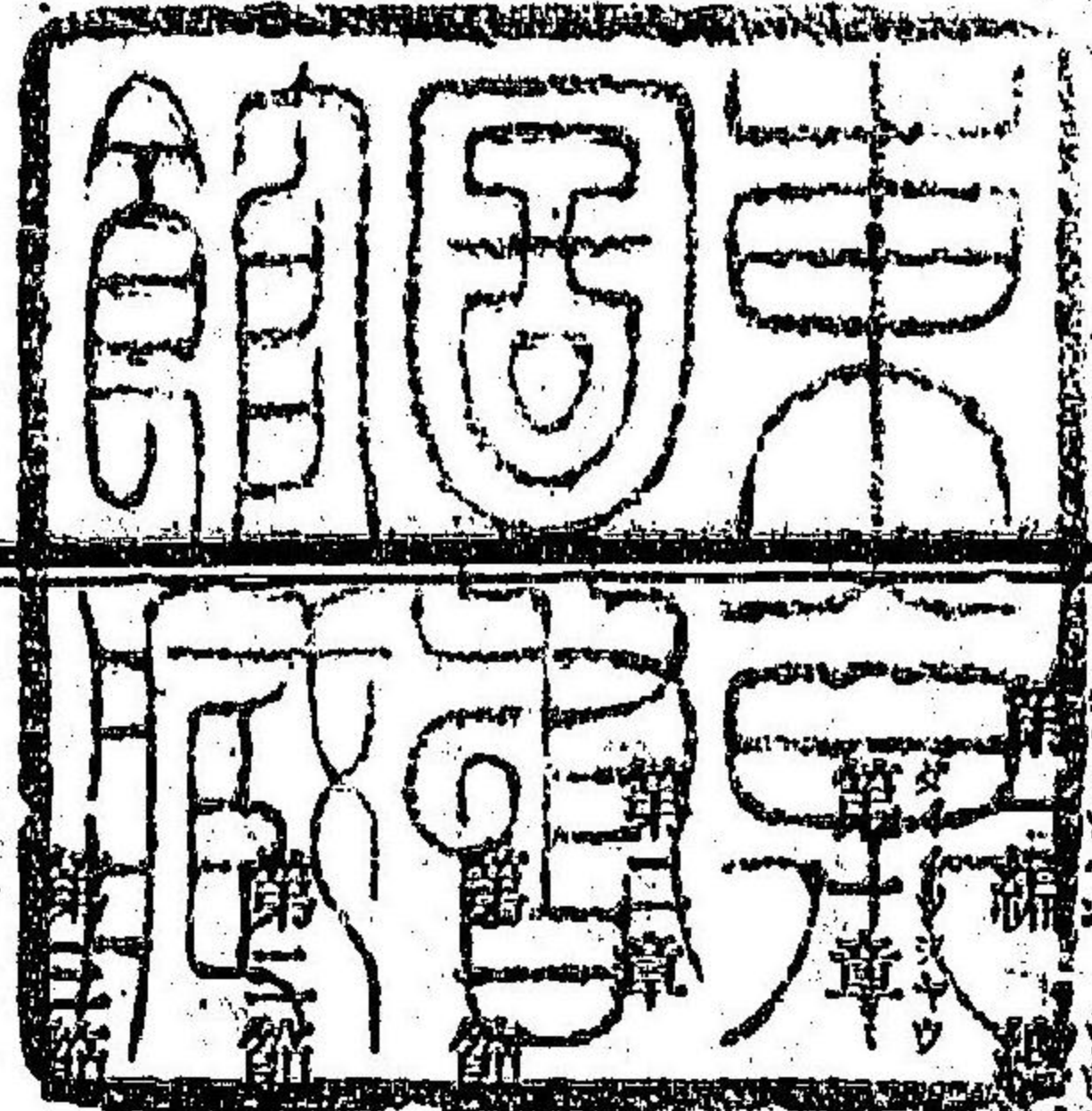
傍訓刑法附則

傍訓治罪法合冊

傍訓治罪法參考

傍訓監獄則

明治十七年第三月刊行



刑法目録

第一章 總則	自第一條 至第五條
第二章 刑名	自第六條 至第十一條
第三章 主刑處分	自第十二條 至第三十條
第四章 附加刑處分	自第三十一條 至第四十四條
第五章 徵償處分	自第四十五條 至第四十八條
第六章 刑罰計算	自第四十九條 至第五十二條
第七章 假出獄	自第五十三條 至第五十七條
第八章 期滿免除	自第五十八條 至第六十二條

刑法目録

第八節 復讐 フツケン 自第六十三條 至第六十五條

第三章 加減例 カケンレイ 自第六十六條 至第七十四條

第四章 不論罪及ヒ減輕 フロンザイヲヒツヤク 自第七十五條 至第八十四條

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕 イウジヨク 自第七十五條 至第八十四條

第二節 自首減輕 ソウジユ 自第八十五條 至第八十八條

第三節 酌量減輕 ソクリヤウケン 自第八十九條 至第九十條

第五章 再犯加重 サウカンカザ 自第九十一條 至第九十八條

第六章 加減順序 カケンツヨク 第九十九條

第七章 數罪俱發 スザイグハツ 自第一百條 至第一百三條

第八章 數人共犯 スニシヤクワツ 自第一百四條 至第一百八條

第一節 正犯 キヤク 自第一百四條 至第一百八條

第二節 從犯 ツクツク 自第九九條 至第一百條

第九章 未遂犯罪 ミサイハシツ 自第一百一十一條 至第一百三條

第十章 親屬例 シンリョクレイ 自第一百四條 至第一百五條

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪 コウイキニカンスルジュウザイケンザイ

第一章 皇室ニ對スル罪 クワウシツタイ 自第一百十六條 至第二十條

第二章 國事ニ關スル罪 コクジ

第一節 內亂ニ關スル罪 ナイラン 自第二十一條 至第二十八條

第二節 外患ニ關スル罪 ガイワン 自第二十九條 至第三十五條

第三節 靜謐ヲ害スル罪 セイメイヲガイスル

第一節 兇徒聚衆ノ罪 キヤクツクシヨウ 自第三十六條 至第三十八條

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪 クワンリノシヨクムヲウチナヒバウカイ 自第三十九條 至第四十一條

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪 自第四百四十二條 至第四百五十三條

第四節 附加刑ノ執行ヲ遅ル、罪 自第五百五十四條 至第五百五十六條

第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪 自第五百五十七條 至第五百六十一條

第六節 往來通信ヲ妨害スル罪 自第五百六十二條 至第五百七十條

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪 自第五百七十一條 至第五百七十三條

第八節 官ノ封印ヲ破壊スル罪 自第五百七十四條 至第五百七十六條

第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪 自第五百七十七條 至第五百八十一條

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪 自第五百八十二條 至第五百九十三條

第二節 官印ヲ偽造スル罪 自第五百九十四條 至第五百九十一條

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪 自第五百九十二條 至第五百九十七條

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪 自第六百八十八條 至第六百九十二條

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪 自第六百九十三條 至第六百九十七條

第六節 偽証ノ罪 自第六百九十八條 至第七百零六條

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪 自第七百零七條 至第七百一十條

第八節 身分ヲ詐稱スル罪 自第七百一十一條 至第七百一十二條

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪 自第七百一十三條 至第七百一十六條

第五章 健康ヲ害スル罪

第一節 阿片烟ニ關スル罪 自第七百二十七條 至第七百四十二條

第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪 自第七百四十三條 至第七百四十五條

第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪 自第七百四十六條 至第七百四十九條

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ關スル罪

自第二百五十條
至第二百五十二條

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪

自第二百五十三條
至第二百五十五條

第六節 私ニ醫業ヲ爲ス罪

第六節 風俗ヲ害スル罪

第七節 死屍ヲ毀壞シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第八章 商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二節 官吏人民ニ對スル罪

第三節 官吏財産ニ對スル罪

第三編 身體財産ニ對スル重罪輕罪

第一章 身體ニ對スル罪

第一節 謀殺故殺ノ罪

二節 毆打創傷ノ罪

第三節 殺傷ニ關スル宥恕及ヒ不諭罪

第四節 過失殺傷ノ罪

第五節 自殺ニ關スル罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第八節 墮胎ノ罪

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪 自第三百四十一條 至第三百四十五條

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪 自第三百四十六條 至第三百五十四條

第十二節 誣告及ヒ誹毀ノ罪 自第三百五十五條 至第三百六十一條

第十三節 祖父母父母ニ對スル罪 自第三百六十二條 至第三百六十五條

第二章 財産ニ對スル罪

第一節 竊盜ノ罪 自第三百六十六條 至第三百七十七條

第二節 強盜ノ罪 自第三百七十八條 至第三百八十四條

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪 自第三百八十五條 至第三百八十七條

第四節 家資分散ニ關スル罪 自第三百八十八條 至第三百八十九條

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪 自第三百九十八條 至第三百九十八條

第六節 贓物ニ關スル罪 自第三百九十九條 至第四百一一條

第七節 放火失火ノ罪 自第四百二條 至第四百十條

第八節 決水ノ罪 自第四百十一條 至第四百十四條

第九節 船舶ヲ覆没スル罪 自第四百十五條 至第四百十六條

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪 自第四百十七條 至第四百二十四條

第四編 違警罪 自第四百二十五條 至第四百三十一條

刑法附則目録

- 第一章 主刑執行 自第一一條 至第二十條
- 第二章 監視 自第二十一條 至第三十七條
- 第三章 假出獄及特別監視 自第三十八條 至第四十七條
- 第四章 刑事裁判費用 自第四十八條 至第五十三條
- 第五章 賠償處分 自第五十四條 至第六十三條

第一編 總則 第一章 法例

○ 標註

總則 此刑法全體ニ於テ總テ運用スヘキ法則 法例 此刑法ノ運用ノ大要旨ヲ示ストコロノ例規ナリ
 法律 コノ刑法ノミナラス諸般ノ法律規則ヲ 重罪 死刑以下含ム 輕罪 輕禁獄以下ノ刑 輕罪 重禁錮以下ノ刑 輕罪 拘留科料刑 違警罪 ノ刑ヲ云フ
 正條 法律ニ於テ罪ヲ定メタルハツキ何等リシタルケ條

警頭索引標註傍訓刑法

刑法

大阪 福井 淳 註釋

第一編 總則

第一章 法例

第一條 凡法律ニ於テ罰ス可キ罪別テ三種ト爲ス

一 重罪

二 輕罪

三 違警罪

第二條 法律ニ正條ナキ者ハ何等ノ所以ト雖モ之ヲ罰スルヲ得ス

第三條

法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスヲ得ス

若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サル者ハ新舊ノ法ヲ

比照シ輕キニ從テ處斷ス

第二章
刑例
第一節
刑名

ドノヤ 所爲シカ 頒布
ウナル 所爲シカ 頒布
フレ 犯罪 アシ 所犯 ア
タシ 犯罪 アシ 所犯 ア
ジチ ナシ タ 判決 サイ
ルコト カラ 判決 バン
新舊ノ法 新ハコノ刑
綱領改比照 ナラベ 處
定律例 比照 アハセ 處
斷サバ 適用 フ 他ノ
法律規則 出版、銃獵、
郵便、米商會所、度量
衡地券、坑法、株式取
引、烟草、帶刀、賣淫、租
稅、訴訟用紙、車、賣
藥、公債証書等ノ刑
條例又ハ規則ナ云 刑
例 刑ノ科目及ヒ其刑
處分ノ要例ナリ

第四條 此刑法ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ論ズ可キ者ニ適
用スルコトヲ得ス

第五條 此刑法ニ正條ナクシテ他ノ法律規則ニ刑名アル者ハ
各其法律規則ニ從フ

若シ他ノ法律規則ニ於テ別ニ總則ヲ掲ケザル者ハ此刑法ノ
總則ニ從フ

第二章 刑例

第一節 刑名

第六條 刑ハ主刑及ヒ附加刑ト爲ス

主刑ハ之ヲ宣告ス

附加刑ハ法律ニ於テ其宣告スル者ト宣告セサル者トテ定ム

第七條 左ニ記載シタル者ヲ以テ重罪ノ主刑ト爲ス

一 死刑

名 主刑及附加刑 主刑
名ノ名ヲ云フ
ホシケ 附加刑
イナリ 附加刑
ケクハヘル 宣告
タイナリ 宣告
ス 死刑 常事犯ト國事
用 無期徒刑 有期徒刑
常事犯ノ刑 無期徒刑
定役ニ服ス 無期徒刑
有期流刑 國事犯ノ刑
ス 重懲役 輕懲役 常事
刑 定役ニ服ス 重懲役 輕懲役
國事犯ノ刑 定役ニ服ス 重懲役 輕懲役
常事犯ノ刑 輕懲役 輕懲役
定役ニ服ス 輕懲役 輕懲役

二 無期徒刑

三 有期徒刑

四 無期流刑

五 有期流刑

六 重懲役

七 輕懲役

八 重禁獄

九 輕禁獄

第八條 左ニ記載シタル者ヲ以テ輕罪ノ主刑ト爲ス

一 重禁錮

二 輕禁錮

三 罰金

第九條 左ニ記載シタル者ヲ以テ違警罪ノ主刑ト爲ス

第二節
主刑處分

國事犯ニ用ユ罰金事
定役ニ服セス
犯國事犯拘留科料最
共ニアリ拘留科料輕
ノ刑ニシテ常事犯國
事犯ノ區別ナキナリ
剝奪公權 宣告ヲ用ヒ
ノミニ 停止公權 宣告
附加ス
ヒス輕罪ノ刑禁治產
ノミニ附加ス
宣告ヲ用ヒス重罪監
ノ刑ノミニ附加ス
重罪ノ刑ニハ宣告
視ヲ用ヒスシテ之ヲ
附加シ輕罪ノ刑ニハ
附加スルモノト附加
セサルモノトアリ附
加スルハコレヲ宣
告罰金禁錮ノ刑ニ於
テ附加スル者

一 拘留
二 科料

第十條 左ニ記載シタル者ヲ以テ附加刑ト爲ス

一 剝奪公權

二 停止公權

三 禁治產

四 監視

五 罰金

六 沒收

第十一條 刑ヲ執行シ及ヒ犯人ヲ檢束スル方法細目ハ別ニ規
則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十二條 死刑ハ絞首ス但シ規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄

ト附加セサル者ト
定メ附加スル者ハ之
ヲ宣沒收重罪輕罪違
告ス 執行コナラ犯人
ス 檢束トリシマ
ト檢束リスル 方法
シカ細目ルカデウ規
則 主刑執行及ヒ假主
出獄監視ノ規則主
刑處分 第七條第八條
方法ヲ 絞首クハ官
云フ 吏書記及ヒ監
獄長等ナリ 監檢キ
ツヘミト 獄内囚獄命
ハケル 令マシ 大祀元始祭
神嘗祭

第十三條 死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行フヲ
得ス

第十四條 大祀令節國祭ノ日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

第十五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ナル時ハ其執行ヲ
停メ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ刑ヲ行ハス

第十六條 死刑ノ遺骸ハ親屬故舊請フ者アレハ之ヲ下付ス但
式ヲ用ヒテ葬ルヲ許サス

第十七條 徒刑ハ無期有期ヲ分タス 島地ニ發遣シ定役ニ服ス
有期徒刑ハ十二年以上十五年以下ト爲ス

第十八條 徒刑ノ婦女ハ島地ニ發遣セス内地ノ懲役場ニ於
テ定役ニ服ス

第十九條 徒刑ノ囚六十歳ニ滿ル者ハ通常ノ定役ヲ免シ其體

新嘗祭 令節 祀元節 國
大祓等 天長節
祭 孝明天皇 仁孝天皇
神武天皇 後桃園天
皇 春秋季皇 懷胎
靈ノ諸祭日 懷胎
停ル 分娩 スル 遺骸
シガ 親屬リ 故舊ト
イ 下付 サゲワ 式キ
ナ 島地ニ發遣 逃走ヲ豫
防スル 爲
ニツカ 定役 鑛山開拓
ヲス 等ノ至難
ノ使 服ツカ 囚ツミ
役 常ホリ 免ズ 體力
相當ガナラニ 島地ノ

力相當ノ定役ニ服ス
第二十條 流刑ハ無期徒刑ヲ分
タス島地ノ獄ニ幽閉シ定役ニ
服セス
有期徒刑十二年以上十五年以下ト爲ス
第二十一條 無期流刑ノ囚五年ヲ經過スレハ行政ノ處分ヲ以
テ幽閉ヲ免シ島地ニ於テ地ヲ限リ住居セシムルヲ得
有期流刑ノ囚三年ヲ經過スル者亦同シ
第二十二條 懲役ハ内地ノ懲役場ニ入レ定役ニ服ス但六十
歳ニ滿ル者ハ第十九條ノ例ニ從フ
重懲役ハ九年以上十一年以下輕懲役ハ六年以上八年以下ト
爲ス
第二十三條 例禁獄ハ内地ノ獄ニ入レ定役ニ服セス
重禁獄ハ九年以上十一年以下輕禁獄ハ六年以上八年以下ト

獄ニ幽閉シ 或ハ其餘
却若クハ非望ノ企テ
圖ルカ如キ危害ヲ預
防シ以テ之ヲ嚴警セ
シムルノ主意ナリ幽
閉ハイレ 經過スレバ
オクナリ 經過スレバ
經過トハス 行政ノ
サルコナリ
處分 其行狀善長ニシ
後悔ノ心アレハ
政府ノ特典ヲ長短ガ
以テ取計ツ 工錢
ミ 區別ル
カ 幾分 或ハ五分ニ分
ン 幾分 或ハ四分ニ分
舍ノ費用ニ供シ一分
ヲ犯人ニ給シ或ハ三
分ヲ分テ二分ヲ獄舍
ノ費用ニ供シ一分ヲ

爲ス
第二十四條 禁錮ハ禁錮場ニ留置シ重禁錮ハ定役ニ服シ輕禁
錮ハ定役ニ服セス
禁錮ハ重輕ヲ分タス十一日以上五年以下ト爲シ仍ホ各本條
ニ於テ其長短ヲ區別ス
第二十五條 定役ニ服スル囚人ノ工錢ハ監獄ノ規則ニ從ヒ其
幾分ヲ獄舍ノ費用ニ供シ其幾分ヲ囚人ニ給與ス但現役百日
以内ハ給與ノ限ニ在ラス
第二十六條 罰金ハ二圓以上ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡
ヲ區別ス
第二十七條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム
若シ限内納完セサル者ハ一圓ヲ二日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ
換フ其二圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第三節 附加刑 處分

犯人ニ 獄舎 ヲウ 費用 給ス
イリ 給與 ス 現役 現 定役ニ 服 多寡 オホキ スルヲ 多寡 スクナ キ 確定 キ若クハ 裁判 ノ局ヲ 納完 ミナテ 限 結フヲ 納完 サムル 限 内 キケン 折算 ヒキ 計 算 カツ 檢察官 又ハ 警 部 求 マチシ 二年ニ 過 クルヲ 得ス 二年ヲ 過 クルヲ 得ス グレハ 其 殘額ハ 自ラ 消滅 扣除 スルモノトス
サシ 附加刑 處分 第十 條ノ

罰金ヲ 禁錮ニ 換フル者ハ 更ニ 裁判ヲ 用ヒス 檢察官ノ 求ニ 因リ 裁判官之ヲ 命ス 但 禁錮ノ 期限ハ 二年ニ 過ルヲ 得ス
若シ 禁錮限内 罰金ヲ 納メタル 時ハ 其 輕過シタル 日數ヲ 扣除シテ 禁錮ヲ 免ス 親屬其他ノ 者代テ 罰金ヲ 納メタル 時亦 同シ
第二十八條 拘留ハ 拘留所ニ 留置シ 定役ニ 服セス 其 刑期ハ 一 日以上 十日以下ト 爲シ 尙各 本條ニ 於テ 其 長短ヲ 區別ス
第二十九條 科料ハ 五錢以上 一圓九十五錢以下ト 爲シ 仍各 本條ニ 於テ 其 多寡ヲ 區別ス
第三十條 科料ハ 裁判確定ノ 日ヨリ 十日内ニ 納完セシム 若シ 限内 納完セサル者ハ 第二十七條ノ 例ニ 照シ之ヲ 拘留ニ 換フ
第三節 附加刑 處分
第三十一條 剝奪公權ハ 左ノ 權ヲ 剝奪ス
一 國民ノ 特權

處分方法 剝奪公權ニ 記載ス
記セル 公權ヲ 國民ノ 剝奪スルナリ
特權 日本人民ニ 限リ 一般ニ 有スル 權
ナ 官吏ニ 功章 賞年 金ヲ 賜ハルハ 人ヘ 年々 賜ハルホウニ 限リ
キ 位記 位ニ 叙スル 時 位記 位ニ 叙スル 時 費 勞 華士 族 恩 給 軍人 等ナリ 恩 給 恩 給
令ニ 依リ 賜ハ 佩用ケルヲ 得テ 佩用ケル
モナ 兵籍ニ 關スル 證
人ニ 關シ 證人 證人 證人
ニ 關シ 證人 證人 證人

二 官吏ト 爲ルノ 權
三 勳章 年 金 位記 貴號 恩 給ヲ 有スルノ 權
四 外國ノ 勳章ヲ 佩用スルノ 權
五 兵籍ニ 入ルノ 權
六 裁判所ニ 於テ 證人ト 爲ルノ 權 但 單ニ 事實ヲ 陳述スルハ 此 限ニ 在ラス
七 後見人ト 爲ルノ 權 但 親屬ノ 許可ヲ 得テ 子孫ノ 爲メニ スル
ハ 此 限ニ 在ラス
八 分散者ノ 管財人ト 爲リ 又ハ 會社及ヒ 共有財産ヲ 管理スル
ノ 權
九 學校長及ヒ 教師 學監ト 爲ルノ 權
第三十二條 重罪ノ 刑ニ 處セラレタル者ハ 別ニ 宣告ヲ 用ヒス 終身公權ヲ 剝奪ス

陳述ノマシ後見人シ
ロ許可シユル分散者家
ヲ分散管財人ニシ
セシ者管財人ニシ
會社ナカマノ共有財
産シシカマノ管理シマ
リ學校長ノガクカウ教
師シセ學監ノメツケ
終身イツシ現任メツ
サタ官職ヤク停止ト
ム監視犯人ノ再度罪
豫防シ及ヒ一般ノ安
寧ヲ保持スル爲メ警

第三十三條 禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任
ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フヲ停止ス
第三十四條 輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ付シタル者ハ別ニ宣告ヲ
用ヒス監視ノ期間公權ヲ行フヲ停止ス
主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者亦同シ
第三十五條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス
其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ禁ス
第三十六條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル時ハ行政ノ處分ヲ
以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得
第三十七條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス
各本刑ノ短期三分ノ一ニ等シキ時間監視ニ付ス
第三十八條 刑罪ノ輕ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ス但各本條
ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス

察官ノ監視ニ付自ラ
スル刑ヲイフ
此刑ニ處セラルハ
ハ親屬又ハ後見人ヲ
シテ管理セシムルヲ
アルヲ以テ故サラニ
自ラト財産贈遺契約
イフ及貸財受借典賣
收等ナリ治ツカフ各
本刑ノ短期有期徒流
年ノ三分ノ一四年重
懲役重禁獄ハ九年ノ
三分ノ一三期滿免除
年ノ如シ
十五葉起算カウハハ
ニアリ起算シメル
主刑ヲ免シテ止タ監
視ニ付スル時第十六條

第三十九條 死刑及ヒ無期刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ別ニ宣
告ヲ用ヒズ五年間監視ニ付ス
第四十條 監視ノ期限ハ主刑ノ終リタル日ヨリ起算ス主刑ノ
期滿免除ヲ得タル時ハ其捕ニ就キタル日ヨリ起算ス
若シ主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル時ハ其裁判確定ノ日
ヨリ起算ス
第四十一條 監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行政ノ處分
ヲ以テ假ニ監視ヲ免スルヲ得
第四十二條 附加ノ罰金ハ之ヲ宣告ス若シ一月内ニ納完セサ
ル時ハ第二十七條ノ例ニ照シ輕禁錮ニ換ヘ主刑滿限ノ後之
ヲ執行ス
第四十三條 左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法
律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ

第四節 分徴償處

第二百九十條 情狀能ク規
 二條初項ノ滿限ニキ
 守シ悛改ノ限ニキ
 徴アル者
 ツ物件モノ法律規則
 ル物件モノ法律規則
 出版賣藥印紙烟草牛
 馬賣買酒造稅關等ノ
 規則又ハ條一偽造變
 例ヲ云フ
 幣及ヒ其模型版木又
 ハ鴉片烟及ヒ偽造變
 造ノ諸證書印紙印章
 度量衡又ハ狼麩ノ書
 畫物件等ニ貨幣ヲ偽
 是レナリニ造スルニ
 用ヒタル器具人ヲ殺
 スニ用ヒタル刃物強
 竊盜ヲ犯スニ供シ
 タル兇器等ナリ
 偽造變造ノ貨幣ヲ以
 テ得タル真正ノ貨幣

從フ
 一法律ニ於テ禁制シタル物件
 二犯罪ノ用ニ供シタル物件
 三犯罪ニ因テ得タル物件
 第四十四條 法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ス
 之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人
 ノ所有ニ係又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス
 第四節 徴償處分
 第四十五條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス
 但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム
 第四十六條 犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セラル、ト雖モ被害
 者ノ請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、ト得ス
 第四十七條 數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償

第五節 算刑期計

并ニ物品禁制物ヲ賣
 買シテ得タル金錢又
 ハ受領俱ニ罪アル賄
 賂金及ヒ盜贖等ナリ
 所有モノテ所有主
 シ
 又徴償處分ノ費用及
 シ
 民事損害ノ賠償ヲ追
 還スルノ處分方法ナ
 リ全部ノ額ニキ放
 免ハナキ被害者チカ
 免ユルス被害者チカ
 フムレ請求モト贖物
 ルモノ請求メル贖物
 不正ノモノ還給カハ
 シ賠償ツク數人共犯
 スニシマサシ連帶ツ
 アハセオカス連帶ツ

ハ共犯人チシテ之ヲ連帶セシム
 第四十八條 裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求
 ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得若シ贓物犯人
 ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス
 第五節 刑期計算
 第四十九條 刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以
 テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以シ一年ト稱スルハ曆ニ從フ
 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ
 算入セス
 第五十條 刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルヲ
 得ス
 第五十一條 刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シ
 タル者ハ左ノ例ニ從フ

第三節 假出獄

タイニワ直サマ還付
リツケル
カヘ 刑期計算 刑期ノ
ス 計算法
ナ 刑期ツヨノ計算
リ 刑期キゲンノ計算
セ 曆ニ從フ 平年閏年
ウ 受刑シオキチ 初日ハ
メノ 算入ウニイレ放
免ハナチ 上訴コウソ
コ 正當アタルニ 不當
ダウリニ 保釋 保証金
アラヌ 保釋 納メ
テ 吟味中ノ 犯人ヲヤ
ド アツケニ 願フコト
責付 ヲド ア 假出獄 囚
ツケ

一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ
起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス
二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス
前判宣告ノ日ヨリ起算ス
三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ
算入スルヲ得ス
第五十二條 刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ
日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ起算ス
第六節 假出獄
第五十三條 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ遵守シ悛
改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分
ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スヲ得
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ

第七節 期滿免

ヲ屬マシ悔悟ヲ導ク
爲メ行政上ノ處分ヲ
以テ假ニ出獄ヲ許シ
其身ノ自由ヲ得セシ
ムル 獄則ヲウヤノ 謹
ナリ 獄則キソク
守マモリ 悛改クワ
イシテコノハ 狀ヨウ
チアラタム 狀ヨウ
處分カトリハ 特別ノ 監
視ヨリハ 出獄ヲウヤ
嚴重ナリ 出獄ヲダス

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例
ヲ用ヒス
第五十四條 徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サルハト雖モ仍ホ島地ニ
居住セシム
第五十五條 假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産
ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監
視ニ付ス
第五十六條 假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出
獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルヲ得ス
第五十七條 刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ
許サス
第七節 期滿免除
第五十八條 刑ノ執行ヲ通レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經

過スルニ因テ期滿免除ヲ得

第五十九條 主刑ハ左ノ年限ニ從テ期滿免除ヲ得

一 主刑ハ三十年

二 無期徒流刑ハ二十五年

三 有期徒流刑ハ二十年

四 重懲役重禁獄ハ十五年

五 輕懲役輕禁獄ハ十年

六 禁錮罰金ハ七年

七 拘留料料ハ一年

第六十條 審判公權停止公權及ヒ監視ハ期滿免除ヲ得ス

附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得但禁制物ハ期滿免除ノ限ニ在ラス

第六十一條 期滿免除ハ刑ノ執行ヲ遣レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル時ハ其逃走ノ日ヨリ起算シ闕席裁判ニ係ル時ハ其宣告ノ日ヨリ起算ス

第六十二條 刑ノ執行ヲ遣レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタル時ハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス

第八節 復權

第六十三條 公權ヲ剝奪セラレタル者ハ主刑ノ終リタル日ヨリ五年ヲ經過スルノ後其情狀ニ因リ將來ノ公權ヲ復スルヲ得

第六十四條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ直チニ復權ヲ得特赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ赦狀中記載スルニ非サレハ復權

第八節 復權

闕席裁判ノ其本人公判

ハ出廷セサル時ノ宣告ナリ委ハシキコトハ

治罪法ニ依リ宣告イヒ最

終イテハ令狀拘引

留狀監視等裁判所ヨリ發スルモノナリ

復權主刑ニ假出獄アリ監視ニ假免アルカ如キモノニ其行狀改良ナルヲ以テ既ニ剝奪セラレタル公權ヲ復與スルナリ

將來ユク大赦國事犯多人數同罪ヲ犯シタル衆犯人ニ對シ全ク

第三章 加減例

其罪ヲ免シ罪ナキ特者ト爲スモノナリ
 赦一個ノ罪人ニ對シテ刑ノ全部又ハ幾分ヲ赦免ス。赦狀特赦ルモノナリ。赦狀セラレタルカ記載ノセキキツケ
 天皇陛下ノ加減例御サバキ
 罪ヲ重クシ又ハ輕加テスルノ例規ナリ
 重再犯三犯ナドニテ減輕ツミナカロクスル加ヘテ死刑ニ入ル
 一ヲ得ス 其ノ所犯死刑ニアタルモノハカクベツナレモ再犯ナドニテ罪ヲ

ヲ得ス
 赦ニ因テ復權ヲ得タル者ハ自ラ監視ヲ免シタル者トス
 第六十五條 復權ハ勅裁ニ非サレハ之ヲ得可カラス
 第二章 加減例
 第六十六條 法律ニ於テ刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ後ノ數條ニ記載シタル例ニ照シテ加減ス但加テ死刑ニ入ルヲ得ス
 第六十七條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス
 一 死刑
 二 無期徒刑
 三 有期徒刑
 四 重懲役
 五 輕懲役
 第六十八條 國事ニ關スル重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加減ス

重クスルトモ死刑トスルヲ得ザルナリ
 國事

該相當ス
 記載カキノ

一 死刑
 二 無期徒刑
 三 有期徒刑
 四 重懲役
 五 輕懲役
 第六十九條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス
 下ノ重禁錮ニ該ル者減輕ス可キ時ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス
 第七十條 禁錮罰金ニ該ル者減輕ス可キ時ハ各本條ニ記載シタル刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲シ其加重ス可キ時ハ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一等ト爲ス
 輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ハ加ヘテ七年

刑法

十九

減盡ツクス 短期ミ
ガキ刑算數 スクナ
ノ期限算數 キカズ
加減 オモクシ
カロクシ

零數ハシ
除棄キリス
テル

ニ至ルコト得

第七十一條 禁錮ヲ減盡シタル時ハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シ

タル時ハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下算數

一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スコト得

第七十二條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時ハ禁錮罰金ノ例

ニ照シ其四分ノ一ヲ加減ルヲ以テ一等ト爲ス

違警罪ノ刑ハ加ヘテ輕罪ニ入ルコト得ス但拘留ハ加ヘテ十

二日ニ至ルコト得減シテ一日以下ニ降スコト得ス科料ハ加

テ二圓四十錢ニ至ルコト得減シテ五錢以下ニ降スコト得ス

第七十三條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期限ニ零數ヲ生シ

一日ニ滿サル時ハ之ヲ除棄ス

第七十四條 附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ

一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止ラ主

刑ヲ科ス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條 抗拒ス可カラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サルノ所

爲ハ其罪ヲ論セス

天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可カラサル危難ニ遇ヒ自己若

クハ親屬ノ身體ヲ防衛スルニ出タル所爲亦同シ

第七十六條 本屬長官ノ命令ニ從ヒ其職務ヲ以テ爲シタル

者ハ其罪ヲ論セス

第七十七條 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ハ其罪ヲ論セス但法律規

則ニ於テ別ニ罪ヲ定メタル者ハ此限ニ在ラス

罪ト爲ル可キ事實ヲ知ラスシテ犯シタル者ハ其罪ヲ論セス

罪本重カル可クシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論ス

第四章 不論罪及ヒ減輕
第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

不論罪及ヒ減輕 惡事
ヲ爲スノ意無キノ所
爲ナルヲ以テ之ヲ罪
トシ論セス全ク之ヲ
無罪トシ或ハ宥恕シ
其罪ヲ輕減 宥恕ス
スルヲ云フ 強制ヲ
抗拒スルコト 強制
ラツ所爲シテ 天災又
ハ意外ノ變 暴風洪水
難船戰爭其他非 危難
常ノ變災ナリ
ナイ自己 親屬
ナシハイ職務メ 罪
官ガシラ

トナル可キ事實ヲ知
 例ハ八人ノ妻タ
 ラスルヲ知ラスシテ
 姦通シタル後始メテ
 有夫ノ婦タルヲ知ル
 カ如キヨ 罪本重カル
 レナリ
 可クシテ犯ス時知ラ
 ザル者 例ハ平民ト
 思ヒ毆打シタル
 後始メテ皇族タル
 ナ知リ又ハ夜間盜犯
 ト思料シテ之ヲ歐殺
 シタル後始メテ自分
 ノ親タルヲ知ル
 カ如キヨレナリ 知覺
 精神ノ喪失 瘋癲白痴
 等ニテコ
 ハロノミダ 是非ヨシ
 レタル

ルヲ得ス
 法律規則ヲ知ラサルヲ以テ犯スノ意ナシト爲スヲ得ス
 第七十八條 罪ヲ犯ス時知覺精神ノ喪失ニ因テ是非ヲ辨別セ
 サル者ハ其罪ヲ論セス
 第七十九條 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ論セス但
 滿八歳以上ノ者ハ情狀ニ因リ滿十六歳ニ過キザル時間之ヲ
 懲治場ニ留置スルヲ得
 第八十條 罪ヲ犯ス時滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其所
 爲是非ヲ辨別シタルト否トヲ審案シ辨別ナクシテ犯シタル
 時ハ其罪ヲ論セス但情狀ニ因リ滿二十歳ニ過キザル時間
 之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得
 若シ辨別アリテ犯シタル時ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ
 減ス

第二節
 自首減輕

辨別シテ情狀ニ因
 リ其罪狀惡シキ留置
 リモノト認レハ留置
 トメ 密按
 オク 密按
 瘖啞者シ 懲治場ニシメ
 ノヲメニトメ
 オクトコロ
 自首減輕 己レ犯セシ
 ヲウクワイシテ言ヒ出
 テタルモノノ刑ヲ輕
 減スル 發覺アル謀殺
 ナリ

第八十一條 罪ヲ犯ス時滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ハ其
 罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一等ヲ減ス
 第八十二條 瘖啞者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但情狀
 ニ因リ五年ニ過キザル時間之ヲ懲治場ニ留置スルヲ得
 第八十三條 違警罪ハ滿十六歳以上二十歳ニ滿サル者ト雖モ
 其罪ヲ宥恕スルヲ得ス
 滿十二歳以上十六歳ニ滿サル者ハ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ一
 等ヲ減ス十二歳ニ滿サル者及ヒ瘖啞者ハ其罪ヲ論セス
 第八十四條 此節ニ記載スルノ外特別ノ不論罪宥恕減輕ハ各
 本條ニ於テ之ヲ記載ス
 第二節 自首減輕
 第八十五條 罪ヲ犯シ事未タ發覺セサル前ニ於テ官ニ自首シ
 タル者ハ本刑ニ一等ヲ減ス但謀殺故殺ニ係ル者ハ自首減輕

第三節 酌量減輕

マヘカダヨリシグミ
 ナシテ人ヲ殺ス
 故殺マヘカダハコロ
 スノ心ナク其時
 ノ勢ニテハカラス
 人ヲ殺スコト云フ還
 給カヘ損害ソソク
 賠償
 ツク還償カヘシツ
 ナフ還償グナフ
 被害者ガイナカウ首
 服犯セシ罪ヲ處斷サ
 言出ツル處斷サ
 酌量減輕犯ス所ノ罪
 實恕スヘク憫レムヘ
 キモノアルハ其情
 狀ヲ酌量リテ法律
 ニ定ムル所ノ刑ヲ輕

ノ限ニ在ラス
 第八十六條 財産ニ對スル罪ヲ犯シタル者自首シテ其贓物ヲ
 還給シ損害ヲ賠償シタル時ハ自首減等ノ外仍ホ本刑ニ二等
 ナ減ス其全部ヲ還償セスト雖モ半數以上ヲ還償シタル時ハ
 一等ヲ減ス
 第八十七條 財産ニ對スル罪ヲ犯シ被害者ニ首服シタル者ハ
 官ニ自首スルト同ク前二條ノ例ニ照シテ處斷ス
 第八十八條 此節ニ記載スルノ外本條別ニ自首ノ例ヲ掲ケタ
 ル者ハ各其本條ニ從フ
 第三節 酌量減輕
 第八十九條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯諸狀原諒ス可キ
 者ハ酌量シテ本刑ヲ減輕スルコトヲ得
 法律ニ於テ本刑ヲ加重シ又ハ減輕ス可キ者ト雖モ其酌量

第五章 再犯加重

タスル原諒スル酌量
 ナリ
 再犯加重先ニ罪ヲ犯
 シ既ニ其刑
 ニ處セラレタルモノ
 後ヲ仍ホ悔改セス再
 三罪ヲ犯セシモノ
 刑ヲ重クスルナリ
 管轄地内シハイ
 初犯ハジメテオカ
 裁判確定上訴又ハ上
 告ノ期限過
 キ去リテ其裁
 判ノキマルコト

ス可キ時ハ仍ホ之ヲ減輕スルコトヲ得
 第九十條 酌量減輕ス可キ者ハ本刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス
 第五章 再犯加重
 第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯重罪ニ該ル
 時ハ本刑ニ一等ヲ加フ
 第九十二條 先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯輕罪ニ
 該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ
 第九十三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ
 該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ但一年內再其違警罪裁判所ノ管
 轄地内於テ犯シタル時ニ非レハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス
 第九十四條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ
 論スルコトヲ得ス
 第九十五條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯スニ因リ刑ヲ宣告シタル時

第六加減順序

順序 アトサキ徴收テリタ
常律 コノ刑法ナリ陸海軍裁判所ニテ
モ犯人チコノ刑法ニ據リテ處斷スルコアリ故ニ免罪ルサル
イフ 再犯加重者
加減順序 再犯加重者
減輕酌量減輕ノ例チ一罪同時ニ行フ時ノ順序同時イチ刑名ミ

ハ先ツ其定役ニ服ス可キ者ヲ執行シ定役ニ服セサル者ヲ後ニス若シ初犯再犯共ニ定役ニ服スル刑ニ該ル時又ハ共ニ定役ニ服セサル刑ニ該ル時ハ先ツ其重キ者ヲ執行ス
罰金科料ニ該ル者ハ順序ニ拘ハラス各之ヲ徴收ス
第九十六條 陸海軍裁判所ニ於テ判決ヲ經タル者再ヒ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ非常律ニ從ヒ處斷シタル者ニ非サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス
第九十七條 大赦ニ因テ免罪ヲ得タル者ハ再ヒ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス
第九十八條 三犯以上ノ者ト雖其加重ノ法ハ再犯ノ例ニ同シ
第六章 加減順序
第九十九條 犯罪ノ情狀ニ因リ總則ニ照シ同時ニ本刑ヲ加重減輕ス可キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム但從犯及ヒ未遂犯罪ノ減等其本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス
一 再犯加重
二 宥恕減輕
三 自首減輕
四 酌量減輕
第七章 數罪俱發

第七數罪俱發

數罪俱發 二罪以上俱ルモノ、判決サバ發處分ナリ
アラハル
等同
最重キイナパンオモイ
科イヒツケル

數罪俱發 二罪以上俱ルモノ、判決サバ發處分ナリ
アラハル
等同
最重キイナパンオモイ
科イヒツケル
第一百條 違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若

第九節 數人共犯 第一章 正犯

等シキ者 罪ノ種類等
 云ヒ刑期ノ等シキモ
 ノサイフニ非ス故ニ
 先ニ輕懲役六年ニ處
 セラレ後輕懲役八年
 ニ該ル罪發スルトモ
 罪ノ種類等シケレハ
 輕懲役八年ヲ以テ重
 トナシ更ニ論スル
 ナ通算イシシヨニカ
 シ通算ンヤウスル
 比較
 數人共犯 二人以上申
 合セ共ニ同
 罪ヲ犯シテ 正犯 二人
 以上

シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フ
 第二百二條 一罪前ニ發シ己ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク
 若シクハ等シキ者ハ之ヲ論セス其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ前
 發ノ刑ヲ以テ後發ノ刑ニ通算ス但前發ノ刑罰金科料ニ該リ
 己ニ納完シタル者ハ第二十七條ノ例ニ照シ折算シテ後發ノ
 刑期ニ通算ス
 若シ前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發セサル罪再犯ノ罪ト俱ニ
 發シタル者ハ其再犯ト比較シ一ツノ重キニ從ヒ前發ノ刑ヲ
 通算セス
 第二百三條 數罪俱ニ發シ一ツノ重キニ從フ時ト雖モ其沒収及
 ヒ徵價ノ處分ハ各本法ニ從フ
 第九章 數人共犯
 第一節 正犯

申合セテ現ニ罪ヲ犯
 シタルモノ及ヒ人ヲ
 教唆シテ其罪ヲ犯
 サシメタルモノ
 自ヒトテ 教唆スル
 多數
 指定 何ヤテセヨ
 指圖スル
 以外ノホカ
 指示 カフノセヨ
 トサシツズル

第四百四條 二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自
 ニ其刑ヲ科ス
 第四百五條 人ヲ教唆シテ重罪輕罪ヲ犯サシメタル者亦正犯ト
 爲ス
 第四百六條 正犯ノ身分ニ因リ別ニ刑ヲ加重ス可キ時ハ他ノ正
 犯從犯及ヒ教唆者ニ及キスヲ得ス
 第四百七條 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重ス可キ時ハ教唆者ヲ算
 入シテ多數ト爲スヲ得ス
 第四百八條 事ヲ指定シテ犯罪ヲ教唆スルニ當リ犯人教唆ニ乘
 シ其指定シタル以外ノ罪ヲ犯シ又ハ其現ニ行フ所ノ方法教
 唆者ノ指示シタル所ト殊ナル時ハ左ノ例ニ照シテ教唆者ヲ
 處斷スル一所犯教唆シタル罪ヨリ重キ時ハ止リ其指定シタ
 ル罪ニ從テ刑ヲ科ス

刑法

第二節 從犯

第九章 未遂犯

從犯 其罪ヲ犯スヲ知
テ正犯ヲ助ス
ケ犯罪ヲ容易ナ器具
ヲシメタルモノ
シテ給與スル誘導指
示罪ヲ犯スノ方法
ヲ授クルヲ云フ
豫備 強姦者ノ爲メ婦
女ヲ犯所ニ誘致
シ盜賊ノ爲メ故サラ
ニ門戸ヲ閉ヤタルノ
類ナ 補助スル
テケ
未遂犯罪 罪ヲ犯サン
ハ其豫備ヲ爲シ又ハ
其事ヲ行テ遂ケザル

二 懲罰 懲罰シタル罪ヨリ輕キ時ハ現ニ行フ所ノ罪ニ從テ刑
ヲ科ス
第三節 從犯
第九條 重罪輕罪ヲ犯スヲ知テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指
示シ其他豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ補助シ犯罪ヲ容易ナラシ
ムタル者ハ從犯ト爲シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス但正犯現ニ行
フ所ノ罪從犯ノ知ル所ヨリ重キ時ハ止テ其知ル所ノ罪ニ照
シ一等ヲ減ス
第十條 身分ニ因リ刑ヲ加重ス可キ者從犯ト爲ル時ハ其重
キニ從テ一等ヲ減ス
正犯ノ身分ニ因リ刑ヲ減免ス可キ時ト雖モ從犯ノ刑ハ其輕
キニ從テ減免スルコトヲ得ス
第九章 未遂犯罪

者ヲ豫備シタル
意外 オモヒ障礙
ヲシ
ハ 舛錯
ガヒ

親屬例 此刑法中親屬
ト稱スルモノ
ヲ明示ス稱ヘル
ルナリ

第十一條 罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未
タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ
其刑ヲ科セズ
第十二條 罪ヲ犯サントシテ已ニ其事ヲ行フト雖モ犯人意
外ノ障礙若シハ舛錯ニ因リ未ダ遂ケサル時ハ已ニ遂ゲタル
者ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス
第十三條 重罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ前條ノ例
ニ照シテ處斷ス
輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ本條別ニ記載スルニ
非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス
違警罪ヲ犯サンコトヲ知テ未ダ遂ケサル者ハ其罪ヲ論セス
第十章 親屬例
第十四條 此刑法ニ於テ親屬ト稱スルハ左ニ記載シタル者

配偶者
夫或
ハ妻

高祖父母ノ曾祖父母ノ外
祖父母母方ノ祖父母

- 一 祖父母父母夫妻
- 二 子孫及ヒ其配偶者
- 三 兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 四 兄弟姉妹ノ子及ヒ其配偶者
- 五 父母ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 六 父母ノ兄弟姉妹ノ子
- 七 配偶者ノ祖父母
- 八 配偶者ノ兄弟姉妹及ヒ其配偶者
- 九 配偶者ノ兄弟姉妹ノ子
- 十 配偶者ノ父母ノ兄弟姉妹
- 第百十五條 祖父母ト稱スルハ高曾祖父母外祖父母同シ父母ト稱スルハ繼父母嫡母同シ子孫ト稱スルハ庶子曾孫外孫

發繼母後妻嫡母本妻

庶子ノ子曾孫孫ノ玄

孫孫ノ外孫異姓異父

孫ノ子ハ孫ヲ稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

孫ノ子ハ孫ノ子ト稱スル

同シ兄弟姉妹ト稱スルハ異父異母ノ兄弟姉妹同シ

養子其養家ニ於ル親屬ノ例ハ實子ニ同シ

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第百十六條 天皇三后皇太子ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第百十七條 天皇三后皇太子ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ三月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第百十八條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處ス其危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期徒刑ニ處ス

皇太子 帝位ヲ踐マシメテ

對スル罪ナリ

帝太后 皇太后 皇后

子及ラ皇族ニ對スル罪ナリ

罪ヲ總稱スル

第一章 皇室ニ對スル罪

第百十六條

第百十七條

第百十八條

第二編 公益ニ關スル重罪輕罪 第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事罪 第一節 内亂罪

危害 身體ニ對スル不
敬 尊敬ヲ失スル所爲
ヲ謂フ御前ニ係カ
ルト否ト皇陵、キサ不
敬 發掘汚穢毀損 皇族
敬 スル等ナリ 皇族
皇子皇女皇孫及ヒ皇
太子ノ妃其他皇族ノ
貴號ヲ帶フル天 第二
皇ノ御一族ナリ 第二
章 所謂國事 第一節 内
章 犯ナリ 第一節 内
ノ政治上ニカ、顛覆
ハル罪ヲ云フ 顛覆
現今ノ政府ヲ覆ヘシ
新政府ヲ立ント欲ス
ルノ類 邦土ヲ僭竊シ
ナリ 國內ノ一島若クハ一
地方ヲ押領シテ政府

第三百十九條 皇族ニ對シ不敬ノ所爲アル者ハ二月以上四年以
下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百二十條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者
ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
第二章 國事ニ關スル罪
第一節 内亂ニ關スル罪
第三百二十一條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊
亂スルヲ目的ト爲シ内亂ヲ起シタル者ハ左ノ區別ニ從テ
處斷ス
一 首魁及ヒ教唆者ハ死刑ニ處ス
二 群衆ノ指揮ヲ爲シ其他樞要ノ職務ヲ爲シタル者ハ無期流
刑ニ處シ其情輕キ者ハ有期流刑ニ處ス
三 兵器金穀ヲ資給シ又ハ諸般ノ職務ヲ爲シタル者ハ重禁錮

ノ命令ニ從朝憲ノ法
カハヌナリ 朝廷
度 素亂 ムナリ 目的
テ 區別 ヲカ 首魁 ヲカシ
教唆者 ヲカシ 群衆
オホ 指揮 ヲカシ 樞要 内
セ 機密ニ參與シ其目
的ヲ達スルノ謀計ヲ
爲シタル兵器イグサ資
ルモノ 兵器イグサ資
給 アタ 諸般 兵器金穀
或ハ味方ヲ募集ス 附
ル ナドイロク

ニ處シ其情輕キ者ハ輕禁錮ニ處ス
四 教唆ニ乘シテ附和隨行シ又ハ指揮ヲ受ケテ雜役ニ供シタ
ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
第三百二十二條 内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ兵器彈藥船舶金穀其
他軍備ノ物品ヲ却掠シタル者ハ己ニ内亂ヲ起シタル者ノ刑
ニ同シ
第三百二十三條 政府ヲ變亂スルノ目的ヲ以テ人ヲ謀殺シタル
者ハ兵ヲ擧ルニ至ラスト雖モ内亂ト同ク論シ其教唆者及ヒ
下手者ヲ死刑ニ處ス
第三百二十四條 前三條ノ罪ハ未遂犯罪ノ時ニ於テ乃チ本刑ヲ
科ス
第三百二十五條 兵隊ヲ招募シ又ハ兵器金穀ヲ準備シ其他内亂
ノ豫備ヲ爲タル者ハ第三百二十一條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二節 外患ニ關スル罪

等ニ使役セシ彈藥ヲス
 船舶ヲ軍備ノヨウ
 劫掠カスメトル
 亂カヘミ下手者
 シタル 招募ヨセア
 モノ 陰謀ヒソカニ
 集會所トコロ重キ
 ニ從テ國事犯ト常事
 二從フナリ
 第二節 外國ニクミシ
 ナ害スル外國ニ與シ
 罪ナ云フ

内亂ノ陰謀ヲ爲シ未タ豫備ニ至ラサル者ハ各二等ヲ減ス
 第三百二十六條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シタル者ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス
 第三百二十七條 内亂ノ情ヲ知テ犯人ニ集會所ヲ給與シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第三百二十八條 内亂ニ乘シテ人ノ身體財産ニ對シ内亂ノ目的ニ關セサル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ通常ノ刑ニ照シ重キニ從テ處斷ス
 第二節 外患ニ關スル罪
 第三百二十九條 外國ニ與シテ本國ニ抗敵シ又ハ外國ト交戰中同盟國ニ抗敵シ其他本國ニ背叛シテ敵兵ニ附屬シタル者ハ死刑ニ處ス

テ日本ノ敵國タル外
 抗敵テキ交戰ニダガヒ
 カ同盟國日本ノ背叛
 ソム 附屬ノ誘導
 管内シハイ都府
 城塞シロト交付ス
 軍情機密
 カリコトハ漏泄ス
 集アツマル要地
 ノバ險夷ヨシ間諜
 シヨモ藏匿カマウ委任

第三百三十條 交戰中敵兵ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ本國及ヒ同盟國ノ都府城塞又ハ兵器彈藥船艦其他軍事ニ關スル土地家屋物件ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス
 第三百三十一條 本國及ヒ同盟國ノ軍情機密ヲ敵國ニ漏泄シ若クハ兵隊屯集ノ要地又ハ道路ノ險夷ヲ敵國ニ通知シタル者ハ無期流刑ニ處ス
 敵國ノ間諜ヲ誘導シテ本國管内ニ入ラシメ若クハ之ヲ藏匿シタル者亦同シ
 第三百三十二條 陸海軍ヨリ委任ヲ受ケ物品ヲ供給シ及ヒ工作ヲ爲ス者交戰ノ際敵國ニ通謀シ又ハ其略遺ヲ收受シテ命令ニ違背シ軍備ノ缺乏ヲ致シタル時ハ有期流刑ニ處ス
 第三百三十三條 外國ニ對シ私ニ戰端ヲ開キタル者ハ有期流刑ニ處ス其豫備ニ止ル者ハ一等又ハ二等ヲ減ス

刑法

第三章 靜謐ヲ害スル罪 第一節 兇徒聚衆ノ罪

マカセ供給シテ工作
ヲルハ供給ス
サイ通謀アハセ賂遺
クワイ收受トリ命令ヲ
シツケ違背ク 軍備
イグサ缺乏コトヲ戰
ヤウイ 欠乏カク
端ヲ開キ ハジメル局
外中立 外國ト外國ト
互ニ戰爭ヲ開
キタル時本國ハ何レ
ノ一方ニモ與セスノ
局外ニ獨 第三節 一般
立スル 第一節 平
和ヲ害シ民間ノ騷
擾ヲ致ス罪ナリ 第
一節 數人呼集シテ官

第三百三十四條 外國交戰ノ際本國ニ於テ局 外中立ヲ布告シ
タル時其布告ニ違背シタ者ルハ六月以上三年以下ノ輕禁錮
ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百三十五條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル
者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
第三章 靜謐ヲ害スル罪
第一節 兇徒聚衆ノ罪
第三百三十六條 兇徒多衆ヲ嘯聚シ暴動ヲ謀リ官吏ノ説諭ヲ受
クルト雖モ仍ホ解散セサル者首魁及ヒ教唆者ハ三月以上三
年以下ノ重禁錮ニ處ス附和隨行シタル者ハ二圓以上五圓以
下ノ罰金ニ處ス
第三百三十七條 兇徒多衆ヲ嘯聚シテ官廳ニ喧鬧シ官吏ニ強逼
シ又ハ村市ヲ騷擾シ其他暴動ヲ爲シタル者首魁及ヒ教唆者
ハ重懲役ニ處ス其嘯聚ニ應シ煽動シテ勢ヲ助タル者ハ輕懲
役ニ處シ其情輕キ者ハ一等ヲ減ス附和隨行シタル者ハ二圓
以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百三十八條 暴動ノ際人ヲ殺死シ若ハ家屋船舶倉庫等ヲ燒
燬シタル時ハ現ニ手テ下シ及ヒ火ヲ放者ヲ死刑ニ處ス首魁
及ヒ教唆者情ヲ知テ制セサル者亦同シ
第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪
第三百三十九條 官吏其職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シ又ハ行政
司法官署ノ名令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其官吏ニ
抗拒シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上
五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
暴行脅迫ヲ以テ其官吏ノ爲ス可カラサル事件ヲ行ハシメタ
ル者亦同シ

第二節 官吏ノ職務ヲ妨害スル罪

ヲ謀リ又ハ暴動スル
ノ罪ニシテ所請一擧
暴動兇徒モノ多衆イ
ゼ嘯聚ツメ 暴動ア
マヲ 説諭サト 解散キ
ル 附和隨行 テニシ
ニクハ官廳 オヤク喧
ハル トキノコエチア強
關 ゲテツメヨスル
逼 オドシ村市 マチ騷
逼 ツケル村市 マチ騷
撮 サワ煽動 アチギ
殺死 ス コロ 倉庫ヲ燒燬
ヤ制トハ 第二節 人民

刑 法
三十九

第三節 囚徒逃走及犯人及人及走囚徒逃罪隠スル罪

又ハ二人ノ小數ニテ官吏ノ職務上ニ對シテ妨害ヲナシタ職務トメモチ執行コナフ官署ヨク命令ケサシツ暴行シテアラク脅迫シケル抗拒カヒ毆傷ヲヤウシ 毆打創傷編第三節 二目前メノ形容アリ言語バ 侮辱 アナドカシ 刊行 スルニ 文書シヨ 圖書 ヲ公然セイ

第四百十條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ官吏ヲ毆傷シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
第四百十一條 官吏ノ職務ニ對シ其目前ニ於テ形容若クハ言語ヲ以テ侮辱シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其目前ニ非スト雖モ 刊行ノ文書圖書又ハ公然ノ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

第四百十二條 已決ノ囚徒逃走シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ獄舎獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
第四百十三條 已決ノ囚徒逃走シ罪ヲ犯スト雖モ再犯ヲ以テ

トトヨリシ第三節 未決已決ノ囚徒自ラ逃走シ又ハ他人コレヲ逃走セシメ若クハ未決捕ニ就カサル犯人又ハ逃走ノ囚人或ハ監視ニ付セラレタル者ナルヲ知リテ之ヲ藏匿スル者ナリ 已決ノ囚徒トシテ逃走シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

セス其刑期限内再ヒ逃走シタル者ハ再犯ヲ以テ論ス
第四百十四條 未決ノ囚徒入監中逃走シタル者ハ第四百十二條ノ例ニ同シ但原犯ノ罪ヲ判決スル時ニ於テ數罪俱發ノ例ニ照シテ處斷ス
第四百十五條 囚徒三人以上通謀シテ逃走シタル時ハ第四百十二條ノ例ニ照シテ各一等ヲ加フ
第四百十六條 囚徒ヲ逃走セシムル爲メ兇器其他ノ器具ヲ給與シ又ハ逃走ノ方法ヲ指示シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス囚徒ノ逃走ヲ致シタル時ハ一等ヲ加フ
第四百十七條 囚徒ヲ劫奪シ又ハ暴行脅迫ヲ以テ囚徒ノ逃走ヲ助ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

判決 サイ ハン 數罪俱發 第一
 第七章 通謀 マナシ アハセ 兇器
 人ヲコロスニダ 器具
 ルベキダウツ
 獄舎獄具ヲ毀給與
 壞スベキ道具
 シアタ 方法 テ 指示
 フル
 サシ 劫奪 看守者或ハ
 ヅ 護送者ニ對
 シ強力ヲ用テ囚徒ヲ
 獄舎又ハ途中ニテ劫
 奪スル 看守 ミ ハ 護送
 ナリ
 ケイ 懈怠 ユダ 藏匿 カ
 コ シカ 隱避 カクレヨ
 マフ 隠避 ケサスル

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ輕懲役ニ處ス
 第四百四十八條 囚徒ヲ看守シ又ハ護送スル者囚徒ヲ逃走セシ
 メタル時ハ亦前條ノ例ニ同シ
 第四百四十九條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ
 遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第四百五十條 看守又ハ護送者其懈怠ニ因リ囚徒ノ逃走ヲ覺ラ
 サル時ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ三圓以上三十
 圓以下ノ罰金ニ處ス
 第四百五十一條 犯罪人又ハ逃走ノ囚徒及ヒ監視ニ付セラレタ
 ル者ナルコトヲ知テ之ヲ藏匿シ若キハ隱避セシメタル者八十
 一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰
 金ヲ附加ス

罪證 ツミ ノシ 物件 シ
 モ 隱蔽 カク
 ノ

若シ重罪ノ刑ニ處セラレタル囚徒ニ係ル時ハ一等ヲ加フ
 第四百五十二條 他人ノ罪ヲ免カレシメンコトヲ圖リ其罪證ト爲
 ル可キ物件ヲ隱蔽シタル者八十一日以上六月以下ノ輕禁錮
 ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第四百五十三條 前二條ノ罪ヲ犯シタル者犯人ノ親屬ニ係ル時
 ハ其罪ヲ論セス

第四節 附加刑
 ノ執行
 罪

第四節 附加刑ヲ遁レ
 リナ
 違背 ツム
 グ

第四百節 附加刑ノ執行ヲ遁ル、罪
 第四百五十四條 公權ヲ剝奪セラレ又ハ公權ヲ停止セラレタル
 者私ニ其權ヲ行ヒタル時ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處
 シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第四百五十五條 監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時
 ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
 第四百五十六條 前二條ノ罪ハ其刑期限内再ヒ犯シタル時ニ非

第五節 軍用私銃
銃彈製造及私
銃製造及私
銃所有スル
罪

第五節 一般人民ノ使
用シ得可キ尋
常ノ銃砲彈藥ニア
ラズノ專ラ軍用ニ
供ス可キ者ヲ製
造シ及ヒ所有シ
タルモノノ罪
ナ官命ヒツケ
官許カミノ銃
礮コツ、オ
ユルシ
彈藥タマク
破裂質ハ
ルタ製造
コシテ輸入
チ外國ヨリ販
賣ウリサ
買入レル
職工製造シ
タ雇人入
シタル使令
ツカハ前
雇人
項マヘノ所
有モツテ

サレハ再犯ヲ以テ論スルコトヲ得ス
第五節 私ニ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造シ及ヒ所有スル罪
第百五十七條 官命ヲ受ケス又ハ官許ヲ得スシテ陸海軍ノ用
ニ供スル銃砲彈藥其他破裂質ノ物品ヲ製造シタル者ハ二月
以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金
ヲ附加ス其之ヲ輸入シタル者亦同シ
前項ノ物品ヲ私ニ販賣シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁
錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第百五十八條 前條ノ罪ヲ犯スト雖モ職工又ハ雇人ニシテ止
マ正犯ノ使令ニ供シタル者ハ各木刑ニ照シ二等ヲ減ス
第百五十九條 前二條ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ
未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第百六十條 第百五十七條ニ記載シタル物品ヲ私ニ所有シタ
ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シ
タル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハ
ズ之ヲ沒收ス
第六節 往來通信ヲ妨害スル罪
第百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタ
ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ヲ附加ス
第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ
阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ
第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ
電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六節 往來通信
ノ妨害スル
罪

器械ヲ單ニ其用ニ
供ス可キ者軍用ノ器
械ニシテ
他ノ用ニ供ス
可サルモノ
第六節 道路及ヒ氣車
船舶ノ往來ヲ
妨害シ又ハ郵便電信
ノ通信ヲ妨害ノ一般
ノ公益ヲ害道路クワ
スル罪ナリ
橋梁シ河溝カハ港
埠トバ損壞キツハケ
往來ノ妨害マ偽
計ハカリ

ル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第百六十一條 第百五十七條ニ記載シタル物品ノ製造ニ供シ
タル器械ニシテ單ニ其用ニ供ス可キ者ハ何人ノ所有ヲ問ハ
ズ之ヲ沒收ス
第六節 往來通信ヲ妨害スル罪
第百六十二條 道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタ
ル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ヲ附加ス
第百六十三條 偽計又ハ威力ヲ以テ郵便ヲ妨害シ若クハ之ヲ
阻止シタル者ハ亦前條ニ同シ
第百六十四條 電信ノ器械柱木ヲ損壞シ又ハ條線ヲ切斷シテ
電氣ヲ不通ニ致シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處
シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

威力ヲ阻止スル
電信ノ器械電信局ニ
器械柱木ハシ條線
ノハリ切斷キ不通ニ
致シタル者トホラヌ
ル瀛車キシヤ標識
シ危険ノ障礙
燈臺トウミヤ浮標
航海ウミヲ殺傷シ
ルハハキ毆打創傷
編第顛覆ヒツクリ覆
四節顛覆カハス

若シ器械柱木條線ヲ損壞シテ電信ノ妨害ヲ爲スト雖モ不通
ニ至ラサルハ一等ヲ減ス
第百六十五條 瀛車ノ往來ヲ妨害スル爲メ鐵道及ヒ其標識
損壞シ其他危険ナル障礙ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス
第百六十六條 船舶ノ往來ヲ妨害スル爲メ燈臺浮標其他航海
ノ安寧ヲ保護スル標識ヲ損壞シ又ハ訴偽ノ標識ヲ點示シ
ル者ハ亦前條ニ同シ
第百六十七條 前數條ニ記載シタル罪其事務ニ關スル官吏及
ヒ雇人職工自ラ犯シタル時ハ各本刑ニ照シ一等ヲ加フ
第百六十八條 第百六十二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ殺傷シタル
者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第百六十九條 第百六十五條第百六十六條ノ罪ヲ犯シ因テ瀛
車ヲ顛覆シ又ハ船舶ヲ覆没シタル時ハ無期徒刑ニ處ス人ヲ

第七節 人ノ住所ノ侵入
ス

没シツクムル未遂
犯罪 第九章 編
第七節 人ノ住所ノ侵入
テ入りタル晝間
人ノ住居シタル邸宅
人ノ平生寢食ヲ爲ス
家屋及ヒ其牆扉内ヲ
云人ノ看守シタル建
造物看守人アル社寺
牆壁カキ踰越コユ損
壞キツツカ鎖鑰シヨ
コハス足ル可キ物
イ兇器ヲ殺スニ犯

死ニ致シタル時ハ死刑ニ處ス
第百七十條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケ
サル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第七節 人ノ住所ノ侵入罪
第百七十一條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守
シタル建造物ニ入りタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮
ニ處ス
若シ左ニ記載シタル所爲アル時ハ一等ヲ加フ
一 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ又ハ鎖鑰ヲ開キテ入りタル時
二 兇器其他犯罪ノ用ニ供ス可物品ヲ攜帶シテ入りタル時
三 暴行ヲ爲シ入りタル時
四 二人以上ニテ入りタル時
第百七十二條 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅又ハ人ノ看守

第八節 官印ノ破封
罪ヲスル

罪ノ用ニ供ス可キ物
品ノ類ナリ 暴行
ヲキ 皇居 禁苑
コト 離宮 行在
ハ 所カリ 皇陵 第八
節 官署ヨリ物件ノ紛
失ヲ豫防スル爲メ
特別ニ施シタル封印
ヲ私ニ破棄スル罪ナ
リ 官署 倉庫 破
ヒ 特別ニ 倉庫 破
棄スル 盜取 ススミ 毀
壞スル 懈怠

シタル建造物ニ入タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
若前條ニ記載シタル加重ス可キ所爲アル時ハ一等ヲ加
第七十三條 故ナク皇居禁苑離宮行在所及ヒ皇陵内ニ入
リタル者ハ前二條ノ倒ニ照シ各一等ヲ加フ
第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪
第七十四條 官署ノ處分ニ因リ特別ニ家屋倉庫其他ノ物件
ニ施シタル封印ヲ破棄シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁
錮ニ處ス
若シ看守者自ラ犯シタル時ハ一等ヲ加フ
第七十五條 官ノ封印ヲ破棄シテ其物件ヲ盜取シ又ハ毀壞
シタル者ハ盜罪及ヒ毀壞ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第七十六條 看守者其懈怠ニ因リ封印ヲ破棄シ又ハ其物件
ヲ盜取毀壞スル犯人アルコトヲ覺ラサル時ハ二圓以上二十圓

第九節 公務ヲ拒ム罪

第九節 公然ノ職務ヲ
行フ可キ責任
アル者其職務ヲ行フ
ヲ拒ミ一般ノ公益ヲ
害スル要求モト編入
罪ナリ 要求 ムル 編入
ル 毀傷 ツケ 疾病
ヲ作爲シ ヲウキチ
詐僞ノ所爲 或ハ伴狂
ハ僞テ 免役 兵
爲ルノ類 免役 兵
ナルハ 圖クフ 囑託ノ
ム 詐稱 イツワリ 徵募
メシテ 化學家 セイミ
ツメル

以下ノ罰金ニ處ス
第九節 公務ヲ行フヲ拒ム罪
第七十七條 陸海軍ノ將校タル者出兵ヲ要求スル權アル官
署ヨリ其要求ヲ受ケ故ナク之ヲ肯セサル時ハ二月以上二
年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第七十八條 陸海軍ノ徵兵ニ編入セラル可キ者身體ヲ毀傷
シテ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ以テ免役ヲ圖リタル時
ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス
若シ他人ニ囑託シ其氏名ヲ詐稱シ代テ徵募ニ應セシメタル
者亦同シ其囑託ヲ受ケテ徵募ニ應シタル者ハ第二百三十一
條ノ例ニ照シテ處斷ス
第七十九條 醫師化學家其他職業ニ因リ官署ヨリ解剖分析

第四章 信用ノ罪
第一節 貨幣ノ偽造スル罪

職業シゴト 解剖ヲケナリ毒殺ノ死屍ヲ解剖セシム醫師ノ職ナリ分析毒物ナドヲ分析ス化学家ノ職ナリ鑑定テ衣着商ヲシ定セシムル肯シヨ傳ナトナリ肯ウチ傳染病ウツル入港トニハイ検査メル消滅ケ方法テタ陳述ノベ獸類ケダモ獸醫ケダナリヤウチ第四章信用ノ罪スルイシヤ第四章信用ノ罪スル人民ノ平和ヲ害スル罪ヲ云フ

又ハ鑑定ヲ命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス
第百八十一條 裁判所ヨリ證人トシテ證據ヲ陳述スルコト命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ又前條ニ同シ
第百八十二條 傳染病流行ノ際又ハ傳染病ノ疑アル船舶入港スルニ當リ醫師其病患ヲ検査シ又ハ消滅ノ方法ヲ陳述スルコト命セラレタル者故ナクシテ之ヲ肯セサル時ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
獸類傳染病流行ノ際獸醫此條ノ罪ヲ犯タル時ハ一等ヲ減ス
第四章 信用ノ罪
第一節 貨幣ヲ偽造スル罪
第百八十二條 內國通用ノ金銀貨及ヒ紙幣ヲ偽造シテ行使シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第一節 價金ヲヨシラ内國通用日本國偽造ニセツ行使ツカ變造タトヘハ紙幣一圓ノ文字ヲ十圓ト爲シ又ハ金銀ヲ削リ取テ其量目ヲ減スルナドナリ
外國ノ金銀貨西洋ノ通用銀官許カミノ發貨ナリ官許ユルシ發行シタル外國ノ銀行紙幣橫濱ニ於テ發行スル洋銀切手ノ非

若シ變造シテ行使タル者ハ輕懲役ニ處ス
第百八十三條 內國ニ於テ通用スル外國ノ金銀貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ有期徒刑ニ處ス
若シ變造シテ行使シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
第百八十四條 官許ヲ得テ發行スル銀行ノ紙幣ヲ偽造シ若シハ變造シテ行使シタル者ハ内外國ノ區別ニ從ヒ前二條ノ例ニ照シテ處斷ス
第百八十五條 內國通用ノ銅貨ヲ偽造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ變造シテ行使シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
第百八十六條 前數條ニ記載シタル貨幣ノ偽造變造己ニ成テ

偽造ノ器械模型板着
手テチツケ情ウチ補
助テダ雜役コマツ
ステケカヒ

房屋ガシ
キ

輸入ハコビ
コム

取受トル
ウケ

未タ行使セサル者ハ各本刑ニ照シ一等ヲ減シ其未タ成ラサ
ル者ハ二等ヲ減ス

若シ偽造ノ器械ヲ豫備ノ未タ着手セサル者ハ各三等ヲ減ス
第百八十七條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ雇ヲ受ケタル
職工ハ前數條ニ記載シタル犯人ノ受ク可キ刑ニ照シ各一等
ヲ減ス

若シ職工ノ補助ヲ爲シテ雜役ニ供シタル者ハ職工ノ刑ニ照
シ一等又ハ二等ヲ減ス

第百八十八條 貨幣ヲ偽造變造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給與シ
タル者ハ偽造變造ノ各本刑ニ照シ二等ヲ減ス

第百八十九條 偽造變造ノ貨幣ヲ内國ニ輸入シタル者ハ偽造
變造ノ刑ニ同シ

第百九十條 偽造變造ノ情ヲ知テ其貨幣ヲ取受シ之ヲ行使シ

タル者ハ偽造變造シテ行使シタル者ノ刑ニ照シ各二等ヲ減
ス其未タ行使セサル者ハ各三等ヲ減ス

第百九十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處ス
ル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第百九十二條 貨幣ヲ偽造變造シ及ヒ輸入取受シタル者未タ
行使セサル前ニ於テ官ニ自首シタル時ハ本刑ヲ免シ六月以
上三年以下ノ監視ニ付ス

若シ職工雜役及ヒ房屋ヲ給與シタル者未タ行使セサル前ニ
於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第百九十三條 貨幣ヲ取受スルノ後ニ於テ偽造又ハ變造ナル
ヲ知リ之ヲ行使シタル者ハ其價額ニ倍ノ罰金ニ處ス但其
罰金ハ二圓以下ニ降ス

第二節 官印ヲ偽造スル罪

第二節 官印
偽造スル罪

二圓以下ニ降ス
得ズ假令事一錢ノ銅
貨ニ係ルト雖モ
此額ヨリ降
スヲ得ス 第二節 官
印

自首
シブンデマ
チシイダル

價額
アタヒ
ノタカ

即ち御璽國璽各官署ノ印其他官ニ屬スル記号印章影蹟等ヲ御偽造スルノ罪ナリ
 天皇御璽ト刻シ勅任官ノ辭令書等ニ捺用セラレ國璽大日本ル、モノ國璽國璽ト彫リ勅章及外交ニ付テノ書ニ鈐セラル、モノ偽璽ニセ使用ツカ各官署ノ印官省院廳判所郡區役所其他各部局課等ノ印ナリ
 產物 生絲製茶魚肉獸肉織物其他土地ニ產出スル 商品 度量モノヲ云フ 衡ナドナ記號シル 印章

第百九十四條 御璽國璽ヲ偽造シ又ハ其偽璽ヲ使用シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
 第百九十五條 各官署ノ印ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ重懲役ニ處ス
 第百九十六條 產物商品等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス
 又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ輕懲役ニ處ス
 書籍什物等ニ押用スル官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ其偽印ヲ使用シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第百九十七條 御璽國璽官印記號印章ノ影蹟ヲ盜用シタル者ハ前數條ニ記載シタル偽造ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス
 若シ監守者自ラ犯シタル時ハ偽造ノ刑ニ同シ
 第百九十八條 官ヨリ發行スル各種ノ印紙界紙及ヒ郵便切手ヲ偽造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタル者ハ一年以上

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

バ書籍モツ什物モノノ影蹟ヲ盜用シタル者眞正ノ印ヲ探テコレヲ押捺シ其印影ヲ用ユルモノ 監守者リニ印紙 證券印紙烟草賣藥印紙 界紙 訟訴用等ナリ 界紙 訟訴用券界紙 已ニ貼用シタルモノトハリ 第三節 官ノ文書即チ詔書各官署ノ文書公債證書地券等官府ヨリ發行スル者ヲ偽造スルノ罪ナリ 詔書 勅旨ノ文書

五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第百九十九條 已ニ貼用シタル各種ノ印紙及ヒ郵便切手ヲ再ヒ貼用シタル者ハ二圓以上二十圓以上ノ罰金ニ處ス
 第二百條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第二百一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
 第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪
 第二百二條 詔書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ無期徒刑ニ處ス
 其詔書ヲ毀棄シタル者亦同シ
 第二百三條 官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四節 私印私書
罪スル偽私

チイ 偽造ニセツ 増減
フノ 文書ヲマシ 變換
タリヘラシタリ 毀棄
文意ヲ更メ筆畫
ヲ改描スルナリ
全部或ハ幾部ヲ破
毀切斷スルナリ
使ツカ 公債證書 新舊
證書秩祿公債證書金
札引換公債證書金祿
公債證書ノ類 公証地
質入賣買ニ戸長與
書ヲ爲ス等ナリ
掌ツカサ
トル

第四節 人民各自ニ所
持スル實印又

ハ銀行會社等ノ印章
民間凡百ノ証書手形
切手等ヲ偽造ス 他人
ルノ罪ナリ
ヨソノ 使用ツカ 印影
ヒト
眞正ノ印ニテ 押交換
捺シタルモノ 交換
ヒキ 賣買ツカ 貸借シ
カヘ 賣買ツカ 貸借シ
カ 贈遺ツカ 權利義
務ニ關スル証書 不動産
產ノ賣買約定証書或
ハ金穀土地家作ノ貸
借約定証書或ハ諸請
負証文或ハ親族ニ贈
遺物ノ證書或ハ年金
証文諸敷金証文或ハ
土地物件ノ交換証書
委任狀寄託書返金証

ソノ官ノ文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百四條 公債證書地券其他官吏ノ公證シタル文書ヲ偽造
シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス
若シ無記名ノ公債證書ニ係ル時ハ一ナチ加等フ

第二百五條 官吏其管掌ニ係ル文書ヲ偽造シ又ハ増減變換
シテ行使シタル者ハ前二條ノ例ニ照シ各一等チ加フ
其文書ヲ毀棄シタル者亦同シ

第二百六條 官ノ文書ヲ偽造スルニ因テ官印ヲ偽造シ又ハ盜
用シタル者ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第二百七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ刑罪ノ刑
ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四節 私印私書ヲ偽造スル罪
第二百八條 他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シタル者ハ六月以上

五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金チ附加
ス若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等チ減ス

第二百九條 爲替手形其他裏書ヲ以テ賣買スヘキ証書若クハ
金額ト交換ス可キ約定手形ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使
シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其手形証書ニ詐偽ノ裏書ヲ爲シテ行使シタル者亦同シ
第二百十條 賣買貸借贈遺交換其他權利義務ニ關スル証書チ
偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ四月以上四年以下

ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金チ附加ス
其餘ノ私書チ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者一月以
上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金チ附
加ス

第二百十一條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ遂

刑法

第五節 免狀及免狀
札及免狀
疾病及免狀
書及免狀
造及免狀
罪及免狀

預狀ノ類
類ナリ其餘ノ私書手
受領書ノ類

第五節 米商會所開業
免狀版權免許
狀其他諸學術ニ管ス
ル卒業免狀諸營業ニ
管スル各種ノ鑑札醫
師ノ診斷書等ヲ偽造
スルノ盜用リテツカ
罪ナリ
屬籍所身分華士族
氏名メウ詐稱リトナ
フ下付サゲツ
公務

ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
第二百十二條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル
者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ附ス

第五節 免狀鑑札及ヒ疾病證書ヲ偽造スル罪

第二百十三條 官ノ免狀又ハ鑑札ヲ偽造シ行使シタル者ハ一
月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金
ヲ附加ス但官印ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時ハ偽造官印ノ
各本條ニ照シテ處斷ス

第二百十四條 屬籍身分氏名ヲ詐稱シ其他詐偽ノ所爲ヲ以テ
免狀鑑札ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處
シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百十五條 公務ヲ免カル可キ爲メ醫師ノ氏名ヲ用ヒ疾病
證書ヲ偽造シ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メ
ニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上
三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

自己

囑託

徵兵

第六節 証人トシテ裁
判所ニ呼出サ

第六節 証人トシテ裁
判所ニ呼出サ
レタルモノ裁判官ニ
對シ宣誓ヲナシタル
後不實ノ陳述曲庇
ヲ爲ス罪ナリ曲庇
テカ事實コト掩蔽カ
バフ事實カラ掩蔽ク

第六節 偽証ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタ
ル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽証ヲ爲シタル
時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使
シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ
偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造
リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ
偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造
リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

證書ヲ偽造シ行使シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メ
ニスルヲ分タス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上
三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

醫師囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造リタル者ハ一等ヲ加フ

第二百十六條 陸海軍ノ徵兵ヲ免カル可キ爲メ疾病ノ證書ヲ
偽造シテ行使シタル者及ヒ囑託ヲ受ケテ其詐偽ノ證書ヲ造
リタル醫師ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使
シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第二百十七條 免狀鑑札及ヒ疾病ノ證書ヲ増減變換シテ行使
シタル者ハ亦偽造ノ刑ニ同シ

第六節 偽証ノ罪

第二百十八條 刑事ニ關スル証人トシテ裁判所ニ呼出サレタ
ル者被告人ヲ曲庇スル爲メ事實ヲ掩蔽シテ偽証ヲ爲シタル
時ハ左ノ例ニ照シテ處斷ス

第六節 偽証ノ罪

ス偽造イッハリシヨウコ

正當ホウ
タウ

陷害ワサトオト
シイル

發覺アラ反坐人ヲ陷
罪ニ打反ソ又偽証者
ナ其罪ニ處スルコトナ
リ例ヘハ二年以上五
年以下ノ重禁錮ニ處
ス可キモノヲ陷害シ
テ輕懲役ニ處シタル
ハ偽証者ヲ其輕懲
役ニ反坐スルヲ云フ
經過スルサ
リタル

一重罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ二月以上二年以下ノ

重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ一月以上一年以下ノ

重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三違警罪ヲ曲庇スル爲メ偽証シタル者ハ違警罪ノ本條ニ依

テ處斷ス

第二百十九條 偽證ノ爲メ被告人正當ノ刑ヲ免カレタル時ハ

偽證者ノ刑前條ノ例ニ照シ各一等ヲ加フ

第二百二十條 被告人ヲ陷害スル爲メ偽証ヲ爲シタル者ハ左

ノ刑ニ照シテ處斷ス

一重罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ二年以上五年以下

ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二輕罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ六月以上二年以下

ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

三違警罪ニ陷ラシムル爲メ偽証シタル者ハ一月以上三月以

下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十一條 偽証ノ爲メ被告人刑ニ處セラレタル後ニ於

テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ偽証者ヲ其刑ニ反坐ス若シ反坐

ノ刑前條ニ記載シタル偽証ノ刑ヨリ輕キ時ハ前條ノ例ニ照

シテ處斷ス

其刑期限内ニ於テ偽証ノ罪發覺シタル時ハ現ニ經過シタル

日數ニ照シテ反坐ノ刑期ヲ減スルコトヲ得但減シテ前條偽証

ノ刑ヨリ降スコトヲ得ス

第二百二十二條 偽証ノ爲メ被告人死刑ニ處セラレタル時ハ

反坐ノ刑一等ヲ減ス其未ク刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シ

タル時ハ二等ヲ減ス

目的
テ

鑑定 事物ノ良否若ク
ハ價直其他各種
ノ見定メテ命 通事
外
セラレタル者
人等國語ニ通セサル
者或ハ瘖啞者ノ爲ニ
通事ヲ賄賂 ナイ其他
爲ス者 詐欺脅迫結
ノ方法 約威權等

若シ被告人ヲ死ニ陥ル、ノ目的ヲ以テ偽証ヲ爲シタル時ハ
死刑ニ反坐ス其未タ刑ヲ執行セサル前ニ於テ發覺シタル時
ハ一等ヲ減ス

第二百二十三條 民事商事又ハ行政裁判ニ關シテ偽証ヲ爲シ
タル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百二十四條 鑑定又ハ通事ノ爲メ裁判所ニ呼出サレタル
者詐僞ノ陳述ヲ爲シタル時ハ前數條ニ記載シタル偽証ノ例
ニ照シテ處斷ス

第二百二十五條 賄賂其他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽証又
ハ詐僞ノ鑑定通事ヲ爲シメタル者ハ亦偽証ノ例ニ同シ

第二百二十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者其事件ノ
裁判宣告ニ至ラサル前ニ於テ自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第七節
度量衡
ヲ偽造
スル罪

第七節 度量衡ノ三器
ハ官其定規ニ
違ハサルヲ証スル
爲メ偽印シテ之ヲ發
行シ人民ヲシテ信ヲ
措キ使用セシムルモ
ノナリ故ニ之ヲ偽造
スルハ乃チ公衆ノ信
用ヲ害スモノ量
ル罪ナリ 度サシ
衡ハガ

第七節 度量衡ヲ偽造スル罪

第二百二十七條 度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シテ販賣シタル者
ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ
罰金ヲ附加ス但官ノ記號印章ヲ偽造シ又ハ盜用シタル時
ハ偽造官印ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 偽造變造ノ情ヲ知テ其度量衡ヲ販賣シタル
者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ減ス

第二百二十九條 商賈農工定期ヲ増減シタル度量衡ヲ所有シ
タル者ハ一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓
以下ノ罰金ヲ附加ス

若其度量衡ヲ使用ノ利ヲ得タル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス
第二百三十條 人ノ囑託ヲ受ケテ度量衡ヲ偽造シ又ハ變造シ
タル者ハ其囑託シタル犯人ノ刑ニ照シ各一等ヲ減ス

第八節 身分詐稱

使用ニ買賣交換上納等
詐偽取財 第三編第二
章第五節

第八節 貴ニシテ賤ト
テ貴ト詐稱シ官ヲ欺
キ八ナテ罔フルノ罪ナ
リ 文書モノ言語コウ
ウ 屬籍住所身分華士族
平氏

第八節 身分詐稱スル罪
第二百三十一條 官署ニ對シ文書又ハ言語ヲ以テ其屬籍身分
氏名年齢職業ヲ詐稱シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金
ニ處ス

第九節 公選ノ
投票ノ
偽造
スル
罪

氏名メウ年齢幼者ニ
ト稱ス職業假ヘハ賣
ルノ類 藥業ヲナ
セシモノ兩換店官職
ト稱スルノ類 官職
メヤシ位階官ノ服
飾大禮服陸海軍及ヒ
警察官ノ正服ノ類

第二百三十二條 官職位階ヲ詐稱シ又ハ官ノ服飾徽章若クハ
内外國ノ勳章ヲ僭用シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁
錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 公選ノ
投票ノ
偽造
スル
罪

第九節 公選ノ投票ヲ偽造スル罪
第二百三十三條 公選ノ投票ヲ偽造シ又ハ其數ヲ増減シタル
者ハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下
ノ罰金ヲ附加ス

徵章勳章ノ
御紋ノ
勳章ノ
シ借用
モナウル

第二百三十四條 賄賂ヲ以テ投票ヲ爲サシメ又ハ賄賂ヲ受ケ
テ投票ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ三
圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五章 健康
第一節 阿片烟

投票ニウ
檢査シテ
算カツ
報セル
ノ人民ニ
一節 阿片烟ハ
精ヲ耗
チ害スル
キナシ故ニ
此章ノ設

若クハ戸長ヲ撰ミ共
同事務ヲ處分スル總
代ハ撰任スル投票
ヲ偽造スルノ罪ナリ
投票ニウ檢査シテ
算カツ結局デキア
報セル 第五節 一
ノ人民ニ對シ健康
一節 阿片烟ハ精ヲ耗
チ害スル之ヨリ甚シ
キナシ故ニ此章ノ設

第五節 健康ヲ害スル罪
第一節 阿片烟ニ關スル罪
第二百三十七條 阿片烟ヲ輸入シ及ヒ製造シ又ハ之ヲ販賣シ
タル者ハ有期徒刑ニ處ス

飲淨水ノ汚穢スル罪

アル輸入外國ヨリ製ナリ輸入スル製
造ルツク販賣ウリサ吸
食ノム 税關官吏輸出入
ノビイナトリアケ
ルヤクシヨノ役人
屋キ引誘スハムル
ノ爲ニスルアリ 受寄
職ニスルアリ
アツカ 第二節 衆人ノ
ヲレル 飲料ニ
供スル淨水ヲ汚穢シ
テ之ニ用フル能ハサ
ルニ至ラシメ 飲料ノ
タル罪ナリ 飲料ニ
ミ 淨水カナルミツ
汚
糞 ヨゴスナリ死屍糞
尿ヲ投入スルヲ云

第二百三十九條 税關官吏情ヲ知テ阿片烟及ヒ其器具ヲ輸
入セシメタル者ハ前二條ノ刑ニ照シ各一等ヲ加フ
第二百四十條 阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖
ル者ハ輕懲役ニ處ス
人ヲ引誘シテ阿片烟ヲ吸食セシメタル者亦同シ
第二百四十一條 阿片烟ヲ吸食シタル者ハ二年以上三年以下
ノ重禁錮ニ處ス
第二百四十二條 阿片烟及ヒ吸食ノ器具ヲ所有シ又ハ受寄シ
タル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
第二節 飲料ノ淨水ヲ汚穢スル罪
第二百四十三條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用
アルヲ能ハサルニ至ラシメタル者ハ十一月以上一月以下
ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五圓以下ノ罰金ヲ附加ス

傳染病豫防規則ニ違背スル罪

フ健康スコ水質ミツ
ウ 腐敗クサ疾病ウキ
毆打創傷 第三編第一
章第二節
第三節 傳染病ノ危害
リ劇シク且ツ恐ルヘ
キモノナシ故ニ嚴ニ
之ヲ豫防スル爲メ設
ケタル規則アリコレ
其規則ニ違背 傳染病
コレヲハチブス、ジブ
テリヤ等ウツリヤス
キヤ 豫防 ヤウ 違背
マヒ 豫防 ジン 違背
ク 上陸 フチヨリオ運
搬 ハコ 船長 フチノ流

第二百四十四條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ用ヒテ水質ヲ變
シ又ハ腐敗セシメタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處
シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百四十五條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致シ
タル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第三節 傳染病豫防規則ニ關スル罪
第二百四十六條 傳染病豫防ノ爲メ設ケタル規則ニ違背シテ
入港ノ船舶ヨリ上陸シ又ハ物品ヲ陸地ニ運搬シタル者ハ一
月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ二十圓以上二百圓以下
ノ罰金ニ處ス
第二百四十七條 船長自ラ前條ノ罪ヲ犯シ又ハ人ノ犯ス
ヲ知テ制セサル者ハ前條ノ刑ニ一等ヲ加フ
第二百四十八條 傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ流行地

行地方トコロ他處ヨ
獸類ケモノ
ルイ

方ヨリ他處ニ出タル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處
シ又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百四十九條 獸類ノ傳染病流行ノ際豫防規則ニ違背シテ
獸類ヲ他處ニ出シタル者ハ十一日以上二月以下ノ輕禁錮ニ
處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四節 危害品及ヒ健康ヲ害ス可キ物品製造ノ規則ニ
關スル罪

第二百五十條 官許ヲ得スシテ危害ヲ生ス可キ物品ノ製造所
ヲ創設シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ健康ヲ害ス可キ物品ノ製造所ヲ創設シタル者ハ十圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十一條 官許ヲ得テ前條ニ記載シタル製造所ヲ創設
スト雖モ危害ヲ豫防シ健康ヲ保護スル規則ニ違背シタル者

第四節 危害品
及ヒ健康
ヲ害ス可
キ物品製
造ノ規則
ニ關スル
罪

第四節 危害品トハ破
裂質ヲ有スル
物品ヲ云フ健康ヲ害
ス可キ物品トハ惡臭
及毒物ヲ云フ是等ノ
物品製造ニ付テハ各
其規則アリ其規則官
ニ違背スル罪ナリ官
許セイフノ 危害ヲ生
ス可キ物品 彈藥雷管
等ナリ
健康ヲ害ス可キ物品

第五節 健康
ヲ害ス可
キ飲食物
及ヒ藥劑
販賣スル
罪

第六節 私人
ノ醫業ヲ
爲スル罪

煤氣製藥製 危害ヲ豫
革等ナリ
防シケンノンナル
健康ヲ保護スルヤカ
ナルヲテ過失殺傷三
編第一章 第五節 健康
第四節 第五節 健康
スベキ飲食物トハ有
毒質ノ物ヲ混和シタ
ルヲ云ヒ藥劑トハ規
則ニ定メタル藥劑劇
藥ナリコレ其物品ヲ
私ニ又ハ規則ニ背キ
テ販賣セ人ノ健康ヲ
ル罪ナリ
害スヘキ物品云々例
ハ餅ヲ飾ルニ縁青ヲ
以テスル等即チ人ノ

ハ前條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス

第二百五十二條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シ
タル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第五節 健康ヲ害ス可キ飲食物及ヒ藥劑ヲ販賣スル罪
第二百五十三條 人ノ健康ヲ害ス可キ物品ヲ飲食物ニ混和シ
テ販賣シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十四條 規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ
十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病又ハ死ニ致
シタル者ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第六節 私人ノ醫業ヲ爲スル罪
第二百五十六條 官許ヲ得スシテ醫業ヲ爲シタル者ハ十圓以
上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章 風俗ヲ害スル罪

健康ヲ害ス可キ物品ヲ混和スルナリ
藥劑ニ劇藥シキハゲルクスリ
第三編 過失殺傷 第一章
第四節 第六節 醫ハ人ノ
ス故ニ必官ノ試験ヲ
經官ノ免狀ヲ得タル
醫師ニ非ラサレハ之
ヲ行フヲ得ル故ニコ
ノ罪アリ 第六章 猥褻賭
ルナリ 博及ヒ
神佛ニ對スル不敬等
ノ罪ニシテ一般ノ風
儀習俗ヲ害スル罪ナリ
公然猥褻
ノ所行ヲ爲ス例ヘハ
目前ヲ憚カラス陰部
ヲ見ハシ或ハ淫事ヲ

第七十 健康ヲ害ス可キ物品ヲ混和スルナリ
藥劑ニ劇藥シキハゲルクスリ
第三編 過失殺傷 第一章
第四節 第六節 醫ハ人ノ
ス故ニ必官ノ試験ヲ
經官ノ免狀ヲ得タル
醫師ニ非ラサレハ之
ヲ行フヲ得ル故ニコ
ノ罪アリ 第六章 猥褻賭
ルナリ 博及ヒ
神佛ニ對スル不敬等
ノ罪ニシテ一般ノ風
儀習俗ヲ害スル罪ナリ
公然猥褻
ノ所行ヲ爲ス例ヘハ
目前ヲ憚カラス陰部
ヲ見ハシ或ハ淫事ヲ

第六節 風俗ヲ害スル罪

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷
ニ致タル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重ニ從テ處斷ス

第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三
十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公
然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處

第二百六十條 賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタ
ル者ハ三月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下

ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ

附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦大同シ但飲食物ヲ

賭スル者ハ此限ニ非ラス

賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス

第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ
業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス五圓

以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ
所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ
罰金ニ處ス

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上
一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタ

第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪

爲ス等チイフ能ク公
然ノ文字ニ注意ズヘ
シ皮目前ニ非サル所
ニ於テ犯シタル猥褻
ノ所行ハ第三編第一
章第十一節中ニアリ
風俗ヲ害スル冊子圖
書淫事ヲ記載シタル
冊子及春畫ヲ云フ
其他猥褻ノ物品ノ形
ニ摸擬シタル陳列ナ
物件チイフ 陳列ナ
マヘニナ 第二百五十
ヲヘル 第二百五十
九條 前條ト同シク公
然ノ文字ニ注意
スヘシ公然ニ非ラス
シテ秘密ニ陳列シ販
賣スルハ本條コレヲ
問フノ限ニ非ラス

第二百五十七條 前條ノ犯人治療ノ方法ヲ誤リ因テ人ヲ死傷
ニ致タル時ハ過失殺傷ノ各本條ニ照シ重ニ從テ處斷ス
第六節 風俗ヲ害スル罪
第二百五十八條 公然猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ三圓以上三
十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百五十九條 風俗ヲ害スル冊子圖書其他猥褻ノ物品ヲ公
然陳列シ又ハ販賣シタル者ハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處
第二百六十條 賭場ヲ開帳シテ利ヲ圖リ又ハ博徒ヲ招結シタ
ル者ハ三月以上一年以上以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下
ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十一條 財物ヲ賭シテ現ニ博奕ヲ爲シタル者ハ一月
以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ
附加ス其情ヲ知テ房屋ヲ給與シタル者亦大同シ但飲食物ヲ
賭スル者ハ此限ニ非ラス
賭博ノ器具財物其現場ニ在ル者ハ之ヲ沒收ス
第二百六十二條 財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖スルノ
業ヲ興行シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス五圓
以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十三條 神祠佛堂墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ
所爲アル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
若シ説教又ハ禮拜ヲ妨害シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ
罰金ニ處ス
第七章 死屍ヲ毀棄シ及ヒ墳墓ヲ發掘スル罪
第二百六十四條 埋葬ス可キ死屍ヲ毀棄シタル者ハ一月以上
一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百六十五條 墳墓ヲ發掘シテ棺槨又ハ死屍ヲ見ハシタ

第八章 商業及農工業ノ妨害スル罪

賭傷ツバクヲ開張ト
 ヲツ利ヲ圖ル得テ場
 所ヲ貸ス者博徒ヲ招
 皆是ナリ博徒ヲ招
 結シタル者立ツテ博
 徒ヲ招集財物ヲ賭シ
 シタル者
 テ現ニ博奕ヲ爲シタ
 ル者前條ニ記載セル
 博奕ヲ爲シタル者
 賭博ノ器具ノ類
 醜集ハセテ利益ヲ
 僥倖マクテ興行クハ
 アテテ興行クハ

ル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以
 下ノ罰金ヲ附加ス
 因テ死屍ヲ毀棄シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處
 シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百六十六條 此章ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂
 ケサル者未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第八章 商業及農工業ノ業ヲ妨害スル罪
 第二百六十七條 偽計又ハ威力ヲ以テ數類其他衆人ノ需用ニ
 缺ク可カラザル食用物ノ賣買ヲ妨害シタル者一月以上六月
 以下ノ重禁錮ニ處シ三十圓以上卅圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 前項ニ記載シタル以外ノ物品ノ賣買ヲ妨害シタル者ハ一等
 ヲ減ス
 第二百六十八條 偽計又ハ威力ヲ以テ糶賣又ハ入札ヲ妨害シ

ル神祠カミチマツ佛
 堂ホトケチオ墓所ハ
 バ禮拜所神佛ヲ拜說
 教導ノ禮拜ムカ第七
 章死者ニ對シ侮辱ヲ
 加フル爲メ其死屍
 ナ殘毀遺棄シ及ヒ墳
 墓ヲ發掘スル罪ナリ
 埋葬フツメホ毀棄ハ
 キツケル乘ハ道路
 水中等ニナゲステル
 ナ墳高キ墓平カナ發
 リ墳モノ墓ルモノ發
 掘ホリ棺槨ヲナクハ
 タス棺槨ヲナクハ
 ン第八章 他人ノ商業
 農業工業ヲ

タル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二十
 圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百六十九條 偽計又ハ威力ヲ以テ農工業ノ業ヲ妨害シタル
 者ハ亦前條ニ同シ
 第二百七十條 農工ノ雇人其雇賃ヲ増サシメ又ハ農工業ノ
 景況ヲ變セシムル爲メ雇主及ヒ他ノ雇人ニ對シ偽計威力ヲ
 以テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ
 三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第二百七十一條 雇主其雇賃ヲ減シ又ハ農工業ノ景況ヲ變ス
 ル爲メ雇人及ヒ他ノ雇主ニ對シ偽計威力ヲ以テ妨害ヲ爲シ
 タル者ハ亦前條ニ同シ
 第二百七十二條 虛偽ノ風説ヲ流布ノ數類其他衆人需用物品
 ノ價直ヲ昂低セシメタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九節 官吏瀆職ノ罪

第二節 官吏ノ罪

妨害シテ自由ニ之ヲ行フイテ得サラシムル罪 偽計ハ買占メ等ノ正實ナラザラ威力行ル所爲ナリ 威力行脅迫 衆人ノ需用ニ欲シ可ラサル食用物味醬油茶 鹽ノ類 賣買カヒ 耀賣 財產ノセ入札工業ノリウリ 入札 請負賣拂ノ入札 農工業ノ景況ヲ變セシムル爲メ 工作ノ時間ヲ短縮セシメ又ハ人員ヲ増加セシム 妨害 雇主ニ對ルノ類 妨害シテハ工

事ヲ廢棄シ又ハ他ノ雇人ヲ使用スルイナ故障スルノ類他ノ雇主ニ備ハルノ雇人ニ對シ農工業ヲ爲スイナ故障シテ廢棄セシムル 虛偽 ヲハリ風ノ類 ハシ流布ラス 衆人需用物品 味噌醬油茶 鹽薪炭木材 等價直子タ昂底タカヤス 第九章ハ其任用セラレタル職務ヲ正當ニ施行スヘキノ義務アリ然ルニ行ハスシテ人民ノ權利ヲ保護セス爲ヌ可ラサルイナ爲シテ自由ヲ束

第九章 官吏瀆職ノ罪

第一節 官吏公益ヲ害スル罪

第二百七十三條 官吏其管掌ニ係ル法律規則ヲ公布施行セス又ハ他ノ官吏公布施行ヲ妨害シタル者ハ二月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ加附ス
第二百七十四條 兵隊ヲ要求シ及ヒ之ヲ使用スル權アル官吏地方ノ騷擾其他兵權ヲ以テ鎮撫ス可キ時ニ當リ其處分ヲ爲サ、ル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百七十五條 官吏規則ニ違背シテ商業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二節 官吏人民ニ對スル罪
第二百七十六條 官吏擅ニ威權ヲ用ヒ人ヲ其權利ナキ事

チ行シメ又ハ其爲可キ權利ヲ妨害シタル者ハ十一月以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十七條 人ノ身體財產ヲ妨害スルノ犯人アルニ當リ豫審判事檢事警察官吏其報告ヲ受ケテ速ニ保護ノ處分ヲ爲サ、ル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百七十八條 逮捕官吏法律ニ定メタル定式規則ヲ遵守セシテ人ヲ逮捕シ又ハ不正ニ人ヲ監禁シタル者ハ十五日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ

第二百七十九條 司獄官吏程式規則ヲ遵守セシテ囚人ヲ監禁シ若クハ囚人ヲ出獄セシム可キノ時ニ至リテ之ヲ放免セサル者ハ亦前條ノ例ニ同シ

刑法

縛シ若クハ賄賂ヲ第
貪ホルノ罪ナリ
一節 官吏行フ可キ職
務ヲ行ハス又ハ
爲ス可ヲサルヲ爲
シテ公益ヲ害スル罪
官吏ニク公布地方長
官ニク公布地方長
官ハ職務上必ス公
布ス可キアリ
行セス 政府ヨリ已ニ
公布シタル法
律規則ヲ施行 第二
百
七十四條 地方長官
タル者部民ノ
暴動一揆ヲ爲スニ方
リ警察ノ力ヲ以テ之
カ鎮撫ヲ爲ス克ハサ
ルルハ兵隊ヲ各鎮臺
ニ要求シ及ヒ使用ス
ルノ權アリコレ地方

第二百八十條 前二條ニ記載タル官吏又ハ護送者囚人ニ對シ
飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施タル者ハ三月以上三
年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ囚人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一
等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス
第二百八十一條 水火震災ノ際官吏囚人ノ監禁ヲ解コチ怠リ
因テ死傷ニ致タル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ一等ヲ加フ
第二百八十二條 裁判官檢事及ヒ警察官吏被告人ニ對シ罪狀
ヲ陳述セシムル爲メ暴行ヲ加ヘ又ハ陵虐ノ所爲アル者ハ
四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰
金ヲ附加ス
因テ被告人ヲ死傷ニ致シタル時ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ
一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

長官ハ即チ兵隊ヲ要
求シ及ヒ之ヲ使用ス
ル權アル騷擾 サワギ
官吏ナリ騷擾 コンサ
ツ 鎮撫 トリシ 第二節
官吏職務ヲ以テ人民
ノ權利ヲ妨害シ及ヒ
其身體ノ自由ヲ束縛
シ又ハ人民ノ賄賂ヲ
貪ホル等ノ 擅カツ 權
罪ナリ 利ナキ事ヲ行ハシメ
例ヘハ銃獵免狀ヲ所
持セサルモノニ鳥獸
ヲ銃獵セシ 爲ス可キ
ムルノ類 權利ヲ妨害シ 例ヘハ
投票ヲ爲ス可キ權利
アル者ナシテ其投票

第二百八十三條 裁判官 檢察官 故ナクシテ刑事ノ訴ヲ受理
セス又ハ遷延シテ審理セサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其民事ノ訴ニ係ル者亦同シ
第二百八十四條 官吏人ノ囑託ヲ受ケ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ
聽許シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上
四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ不正ノ處分ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ
第二百八十五條 裁判官民事ノ裁判ニ關シテ賄賂ヲ收受シ又
ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五
圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ不正ノ裁判ヲ爲シタル時ハ一等ヲ加フ
第二百八十六條 裁判官檢事警察官吏刑事ノ裁判ニ關シテ賄

ヲ爲サシメ 人ノ身體
サルノ類
財産ヲ妨害スル犯人
例ハハ故無ク人ヲ逮
捕セントシ或ハ毆打
ヲ加ントシ 家屋
ヲ毀壞セントシ或ハ
物件ヲ強奪セントシ
スル等ノ犯人ヲ云
審判事檢事警察官吏
役報告セ 逮捕官吏
名報告セ 逃捕官吏
檢事司法警察 程式令
官巡查等ナリ 狀
ノ書規則令狀ヲ發ス
式等規則ルノ手續
遵守シタガヒ 逮捕
マヘ 監禁ヲシコ 司獄
官吏ロウヤカハ囚人
官吏リヤクニン囚人

賂ヲ收受シ又ハ之ヲ聽許シタル者ハ二月以上二年以下ノ重
禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ被告人ヲ曲庇シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ
處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其被告人ヲ陷害シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處
シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
若シ枉斷シタル所ノ刑此刑ヨリ重キ時ハ第二百二十一條第
二百二十二條ノ例ニ照シテ反坐ス
第二百八十七條 裁判官檢事警察官吏賄賂ヲ收受聽許セスト
雖凡情ニ徇カヒ又ハ怨ヲ挾サミ被告人ヲ曲庇陷害シタル者
ハ亦前條ノ例ニ同シ
第二百八十八條 前數條ニ記載シタル賄賂己ニ收受シタル者
ハ之ヲ沒受シ費用シタル者ハ其價ヲ追徴ス

第三節 官吏對
產ニ對
スル罪

第三編 身體對
スル罪
第一章 身體對
スル罪

メシ放免ハナチ護送
者ニイゴ 飲食モノ衣
服キモ 苛刻キム所爲
シカ 毆打創傷 第三編
第二章 第一節
第二 水火震災 洪水火
暴行ノルモ 陵虐 算
上ニ坐セシメテ石ヲ
抱カシメ又ハ空ニ懸
タル 檢察官 檢事及ヒ
判所ノ警部 受理アリ
ル 遷延ニシテ 審理
囑托ミ 収受トリ
聽許 賄賂ヲ出セト約

第三節 官吏財產ニ對スル罪
第二百八十九條 官吏自ラ 監守スル所ノ金銀物件ヲ竊取シタ
ル者ハ輕懲役ニ處ス
因テ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル時ハ第二百
五條ノ例ニ照シテ處斷ス
第二百九十條 租稅其他諸般ノ入額ヲ徵收スル官吏正數外ノ
金數ヲ徵收シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五
圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第二百九十一條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處ス
ル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
第三編 身體財產ニ對スル重罪輕罪
第一章 身體ニ對スル罪

曲此カバテ陷害トナ
トシ枉斷フハフノ情
ニ徇ヒ法ニ從ハス
自怨イコ没収メシ
費用ツカ追徴リカ
ス徴ハハ第三節吏
ルナリ其委任セラレ
務ニ關シ財産ヲ私ス
ナリ罪監守ハ主守ナ
皆其トハ司ルナリ
但臨時ハ官長ノ其事
主守ハ吏卒ノ上ニ
ルコニテ帳簿ヲ手ニ
カケテ主トスル様ナ
フナリ竊取トスミ租
稅國稅地方諸般ノ入

第一節 謀殺ノ罪

第二百九十二條 豫多謀テ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ノ罪ト爲
シ死刑ニ處ス

第二百九十三條 毒物ヲ施用シテ人ヲ殺シタル者ハ謀殺ヲ以
テ論シ死刑ニ處ス

第二百九十四條 故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ故殺ノ罪ト爲
シ無期徒刑ニ處ス

第二百九十五條 支解折割其他慘刻ノ所爲ヲ以テ人ヲ故殺シ
タル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十六條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯
シテ其罪ヲ免カル、爲メ人ヲ故殺シタル者ハ死刑ニ處ス

第二百九十七條 人ヲ殺スノ意ニ出テ許稱誘導シテ危害ニ陷
レ死ニ致シタル者ハ故殺ヲ以テ論ジ其豫メ謀ル者ハ謀殺

ナ以テ論ス

第二百九十八條 謀殺故殺ヲ行ヒ誤テ他人ヲ殺シタル者ハ
仍ホ謀殺ヲ以テ論ス

第二節 毆打創傷ノ罪
第二百九十九條 人ヲ毆打創傷シ因テ死ニ致シタル者ハ重懲
役ニ處ス

第三百條 人ヲ毆打創傷シ其兩目ヲ瞎シ兩耳ヲ聾シ又ハ兩肢
ヲ折リ及ヒ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗シ若クハ知覺精神ヲ喪失セ
シメ篤疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處ス

其一目ヲ瞎シ一耳ヲ聾シ又ハ一肢ヲ折リ其他身體ヲ殘廢シ
廢疾ニ致シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三百一條 人ヲ毆打創傷シ二十日以上ノ時間疾病ニ罹リ又
ハ職業ヲ營ム一能ハサルニ至ラシメタル者ハ一年以上三年

額手數料、沒收、類徴
收トリタ正外數當然
スヘキ正第三編此篇
數ノ外第三編此篇
ノ身體財產ニ對シ若
クハ官民ノ財產不勳
産ニ對シ犯シタル一
切ノ重罪輕罪ヲ滿載
ス第一章身體ニ對ス
別アリ或ハ生命ニ關
シ或ハ身體ノ自由ニ
關シ或ハ貞潔ニ關シ
或ハ名譽ニ關シ等
ナリ第一節身體ニ對
於テハ人ノ生命ヲ絶
ツコト最重トスレ
ハ謀殺故殺ノ罪ヲ以
テ第一ニ掲グルナリ
謀殺豫カシメ人ヲ殺
思慮ヲ盡シ及ヒ手段
ヲ設ケテ殺スモノヲ

イ故殺ニ因リ憤怒ニ堪ヘス忽然殺意ヲ生シ直チニ人ヲ殺スチイ支解人ノ體肢ヲ分折割テ胎兒又ハ生膽ヲ採ル慘刻ノ所爲毒蛇ニ咬マシメ或ハ湯火ヲ以テ燒爛スル類詐稱誘導シテ危害ニ陷レ之レニ陥レ或ハ詐リテ河水ニ墮落セシムルノ類ナリ誤リテ他人ヲ殺ス六兵殺サントシテ七兵衛ヲ殺スノ類第二節人ヲ毆打シテ創傷ヲ加ハタル罪ナリ

以下ノ重禁錮ニ處ス
 ソシツキケツケフ
 其疾病休業ノ時間二十日ニ至ラサル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
 ゴウキンコ
 疾病休業ニ至ラスト雖モ身體ニ創傷ヲ成シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮ニ處ス
 ゴウキンコ
 第三百二條 豫メ謀テ人ヲ毆打創傷シ休業廢篤疾又ハ死ニ致シタル者ハ前數條ニ記載シタル刑ニ照シ各一等ヲ加フ
 ゴウキンコ
 第三百三條 重罪輕罪ヲ犯スニ便利ナル爲メ又ハ己ニ犯ノ其罪ヲ免ル、爲人ヲ毆打創傷シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
 ゴウキンコ
 第三百四條 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタル者ハ仍ホ毆打創傷ノ本刑ヲ科ス
 ゴウキンコ
 第三百五條 二人以上共ニ人ヲ毆打創傷シタル者ハ現ニ手ヲ下シ傷ヲ成スノ輕重ニ從テ各自ニ其刑ヲ科ス若シ共毆シテ傷ヲ成スノ輕重ヲ知ルコト能ハサル時ハ其重傷ノ刑ニ照シ一等ヲ減ス但救唆者ハ減等ノ限ニ在ラス
 ゴウキンコ
 第三百六條 二人以上共ニ人ヲ毆打スルニ當リ自ラ人ヲ傷セスト雖モ幫助シテ傷ヲ成サシメタル者ハ現ニ傷ヲ成シタル者ノ刑ニ一等ヲ減ス
 ゴウキンコ
 第三百七條 健康ヲ害ス可キ物品ヲ施用シテ人ヲ疾苦セシメタル者ハ豫メ謀テ毆打創傷スルノ例ニ照シテ處斷ス
 ゴウキンコ
 第三百八條 人ヲ殺スノ意ニ非スト雖モ詐稱誘導シテ危害ニ陷レ因テ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ヲ以テ論ス
 ゴウキンコ
 第三節 殺傷ニ關スル者恕及ヒ不諭罪
 第三百九條 自己ノ身體ニ暴行ヲ受クルニ因リ直チニ怒ヲ發シ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招キタル者ハ此限ニ在ラス
 ゴウキンコ

第三節 殺傷ニ關スル者恕及ヒ不諭罪

但シ毆打シタルノミニテ創傷ヲ加ヘザルハ違警罪ニ依リ處分毆打創傷ヲナシテキツクニスルツンボ兩肢手足陰陽門ニスル根知覺精神ヲ喪失セシム事ニテ癡呆癡癲ト爲サシム篤疾オモルコトナイフ癡疾キビヤウ殘虧ケル癡疾キカタク職業ヲ營ムトナスル各自ニ其刑ヲ科ス例ハ甲ハ兩目ヲ瞎シ乙ハ一耳ヲ聾シタルハ甲ハ第三百條ノ首項ニ照シ乙

刑 法
 八十三

ハ同條後項ニ 教唆者
照スガ如シ
罪トナルヘキコトヲオ
シハス、メレモノ
自ラ人ヲ傷セス、ソノ
ハ自ラ手 幫助例ヘハ
ナ下サス 被害者
ノ兩手ヲ押ヘ自由ヲ
ナサシメサル等手傳
ヲナスモ 疾苦ナシ
ノチ云フ 第二百九十
三百八條 七條ノ解ニ
同 第三節 總則ノ宥恕
シ 第三節 不論罪ハ一
般ニ通用スルモノナ
レ本節ハ專ラ殺傷
ニ關スル罪ニ用フ暴
ル宥恕不論罪ナリ
行テアラキ 宥恕ニ
ツミノイグバ 姦通マ
ンチカログス 姦通マ
トコイ 覺知ツグ姦所
ツケシ

第三百十條 毆打シテ互ニ創傷シ其手下スノ先後ヲ知ルコト能ハサル者ハ各其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第三百十一條 本夫其妻ノ姦通ヲ覺知シ姦所ニ於テ直チニ姦夫又ハ姦婦ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十二條 晝間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞セントスル者ヲ防止スル爲メ之ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ宥恕ス

第三百十三條 前數條ニ記載シタル宥恕ス可キ罪ハ各本刑ニ照シ二等又ハ三等ヲ減ス

第三百十四條 身體生命ヲ正當ニ防衛シ己ムコトヲ得サルニ出テ暴行人ヲ殺傷シタル者ハ自己ノ爲メニシ他人ノ爲メニスルチ分ダス其罪ヲ論セス但不正ノ所爲ニ因リ自ラ暴行ヲ招

第四節 過失殺傷ノ罪

フギシタ 姦夫トコ姦
ルバシヨ 殺傷コロス
婦ナギチ 殺傷キツツ
ケ 縱容シヨ 住居解
ル 第七十一 防止トセキ
條ニアリ 防止トセキ
當正ニ防衛ス 第一暴
ノ不正ナルコト 第二暴
行襲撃ノ腕力ニ出ル
一 第三暴行襲撃ノ現
ニ切迫スルコト 第四暴
行襲撃ヲ防クニ止チ
得サルニ出ツルコト 此
四箇ノ要項ヲ具シタ
ルニ當リ己ヲ得ス
防衛ス 防衛マセキ
ルナリ 防衛マセキ
火ツケ 盜賊ニシテ取
還トリカ 牆壁ガキ
越ルコト 危害ナシ
ルコト 危害ナシ

キタル者ハ此限ニ在ラス

第三百十五條 左ノ諸件ニ於テ己ムコトヲ得サルニ出テ人ヲ殺傷シタル者ハ其罪ヲ論セス
一 財産ニ對シ放火其他暴行ヲ爲者ヲ防止スルニ出タル時
二 盜犯ヲ防止シ又ハ盜賊ヲ取還スルニ出タル時
三 夜間故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入り若クハ門戶牆壁ヲ踰越損壞スル者ヲ防止スルニ出タル時

第三百十六條 身體財産ヲ防衛スルニ出ルト雖モ己ムコトヲ得サルニ非スシテ害ヲ暴行人ニ加ヘ又ハ危害己ニ去リタル後ニ於テ 勢ニ乘シ仍ホ害ヲ暴行人ニ加ヘタル者ハ不論罪ノ限ニ在ラス但シ狀情ニ因リ第三百十三條ノ例ニ照シ其罪ヲ宥恕スルコトヲ得

第四節 過失殺傷ノ罪

第五節 自殺ニ關スル罪

ソノトキノヨウス
第四節 疎虞懈怠又ハ
守セザル罪ナリ
シタル罪ナリ
キノツ 懈怠ニテ
カヌ 懈怠ニテ
法律ニ於テ命令シ若
クハ禁止シタル諸件
慣習キタリシ遵守シ
ガヒマ 過失ガヒマ
モル 廢疾ハカクハ
疾ハオモキヤマヒ
休業 職業ヲ
者ヲ助ケ又ハ人ヲ
自殺者ヲ罰セサルモ
ナラス益ナキヲ以テ
人ヲ教唆シテ自殺

第三百十七條 疎虞懈怠又ハ規則慣習ヲ遵守セス過失ニ因テ人ヲ死ニ致タル者ハ廿圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百十八條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ廢篤疾ニ致シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三百十九條 過失ニ因テ人ヲ創傷シ疾病休業ニ至ラシメタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第五節 自殺ニ關スル罪
第三百二十條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ囑託ヲ受ケテ自殺人ノ爲メニ手ヲ下シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其他自殺ノ補助ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス
第三百二十一條 自己ノ利ヲ圖リ人ヲ教唆シテ自殺セシメタル者ハ重懲役ニ處ス

第六節 擯ニ人ヲ監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

セシム 親戚故舊ヨリ
テ屠服セシ 自殺シガ
ムルナド 自殺シガ
囑託ヲ頼マルヨリ介錯
自殺ノ補助 器具ヲ給
與シ或ハ自殺ノ方法
ヲ教示スルヲ以テ
第三百廿一條 兄ノ相
ヲ受ケント欲シ急迫
ノトアルニ乘ジ兄ヲ
教唆シテ自殺セシメ
又ハ妻其夫ヲ自死セ
シメテ再嫁セン第六
節 擯ニ人ヲ監禁ス
擯ニ人ヲ監禁スル罪ナリ
擯ニ人ヲ監禁スル罪ナリ
犯ニ非サルニ人 私家
ヲトシマヘル 私家
ニ監禁スヘニオシコ

第六節 擯ニ人ヲ監禁スル罪
第三百二十二條 擯ニ人ヲ逮捕シ又ハ私家ニ監禁シタル者ハ十一日以上二月下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但監禁日數十日ヲ過クル毎ニ一等ヲ加フ
第三百二十三條 擯ニ人ヲ監禁制縛シテ毆打拷責シ又ハ飲食衣服ヲ屏去シ其他苛刻ノ所爲ヲ施シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上卅圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百二十四條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
第三百二十五條 擯ニ人ヲ監禁シ水火震災ノ際其監禁ヲ解クヲ怠リ因テ死傷ニ至シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
第七節 脅迫ノ罪
第三百二十六條 人ヲ殺サント脅迫シ又ハ人ノ住居シタル家

刑法

メ制縛シハリ 毆打拷
 責ウチタ、イテ 屏去
 トリ 苛刻キ、水火震
 災洪水火第七節 脅迫
 事地震 八暴
 行ニ對スル義ニシテ
 言語若クハ文書ヲ以
 テ人ヲ恐喝シ畏懼脅
 セシムル者ノ罪也脅
 迫ヲドシ 毆壞 ウチコ
 劫掠 トリオスメル 兇
 器人ヲコロスニ 第三
 タルドウク 第三
 百二十八條 必シモ本
 ルノミナラズ其親屬
 ニ危害ヲ加ヘキ事ヲ

屋ニ放火セント脅迫シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮
 ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 毆打創傷其他暴行ヲ加ヘント脅迫シ又ハ財産ニ放火シ及ヒ
 毀壞劫掠セント脅迫シタル者ハ十一月以上二月以下ノ重禁
 錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第三百二十七條 兇器ヲ持シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一
 等ヲ加フ
 第三百二十八條 親屬ニ害ヲ加フ可キ事ヲ以テ脅迫シタル者
 ハ亦前條ノ例ニ同シ
 第三百二十九條 此節ニ記載シタル罪ハ脅迫ヲ受ケタル者又
 ハ其親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 第八節 墮胎ノ罪
 第三百三十條 懷胎ノ婦女藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル
 者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第八節 墮胎ノ罪

以テ脅迫ス 第八節 藥物
 ルモ亦同シ 第八節 藥物
 其他ノ方法ヲ以テ懷
 胎ヲ殺スナイツ
 胎ハラ 墮胎 ハラミ
 ム 墮胎 ヲトス
 墮胎セシメタル者本
 夫
 若シク死ニ致スシメ
 ハ密夫 死ニ致スシメ
 一穩婆 トリア 第三百
 三十二條 又ハ藥商等
 ハ皆ナ人ノ健康ヲ保
 護スヘキ職業ナリ又
 是等ノ者ハ墮胎セシ
 ムルニ尤モ容易ナル
 ナ以テ通常ノ刑ニ威
 一等ヲ加フルナリ
 逼 非セイヲモツテ 誑
 オドシツケル 誑
 騙 ママシア 毆打 ウチ
 ザムク 毆打 ウチ
 ヤク

者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
 第三百三十一條 藥物其他ノ方法ヲ以テ墮胎セシメタル者ハ
 亦前條ニ同シ因テ婦女ヲ死ニ致シタル者ハ一年以上三年以
 下ノ重禁錮ニ處ス
 第三百三十二條 醫師穩婆又ハ藥商前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ
 各一等ヲ加フ
 第三百三十三條 懷胎ノ婦女ヲ威逼シ又ハ誑騙シテ墮胎セシ
 メタル者ハ一年以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第三百三十四條 懷胎ノ婦女ナルヲ知テ毆打其他暴行ヲ加
 ヘ因テ墮胎ニ至ラシメタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮
 ニ處ス其墮胎セシムルノ意ニ出タル者ハ輕懲役ニ處ス
 第三百三十五條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ癡篤疾又ハ死
 ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第九節 幼者即チ八歳未滿ノモノ老者即チ衰老シテ自ラ一身ヲ生活保存スル能ハサルモノ疾者即チ癡篤疾其ノ他病患ニ罹リテ自ラ生活スルニ能ハサル者ヲ他所ニ放棄シ又ハ居宅ニ棄置キ自ラ失踪スル罪 寥闕無人ナラヌサビシキ遺棄ステカバシヨ 遺棄マハヌ 給料キウ 寄託アリ 保養ナラ 所有地モチ 看守ヨハ 扶助タス 官署ソノヤ

第九節 幼者又ハ老疾者ヲ遺棄スル罪

第三百二十六條 八歳ニ滿サル幼者ヲ遺棄シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百二十七條 八歳ニ滿サル幼者又ハ老疾者ヲ寥闕無人ノ地ニ遺棄シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
第三百二十八條 給料ヲ得テ人ノ寄託ヲ受ケ保養ス可キ者前二條ノ罪ヲ犯シタル時ハ各一等ヲ加フ
第三百二十九條 幼者老疾者ヲ遺棄シ因テ發疾ニ致シタル者ハ輕懲役ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ重懲役ニ處シ死ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處ス
第三百四十條 自己ノ所有地又ハ看守ス可キ地内ニ遺棄セラレタル幼者老疾者アルコトヲ知テ之ヲ扶助セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス
若シ疾病ニ罹リ昏倒スル者アルコトヲ知テ扶助セス又ハ申告セサル者亦同シ

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第十節 二十歳未滿ノ幼者ヲ略取誘拐スル罪ナリ 略取 暴行脅テ人ヲ奪取 誘拐 幼者スルヲ云フ 誘拐ニ葉子ナドヲ與ヘント欺ムキ或ハ好ム所ノ物ヲ共ニ見ント詐ハル等種々ノ偽計其他ノ方法ヲ以テ他所ニ藏連レ行クヲ云フ 匿カク 交付ス 家屬イカ大

第十節 幼者ヲ略取誘拐スル罪

第三百四十一條 十二歳ニ滿サル幼者ヲ略取シ又ハ誘拐シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百四十二條 十二歳以上二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取シテ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ一年以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
其誘拐ノ自ラ藏匿シ若クハ他人ニ交付シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
第三百四十三條 略取誘拐シタル幼者ナルコトヲ知テ自己ノ家

僕下婢女其他ノ名稱
取受ツケ告訴ツ
ハタ

式ニ從テ婚姻ヲ爲シ
タル郡區役所ニ婚姻
届チナスヲイ
フ告訴ノ効ナシ
タトモロガナ
ニモナラス
節自由ニ任シ法律ノ
敢テ制限スル所ニ非
ス故ニ人目ニ觸レス
公衆ニ害ナキハ之
ヲ罪トセス然レモ幼
者ノ情慾未ダ萌サス
若クハ承諾セサル者
トナシ及ヒ二夫二
妻ノ如キハ正義ヲ破

屬僕婢ト爲シ又ハ其他ノ名稱ヲ以テ之ヲ收受シタル者ハ前
二條ノ例ニ照シ各一等ヲ減ス
第三百四十四條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬
ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但略取誘拐セラレタル幼者式ニ
從テ婚姻ヲ爲シタル時ハ告訴ノ効ナシ

第三百四十五條 二十歳ニ滿サル幼者ヲ略取誘拐シテ外國人
ニ交付シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十一節 猥褻姦淫重婚ノ罪
第三百四十六條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ猥褻ノ所行ヲ爲
シ又ハ十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ猥褻ノ所行
ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上
二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十七條 十二歳ニ滿サル男女ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ
猥褻ノ所行ヲ爲シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處
シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百四十八條 十二歳以上ノ婦女ヲ強姦シタル者ハ輕懲役
ニ處ス
藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏睡セシメ又ハ精神ヲ錯亂セシメテ姦淫
シタル者ハ強姦ヲ以テ論ス

第三百四十九條 十二歳ニ滿サル幼女ヲ姦淫シタル者ハ輕懲
役ニ處ス若シ強姦シタル者ハ重懲役ニ處ス

第三百五十條 前數條ニ記載シタル罪ハ被害者又ハ其親屬ノ
告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三百五十一條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷
ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス
但強姦ニ因テ廢篤疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ死ニ致

リ公道ヲ紊ルニ足ル
其他淫行ヲ號舞シ風
俗ヲ壞亂スル者ハ必
ス罰セサル可ラス猥
本節コレ其罪ナリ
猥ノ所行至ラス手ヲ
以テ淫ヲ爲ス人ノ
貞潔ヲ汚損スルハ一
ナリ男ノ男ニ對シ女
ノ女ニ對スル所行及
ヒ強姦モ亦猥ノ所行
ニ屬スル所行トス強姦承
セサルモノヲ暴行脅
迫ヲ用ヒ其力ヲ拒防
スルヲ能ハサシメ
因テ其慾情ヲ遂ゲタ
ルモノ昏睡イナシニ
ナイン昏睡イナシニ
子ム精神錯亂モナシ

マナガ姦淫ケワ淫行
ハセル
ミダリガマシ勸誘ス
キオコナヒ
メ媒合ナカダ有夫ノ
婦オツトア相姦ツウ
ルオオンナ相姦ツウ
シタル本夫オツ縦容
オトコ
シヨ配偶者ツレアヒ
ウチ

第十二節 他人ノ不實
及節 誣告
及節 誣告
及節 誣告

第十二節 他人ノ不實
シテ告訴發スル者
及ヒ他人ノ名譽ヲ害

ス可キ事ヲ摘發公不
布スル者ノ罪ナリ不
實ノ事コトノ誣告罪
ヲ誣告スルト輕事ヲ
誣ヒテ重事ト爲シ告
ルヲ推問ミ惡事ヲ
ヒコ醜行ミダラナル
ト摘發ダス誣毀ルシ
事實ガト公然衆人ヲ
目目前コ於テ書類カキ
スルナリ
圖畫醜行雜劇芝居偶
像ニシテ作爲コシラ
像ヨウ
誣罔ノ罪ハ生者ノ如

シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百五十二條 十六歳ニ滿サル男女ノ淫行ヲ勸誘シテ媒合シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十三條 有夫ノ婦姦通シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其相姦スル者亦同シ

此條ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス但本夫先ニ姦通ヲ縱容シタル者ハ告訴ノ効ナシ

第三百五十四條 配偶者アル者重子テ婚姻ヲ爲シタル時ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十二節 誣告及ヒ誣毀ノ罪
第三百五十五條 不實ノ事ヲ以テ人ヲ誣告シタル者ハ第二百

二十二條ニ記載シタル偽證ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百五十六條 誣告ヲ爲スト雖モ被告人ノ推問ヲ始メサル前ニ於テ誣告者自首シタル時ハ本刑ヲ免ス

第三百五十七條 誣告ニ因テ被告人刑ニ處セラレタル時ハ第三百廿一條第二百廿二條ニ記載シタル例ニ照シテ處斷ス

第三百五十八條 惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誣毀シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス左ノ例ニ照シテ處斷ス

一 公然ノ演說ヲ以テ人ヲ誣毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上卅圓以下ノ罰金ヲ附加ス

二 書類圖畫ヲ公布シ又ハ雜劇偶像ヲ作爲シテ人ヲ誣毀シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三百五十九條 死者ヲ誣毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サ

第十三節 子孫ノ其祖父母ニ對スル罪

ク事實ノ有無ヲ問ハサルニ於テハ史家殆ト筆ヲ絶ツニ至ラン故ニ無根ノ事由ヲ構成シテ誹毀シタルニ非サレハ罰セス
託ニ陰私コトシ漏告モラシツケル

レハ前條ノ例ニ照シテ處斷スルコトヲ得ス
第三百六十條 醫師藥商穩婆又ハ代言人辨護人代書人若クハ神官僧侶其身分職業ニ於テ委託ヲ受ケタル事ニ因リ知得ル陰私ヲ漏告シタル者ハ誹毀ヲ以テ論シ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上卅圓以下ノ罰金ヲ附加ス但裁判所ノ呼出ヲ受テ事實ヲ陳述スル者ハ此限ニアラス
第三百六十一條 此節ニ記載シタル誹毀ノ罪ハ被害者又ハ死者ノ親屬ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
第十三節 祖父母父母ニ對スル罪
第三百六十二條 子孫其祖父母父母ヲ謀殺故殺シタル者ハ死刑ニ處ス
其自殺ニ關スル罪ハ凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ
第三百六十三條 子孫其祖父母父母ニ對シ毆打創傷ノ罪其他

第二章 財產ニ對スル罪

バ特ニ本節ヲ設ケテ其罪ヲ論スル凡人ノ刑ヨリ重クス可キヲ示スナリ
第六節 脅迫 第七節 遺棄 第九節 誣告誹毀
衣食ヲ供給セスノグヒモノヲ必要ナル奉ツハケス
養居所或ハ金錢ヲ以テスルヲ云フ
特別ノ宥恕不論罪
第二章 官物私物ヲ問ハス種々ノ手段ヲ以テ他ノ財產ニ對シ損害ヲ與フルノ

監禁脅迫遺棄誣告誹毀ノ罪ヲ犯シタル者ハ各本條ニ記載シタル凡人ノ刑ニ照シ二等ヲ加フ但癡疾ニ致シタル者ハ有期徒刑ニ處シ篤疾ニ致シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス
第三百六十四條 子孫其祖父母父母ニ對シ衣食ヲ供給セス其他必要ナル奉養ヲ缺キタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
因テ疾病又ハ死ニ致シタル者ハ亦前條ノ例ニ同シ
第三百六十五條 祖父母父母ニ對シタル殺傷ノ罪ハ特別ノ宥恕及ヒ不論罪ノ例ヲ用フルコトヲ得ス但其犯ス時知ラザル者ハ此限ニアラス
第二章 財產ニ對スル罪
第一節 竊盜ノ罪

罪ナ 第一節 暴行脅迫
 シテ他人ノ所有物ヲ
 己レノ物ト爲シ又ハ
 他人ニ與ヘン爲メ所
 有主ノ許諾ヲ得ヌ竊
 盗ニ去ル 人ノ所有
 者ノ罪ナリ
 所謂大祀神御物官
 物有物及ヒ家長ノ財
 物其他一切他人ノ所
 有ニ係ル物件ナリ
 竊取 晝夜ヲ別タス家
 竊取ノ内外ヲ問ハス
 ソツト物件ヲ 其他ノ
 取ルナイフ
 變難騷 第三百六十
 八條 解八第二編第三
 八條 章第七節ニ詳ナ
 リ 兇器人ヲ殺スニ足
 ル者ハ竊盗ヲ以テ論ス

第三百六十六條 人ノ所有物ヲ竊取シタル者ハ竊盗ノ罪ト爲
 シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第三百六十七條 水火震災其他ノ變ニ乘シテ竊盗ヲ犯シタル
 者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第三百六十八條 門戶牆壁ヲ踰越損壞シ若クハ鎖鑰ヲ開キ邸
 宅倉庫ニ入り竊盗ヲ犯シタル者ハ又前條ニ同シ
 第三百六十九條 二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各
 一等ヲ加フ
 第三百七十條 兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊
 盗ヲ犯シタル者ハ輕微役ニ處ス
 第三百七十一條 自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ他人ニ交付
 シ又ハ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守シタル時之ヲ竊取シタ
 ル者ハ竊盗ヲ以テ論ス

携帶 タツサ典物シテ
 竊取 採食ト異ナリ素
 菓ヲ採食シタル
 ハ違警罪ニ 鑛物 金銀
 見ヘタリ 銅鐵
 石炭石 其他ノ產物 菓
 灰等 人ノ生養シ若ク
 等 人ノ生養シ若ク
 ハ營業ニ關スル產物
 慈姑蓮根牡蠣牧場類
 海苔魚鳥ノ類 牧場類
 ナ蓄 牧蓄カヒオ同居
 ナ所 牧蓄ケル 同居
 イツシヨニ 第三百七
 ス非テスル 第三百七
 十七條 法律ハ何事ヲ
 問ハス一家内
 ノ隱事ニ及ホサハル
 ナ主義トス故ニ此例

第三百七十二條 田野ニ於テ穀類菜葉其他ノ產物ヲ竊取シタ
 ル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第三百七十三條 山林ニ於テ竹木鑛物其他ノ產物ヲ竊取シ又
 ハ川澤池沼湖海ニ於テ人ノ生養シ若クハ營業ニ關スル產物
 ナ竊盜シタル者ハ又前條ニ同シ
 第三百七十四條 牧場ニ於テ牧蓄ノ獸類ヲ竊取シタル者ハ二
 月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス
 第三百七十五條 此節ニ記載シタル輕罪ヲ犯サントシテ未ダ
 遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス
 第三百七十六條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處ス
 ル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス
 第三百七十七條 祖父母父母夫妻子孫及ヒ其配偶者又ハ同居
 ノ兄弟姉妹互ニ其財産ヲ竊取シタル者ハ竊盗ヲ以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

外法ヲ設ケルナリ但シ他人ト共ニ竊取シタル者ハ必ラス罪スヘキナリ

第二節 竊盜ニ對スル強盜ノ罪

追テ爲シ暴行ヲ加ヘテ人ノ所有物ヲ強取スル者ノ強取シヒテ罪ナリ

兇器ニ足ル器ヲ攜帶シテ人ヲ殺スモツ

第三百八十一條 強盜ノ已テ未遂ヲ問ハス財物ヲ得ルト得サルトナ

ノ限ニ在ラス 若シ他人共ニ犯シテ財物ヲ分チタル者ハ竊盜ヲ以テ論ス

第二節 強盜ノ罪

第三百七十八條 人ヲ脅迫シ又ハ暴行ヲ加ヘテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ輕懲役ニ處ス

第三百七十九條 強盜左ニ記載シタル情狀アル者ハ一個毎ニ一等ヲ加フ

一 二人以下共ニ犯シタル時

二 兇器ヲ攜帶シテ犯シタル時

第三百八十條 強盜人ヲ傷シタル者ハ無期徒刑ニ處シ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處ス

第三百八十一條 強盜婦女ヲ強姦シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第三百八十二條 竊盜財ヲ得テ其取還ヲ拒ク爲ノ臨時暴行脅

迫ヲ爲シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第三百八十三條 藥酒等ヲ用ヒ人ヲ昏迷セシメ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論シ輕懲役ニ處ス

第三百八十四條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シ減輕ニ因テ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三百八十五條 遺失及ヒ漂流ノ物品ヲ拾得テ隱匿シ所有主ニ還付セス又ハ官署ニ申告セサル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上廿圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百八十六條 他人ノ所有地内ニ於テ埋藏ノ物品ヲ掘得テ隱匿シタル者ハ亦前條ニ同シ

第三百八十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第三節 遺失物埋藏物ニ關スル罪

第三節 遺失物漂流物埋藏物ヲ得テ

隱匿スル遺失モノノ罪ナリ

漂流モノガレ隱匿シテオ還付サル官署ノ

スギノヤ 申告イヅル埋藏テアル

第四節 家資分散ニ關スル罪

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第四節 負債ノ爲メ身代限ノ處分ヲ受ケタル者其財産ヲ債主ニ渡サハル爲メ詐僞ノ所行ヲ爲シタル罪ナリ

シヨシ 藏匿カシ 脱漏スカ 虚僞ツソリ 負債シヤク 契約ソク 承諾シヨ 媒介セル 牒簿ヲウチ 毀棄 毀リ或ハ全部ヲ棄 毀リ或ハ全部ヲ棄 分散決定 裁判言私償ヒソカニ 第五節 騙欺ノ手段ヲ用ヒテ他人ノ財物ヲ取

第四節 家資分散ニ關スル罪

第三百八十八條 家資分散ノ際其財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚僞ノ負財ヲ増加シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス情ヲ知テ虚僞ノ契約ヲ承諾シ若クハ其媒介ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減ス

第三百八十九條 家資分散ノ際牒簿ノ類ヲ藏匿毀棄シ若ハ分散決定ノ後債主中ノ一人又ハ數人ニ其負債ヲ私償シ他ノ債主ヲ害シタル者ハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五節 詐欺取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪

第三百九十條 人ヲ欺罔シ又ハ恐喝シテ財物若クハ證書類ヲ騙取シタル者ハ詐欺取財ノ罪ト爲シ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス 因テ官私ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタル者ハ偽造ノ各

本條ニ照シ重キニ從テ處斷ス

第三百九十一條 幼者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神錯亂シタルニ乘シテ其財物若クハ證書類ヲ授與セシメタル者ハ詐僞取財ヲ以テ論ス

第三百九十二條 物件ヲ販賣シ又ハ交換スルニ當リ其物質ヲ變シ若クハ分量ヲ僞テ人ニ交付シタル者ハ詐僞取財ヲ以テ論ス

第三百九十三條 他人ノ動産不動産ヲ冒認シテ販賣交換シ又ハ抵當典物ト爲シタル者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

自己ノ不動産ト雖モ己ニ抵當典物ト爲シタルヲ欺隱シテ他人ニ賣與シ又ハ重子テ抵當典物ト爲シタル者亦同シ 第三百九十四條 前數條ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

リ及ヒ官署又ハ他人ヨリ受寄シタル財物ヲ費消藏匿 欺罔バ名シタル罪也 欺罔バ名前ヲ僞リ若クハ故ヲニ事實ヲ構ヘ其他詐僞ノ計略ヲ設ケ人恐テ欺騙スルナリ 恐喝例ヘバ其物件ヲ我ニ與ヘスンバ必ス汝ヲ死ニ致スヘシナドハ云證書 借用證書 賃返却證書 拂濟證 騙取カタリ 僞書ノ類 騙取カタリ 僞造ニセツ 幼者 二十歳 知慮淺薄 知慮思慮淺薄ナルナリ 精神錯亂 瘋癲痴呆ニテ事ノ是非

第六節 贓物ニ關スル罪

ナ辨セ 授與ス 物質
サル者 贖金ヲ眞金分
ナ變シト爲ス類
量ヲ僞ル 僞尺僞秤ヲ
以テ物品ノ
分量ヲ僞ル 動産類
ノル
不動産 家屋田畑山
林等ヲイフ
認メトスルノモ 抵當
ヤ
クキンノ典物モツ欺
ヒキアテ 典物モツ欺
隠カクシ 受寄アリ借
用物カクタ 典物ニト
リタル 費消ツカフテ
モノ 第六節 強竊
拐帶ニゲ 第六節 強竊

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ騙取拐帶其他詐欺ノ所爲有者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ト雖モ官署ヨリ押差タル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シス處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ掲ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受又ハ寄藏

第七節 放火ノ罪

欺取財賄賂又ハ遺失物ヲ拾得テ隱匿シ若クハ家資分散ノ際藏匿脱漏シタル物件ヲ受寄故買牙保シ寄藏タル者ノ罪ナリ
アツカリテ 故買コトシマヒオク 故買サレニウリ 牙保口入レ或ハウリ 牙保ハ受合

第七節 故意ヲ以テ火ヲ放ツモノトスル者ノ罪ナリ
住居シタル家屋官署社寺佛閣其他人民ノ家屋ニシテ現在人ノ住居スルモノナイフ學校説教所集會所又

第四百條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ監禁ニ付ス

第四百一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百二條 火ヲ放テ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セナル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

刑法

第六節 贓物ニ關スル罪

サレ者授與ス物質
 ナ變シト爲ス類
 量ヲ僞ル以テ物品ノ
 分量ヲ僞動産道具
 ヲル
 不動産家屋田畑山骨
 認ノトスルモ抵當シ
 クキンノ典物シテ欺
 ヒキアテモツ欺
 隠カクシ受寄アリ借
 用物カリタ典物シテ
 リタル費消ツカフテ
 モノ第六節強竊
 拐帶ニゲ第六節強竊

第三百九十五條 受寄ノ財物借用物又ハ典物其他委託ヲ受ケル金額物件ヲ費消シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス若シ贓取拐帶其他詐欺ノ所爲有者ハ詐欺取財ヲ以テ論ス

第三百九十六條 自己ノ所有ニ係ト雖モ官署ヨリ押差タル物件ヲ藏匿脱漏シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス但家資分散ノ際此罪ヲ犯シタル者ハ第三百八十八條ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十七條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第三百九十八條 此節ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者第三百七十七條ニ揭ケタル親屬ニ係ル時ハ其罪ヲ論セス

第六節 贓物ニ關スル罪

第三百九十九條 強竊盜ノ贓物ナルヲ知テ之ヲ受又ハ寄藏

第七節 放火ノ罪

欺取財賄賂又ハ遺失物ヲ拾得テ隱匿シ若クハ家資分散ノ際藏匿脱漏シタル物件ヲ受寄故買ヲ保シ寄藏タル者ノ罪ナリ

アツカリテ故買コトシマヒオク故買サレニウリ牙保口入レ或ハツフ牙保ハ受合

第七節 故意ヲ以テ火ヲ放ツモノトスル者ノ罪ナリ

住居シタル家屋官者社寺佛閣其他人民ノ家屋ニシテ現在人ノ住居スルモノヲイフ學校説教所集會所又

第四百一一條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二條 詐欺取財其他ノ犯罪ニ關シタル物件ナルヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲ爲シタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七節 放火失火ノ罪

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セナル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

第四百三條 火ヲ放テ人ノ住居セナル家屋其他ノ建造物ヲ燒燬シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

ハ劇場露店等ノ如キ
ハ晝間ハ人之ニ居ル
ハ夜間ハ人ノ居ラサ
ルモノナレハ其時間
ニ於テ住居ト不住
居トヲ分ツヘシ
燬火燬ノ屋上ニ渦マ
燬キ出テ異口同音ニ
出火ヲ報道スル人ノ
ヲ以テ適度トス
住居セサル家屋別荘
ノ如キ平日人ノ居
住セサル家屋ナリ
他ノ建造物倉庫納屋
廢屋人ノ住居スルヲ
得サルコソレ
ヘ露積ソトニツミ
ノ家屋財産失火ハ畢
竟不注意

第四百四條 火ヲ放テ廢屋及ヒ柴草肥料等ヲ貯フル屋舎ヲ燒燬シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百五條 火ヲ放テ人ヲ乗載シタル船舶瀛車ヲ燒燬シタル者ハ死刑ニ處ス

第四百六條 火ヲ放テ山林ノ竹木田野ノ穀麥又ハ露積シタル柴草竹木其他ノ物件ヲ燒燬シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百七條 火ヲ放テ自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四百八條 放火ノ罪ヲ犯シ輕罪ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第四百九條 火ヲ失シテ人ノ家屋財産ヲ燒燬シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八節 決水ノ罪

ヨリ出ルモノナレハ
自己ノ家屋ノミニ止
レハ其罪ナシト雖モ
若シ延燒シテ人ノ家
屋財産ニ及ブハ其
不注意ノ罪ヲ罰セサ
ルヲ
得ス 激發ス可キ物品
地雷火 煤氣井 瓦斯ノ
類 蒸氣罐
蒸氣罐
故意ノ過失
第八節 惡意ヲ以テ一
般ノ水害ヲ起
シタル堤防決潰
罪ナリ
キリヤ 水開水ノ出入
ブル 水開スル門即
チ樋ノ漂失ナガ田圃
ナリ

第四百十條 火藥其他激發ス可キ物品又ハ煤氣井蒸氣罐ヲ破裂セシメテ人ノ家屋財産ヲ毀壞シタル者ハ其故意ニ出ルト過失トヲ分チ放火失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第八節 決水ノ罪
第四百十一條 堤防ヲ決潰シ又ハ水開ヲ毀壞シテ人ノ住居シタル家屋ヲ漂失シタル者ハ無期徒刑ニ處ス

若シ人ノ住居セサル家屋其他ノ建造物ヲ漂失シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四百十二條 堤防ヲ決潰シ水開ヲ毀壞シテ田圃鑛坑牧場等ヲ荒廢シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第四百十三條 他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ヲ圖ル爲堤防ヲ決潰シ水開ヲ毀壞シ其他水利ヲ妨害シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上廿圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九節 船舶ノ覆没スル罪

第十節 家屋ノ毀壞シ及ヒ動植物ノ害スル罪

タハ 鑛坑 金銀銅鐵石
 炭等ヲ掘ル
 抗ナ 荒廢 スダ 水利
 ノベ 水害 ナン 第九節
 第六十九條ハ 船舶
 ノ往來ヲ妨害スル爲
 メ 燈臺浮標等ヲ損壞
 シ 因テ 船舶ヲ覆没シ
 タル 罪ヲ云ヒ 本節ハ
 衝突其他ノ所爲ヲ以
 テ 覆没シタル 衝突
 罪ヲイフナリ 衝突
 トフチトガ 乗載ノセ
 ツキアタル 乗載ノセ
 第十節 官有私有ヲ論
 セス 家屋建造
 物器物書類物件動物
 植物ヲ毀壞殘害スル
 罪ナ 人ノ家屋 人ノ住
 間ハ 官舎若クハ空
 間 房屋ヲ問ハス 皆是

第四百十四條 過失ニ因テ水害ヲ起シタル者ハ失火ノ例ニ照シテ處斷ス

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第四百十五條 衝突其他ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載シタル船舶ヲ覆没シタル者ハ死刑ニ處ス但船中死亡ナキ時ハ無期徒刑ニ處ス

第四百十六條 前條ノ所爲ヲ以テ人ヲ乗載セサル船舶ヲ覆没シタル者ハ輕懲役ニ處ス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第四百十七條 人ノ家屋其他ノ建造物ヲ毀壞シタル者ハ一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ毆打創傷ノ各本條ニ照シ重キ

ニ從テ處斷ス

第四百十八條 人ノ家屋ニ屬スル牆壁及ヒ園池ノ裝飾又ハ田圃ノ樊圍牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百十九條 人ノ稼穡木竹其他需用ノ植物ヲ毀損シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十條 土地ノ經界ヲ表シタル物件ヲ毀壞シ又ハ移轉シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十一條 人ノ器物ヲ毀壞シタル者ハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百二十二條 人ノ牛馬ヲ殺シタル者ハ一月以上六月以下

ナ 其他ノ建造物 倉庫
 神社佛閣學校 院
 院劇場等ナリ 牆壁
 カベ塀 裝飾 燈籠 垣籬
 園ノ類 裝飾 架橋 置物
 ノ樊圍 竹木ヲ以テ柵
 類ノ物ヲ作り人ノ濫
 入ヲ防 柵欄ヲ 稼穡
 クモノ 柵欄ヲ 稼穡
 穀麥 竹木 竹叢 其他需
 ノ類 竹木 樹木 其他需
 用ノ 植物 菓實 野
 菜ノ類 經界
 サカ 表シル 移轉
 ヒ 表シル 移轉
 器物
 器物

刑法

百九

以外ノ家畜ノ類ナリ
 權利義務ニ關スル證
 書類例ヘハ動産不動
 書或ハ金穀土地家作
 ノ貸借約定或ハ諸請
 負証文其他委任狀
 寄託書ノ類ナリ 滅
 盡カタナシ
 ニスル

第四編 違警罪

第四編 此編ハ多ハ粗
 漏怠慢ニ因テ

犯ス罪ヲ 拘留トメ科
 掲載ス 罰金トオナシキモ
 料ノナレハ金高ニヨ
 リテ區別市街ヲ運搬
 スルナリ

ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四百二十三條 前條ニ記載シタル以外ノ家畜ヲ殺シタル者
 ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス但被害者ノ告訴ヲ待テ
 其罪ヲ論ス

第四百二十四條 人ノ權利義務ニ關スル證書類ヲ毀棄滅盡シ
 タル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓
 以下ノ罰金ヲ附加ス

第四編 違警罪

第四百二十五條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ三日以上十日以下
 ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 一規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品ヲ市街ニ運
 搬シタル者

貯藏ヘル 烟火ハナ
 稠密モル

烟筒ケム 火籠カマ 建
 造ツクリ 修理シク掃
 除ツウ 督促ソク 崩壞
 クヅレコ 解剖フハ 死
 屍シガ 密ニ賣淫ヲ爲
 ス娼妓ノ鑑札ヲ受ケ
 ナリ 媒合ヲ容止ガ

二規則ヲ遵守セスシテ火藥其他破裂ス可キ物品又ハ自ラ火

ヲ發ス可キ物品ヲ貯藏シタル者

三官許ヲ得スシテ烟火ヲ製造シ又ハ販賣シタル者

四人家稠密ノ場所ニ於テ濫ニ烟火其他火器ヲ玩ヒタル者

五蒸氣器械其他烟筒火籠ヲ建造修理シ及ヒ掃除スル規則ニ

違背シタル者

六官署ノ督促ヲ受ケテ崩壞セントスル家屋牆壁ノ修理ヲ爲

サハル者

七官許ヲ得スシテ死屍ヲ解剖シタル者

八自己ノ所有地内ニ死屍アルヲ知テ官署ニ申告セス又ハ

他所ニ移シタル者

九人ヲ毆打シテ創傷疾病ニ至ラサル者

十密ニ賣淫ヲ爲シ又ハ其媒合容止ヲ爲シタル者

參看 明治十四年十二月九日第六十四號布告

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘトモ
當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官
ヘ委任ス

十一人ノ住居セザル家屋内ニ潜伏シタル者

十二定期タル住居ナク平常營生ノ産業ナクシテ諸方ニ徘徊
スル者

十三官許ノ墓地外ニ於テ私ニ埋葬シタル者

十四違警罪ノ犯人ヲ曲庇スル爲メ偽證シタル者但被告人偽
證ノ爲メ刑ヲ免レタル時ハ第二百十九條ノ例ニ從フ

第四百二十六條 左ノ諸件ヲ犯タル者ハ二日以上五日以下ノ
拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

一人家ノ近傍又ハ山林田野ニ於テ濫リニ火ヲ焚ク者

二水火其他ノ變ニ際シ官吏ヨリ防禦ス可キノ求メテ受ケ傍
觀シテ之ヲ肯セサル者

三不熟ノ藥物又ハ腐敗シタル飲食物ヲ販賣シタル者

四健康ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ傳染病豫防規則ニ
違背シタル者

五人ノ通行ス可キ場所ニアル危險ノ井溝其他凹所ニ蓋又ハ
防圍ヲ爲サハル者

六路上ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ嘯シ又ハ驚逸セシメタル者

七發狂人ノ看守ヲ怠リ路上ニ徘徊セシメタル者

八狂犬猛獸等ノ繫鎖ヲ怠リ路上ニ放チタル者

九變死人ノ檢視ヲ受ケシテ埋葬シタル者

十墓碑及ヒ路上ノ神佛ヲ毀損シ又ハ汚瀆シタル者

十一神祠佛堂其他ノ建造物ヲ汚損シタル者

潜伏 ヒソミカ 營生 ス
イワ 産業 テシ 徘徊 ブラ

埋葬 シガイ ナウ
ツメル

濫目ノ字眼

防禦 フセギ 傍觀 シテ

ミ 肯 シヨ 不熟ノ 藥物

ジウ ブンニ ミノ ラサ
ル 藥物ハ 健康ニ 害ア

腐敗 ル クサ 健康ヲ 保

護スル 規則 舶來 染紛

食物ニ 着色 スルヲ 禁

毒檢査 方法又ハ 便所

下水 芥溺等 掃除 修繕

ノ 傳染病 豫防 規則

豫防 規則等 凹所ノ アナ

バシヨ 防圍 イカコ 嘯

ケルシカ 驚逸 ハナル キ

發狂人 キチガ 看守 ミ

リ 狂犬 イヌノ 猛獸 キケ

モ繁クツナ變死人故
 毆殺ヨリ自殺マ
 テノ死チイフ 檢視
 ケイサツノ墓碑ハカ
 アラタメ 墓碑セキ
 ヒ毀損ツハケル汚瀆
 不潔ノ物ヲ其他公ノ
 以テヨゴス
 建造物 學校病院教育
 所集會所ノ類
 罵詈 辱弄ナブリ
 馬 駕 辱弄モテア
 ン急進ヲ要スル疾
 ブ濫ノ事故無キニ疾
 驅ハヤク制止ケイサ
 イ群集アツマル夜中
 シ 燈火ナク 軍人制服
 燈火ナク 着用シテ
 乘馬セルハコノ
 限リニアラス

- 十二 公然人ヲ罵詈辱弄シタル者但、訴ヲ待テ動罪ヲ論ス
- 第四百二十七條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ廿錢以上一圓廿五錢以下ノ科料ニ處ス
- 一 濫リニ車馬ヲ疾驅シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 二 制止ヲ背セスメ人ノ群集シタル場所ニ車馬ヲ牽キタル者
- 三 夜中燈火ナクシテ車馬ヲ疾驅スル者
- 四 木石等ヲ道路ニ堆積シテ防圍ヲ設ケス又ハ標識ノ點燈ヲ怠リタル者
- 五 瓦礫ヲ道路家屋圍ニ投擲シタル者
- 六 禽獸ノ死屍ヲ道路ニ棄擲シ又ハ取除カサル者
- 七 汚穢物ヲ道路家屋圍ニ投擲シタル者
- 八 警察ノ規則ニ違背シテ工商ノ業ヲ爲シタル者
- 九 醫師穩婆事故ナクシテ急病人ノ招キニ應セサル者

堆積 ミカカサチ
 防圍 カコ標識メジ
 點燈 トモシヒ瓦礫カ
 ラコ圍固ニハ投擲ナ
 イシ 糞尿ナゲス 汚穢物
 ツ棄擲ナゲス 汚穢物
 糞尿死屍 工商 鑄冶職
 廠敗物等 宿寄セ席
 其他火焚所 八品商雇
 人受宿旅人 宿寄セ席
 楊弓店等夫レ 申告ト
 ヲ規則アリ 無根ノ説
 ケ 流言浮説 無根ノ説
 ナ 誑惑 アサムキ 吉凶
 リ 誑惑 マトラス 吉凶
 稱シテ人ノ吉凶符呪
 禍福ヲ説クナリ符呪

- 十 死亡ノ申告ヲ爲サスシテ埋葬シタル者
- 十一 流言浮説ヲ爲シテ人ヲ誑惑シタル者
- 十二 妄ニ吉凶禍福ヲ説キ又ハ祈禱符呪等ヲ爲シ人ヲ惑ハノ利ヲ圖ル者
- 十三 私有地外へ濫ニ家屋牆壁ヲ設ケ又ハ軒楹ヲ出タル者
- 十四 官許ヲ得スシテ路傍河岸ニ床店等ヲ開キタル者
- 十五 路上ノ植木市街ノ常燈及ヒ厠場等ヲ毀損シタル者
- 十六 道路橋樑其他ノ場所ニ榜示シタル通行禁止及ヒ指道標ノ類ヲ毀棄汚損シタル者
- 第四百二十八條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス
- 一 官署ヨリ價額ヲ定タル物品ヲ定價以上ニ販賣シタル者
- 二 渡船橋樑其他ノ場所ニ於テ定價以上ノ通行錢ヲ取り又ハ

符ハ神符守札ノ類利
 呪ハマジナヒナリ
 ナ圖ル者ハ十二項ノ意
 眼目軒楹ノキハ路傍
 ナリ軒楹シラ
 ミチ河岸シ植木キ
 ハタ常燈ルトモシケ
 マイヤツケ
 カハ十五本條ノ刑ニ
 ヤ毀損ヲ賠償セシ
 ムルハ亡論ナリ榜示
 フダチタテ指道標
 ハシラスル
 道案内官署ヨリ價額
 ノ標示
 ナ定メタル物品用紙
 紙證券印紙界紙及劇
 ヒ郵便切手ノ類
 場シハ觀物場ニセモ

故ナク通行ヲ妨ケタル者
 三渡船橋梁其他通行錢ヲ拂フ可キ場所ニ於テ其定價ヲ出サ
 スシテ通行シタル者
 四路上ニ於テ賭博ニ類スル商業ヲ爲シタル者
 五官許ヲ得シテ劇場其他觀物場ヲ開キ及ヒ其規則ニ違背
 シタル者
 六溝渠下水ヲ毀損シ又ハ官署ノ督促ヲ受ケテ溝渠下水ヲ浚
 ハサル者
 七制止ヲ肯スシテ路傍ニ食物其他ノ商品ヲ羅列シタル者
 八官許ヲ得スシテ獸類ヲ官有地ニ放チ牧畜シタル者
 九身體ニ刺文ヲ爲シ及ヒ之ヲ業トスル者
 十他人ノ繫キタル牛馬其他ノ獸類ヲ解放シタル者
 十一他人ノ繫キタル舟筏ヲ解放シタル者

羅列ナル刺文スナリ
 此事往時最モ賤民ニ
 行ハレ之ヲ榮トスル
 惡弊アリシカ明治五
 年十一月之ヲ禁止セ
 レ解放トキハ舟筏ヲ
 イカ冰雪スレハ行人
 タノ危険少塵芥コレチ
 ナカラス
 レハ道路ノ遊戯鞠毬
 不潔トナル
 ナ紙鷺ヲ放チ羽根ヲ
 撲チ獨樂ヲ玩フ等
 忽ソソ

第四百二十九條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以
 下ノ科料ニ處ス
 一橋梁又ハ堤防ノ害ト爲ル可キ場所ニ舟筏ヲ繫キタル者
 二牛馬諸車其他物件ヲ道路ニ横タヘ又ハ木石薪炭等ヲ堆積
 シテ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 三車馬ヲ並べ牽テ行人ノ妨害ヲ爲シタル者
 四水路ニ於テ舟ヲ並べ通船ノ妨害ヲ爲シタル者
 五冰雪塵芥等ヲ路上ニ投棄シタル者
 六官署ノ督促ヲ受ケテ道路ノ掃除ヲ爲サハル者
 七制止ヲ肯セスシテ路上ニ遊戯ヲ爲シ行人ノ妨害ヲ爲シタ
 ル者
 八牛馬ヲ牽キ又ハ繫クヲ忽カセニシテ行人ノ妨害ヲ爲シ
 タル者

禁止ルトメ放歌ウタヒ

高聲コエ酩酊酒ニ

喧噪サリ酔臥エヒタ

牆壁門戸ヲ樂書ムギ

招牌カン榜標シル

菜菓ヤサイグ採食ト

テク花卉ハナ

採折ナリ

九出入ヲ禁止シタル場所ニ濫リニ出入シタル者

十通行禁止ノ榜示ヲ犯シテ通行シタル者

十一道路ニ於テ放歌高聲ヲ發シテ制止ヲ肯シサル者

十二酩酊シテ路上ニ喧噪シ又ハ酔臥シタル者

十三路上ノ常燈ヲ消シタル者

十四人家ノ牆壁ニ貼紙及ヒ樂書シタル者

十五邸宅ノ番號標札招牌又ハ貸家賣家ノ貼紙其他報告ノ榜

標等ヲ毀損シタル者

十六他人ノ田野園圃ニ於テ菜菓ヲ採食シ又ハ花卉ヲ採折シ

タル者

十七公園ノ規則ヲ犯シタル者

十八通路ナキ他人ノ田圃ヲ通行シ又ハ牛馬ヲ牽入タル者

第四百三十條 前數條ニ記載スルノ外 各地方ノ便宜ニヨリ

便宜ツガ

定ムル所ノ違警罪ヲ犯シタル者其罰則ニ從テ處斷ス

第一章 主刑執行

第二章 刑法第三十條

マテノ主刑處分ニツキ其執行ヲ明細ニセシモノ 刑場ノバシヨナリ
囚人メシ告示コソニウトヨストイフ決
ヲチツゲシメス 決
行ケル 警戒ヨウジ
嚴キビシ關タル許
可シヨ 畢リヌ署名
レン捺印インナ
メイ捺印オス
元始祭 一月三日
孝明天皇祭 一月三十日

刑法附則

第一章 主刑執行

第一條 死刑ハ其執行ヲ爲ス裁判所ノ檢察官書記及ヒ典獄刑
場ニ立會典獄ヨリ囚人ニ死刑ヲ執行ス可キヲ告示シタル
後押丁ヲシテ之ヲ執行セシム但其期限ハ午前十時前トス
第一條 死刑ヲ行フ時ハ刑場ノ警戒ヲ嚴ニシ執行ニ關スル者
ノ外刑場ニ入ルヲ許サス但立會官吏ノ許可ヲ得タル者ハ
此限ニ在ラス

第三條 死刑ノ執行畢タル時ハ書記其始末書ヲ作り立會ヲ爲
シタル官吏ト共ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ノ檢事局ニ納可シ
第四條 左ニ記載シタル日ハ死刑ヲ行フヲ禁ス

元始祭
孝明天皇祭

刑法附則

紀元節 二月十日
 春季皇靈祭 春分
 仁孝天皇祭 二月十一日
 神武天皇祭 四月三日
 六月大祓 三十日
 秋季皇靈祭 秋分
 神宮神嘗祭 十月十日
 天長節 十一月三日
 後桃園天皇祭 十二月六日
 新嘗祭 十一月廿三日
 光格天皇祭 十二月十二日
 十二月大祓 三十日
 宣告 十月十日 懷胎 十月十日

紀元節
 春季皇靈祭
 仁孝天皇祭
 神武天皇祭
 六月大祓
 秋季皇靈祭
 神宮神嘗祭
 天長節
 後桃園天皇祭
 新嘗祭
 光格天皇祭
 十二月大祓
 第五條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル婦女懷胎ト申スル者ハ醫師及

申テテシ穩婆トリア
 檢査シテ果シテ婦女
 立ツル命令ヲ
 トホリシガ一定キマ親
 遺體イ故舊トモ請フ
 屬リシガ一定キマ親
 者ヲシガイノサゲ
 接見
 榜示シケイ公告シテ上ニ
 徒流徒ハ徒刑發遣
 ツカ
 ワス

穩婆ヲシテ之ヲ檢査セシメ果シテ懷胎ナル時ハ檢察官ヨリ
 司法卿ニ上申シテ其執行ヲ停メ産後一百日ヲ經テ更ニ司法
 卿ノ命令ヲ受ケテ執行スヘシ
 第六條 死刑ノ遺體ハ一定ノ場所ニ埋ム若シ親屬故舊請フ者
 アル時ハ典獄之ヲ許可シ下付スルコトヲ得
 第七條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者執行ニ至ルマテ何時ニテモ
 典獄ノ許可ヲ得テ其親屬故舊ニ接見スルコトヲ得
 第八條 死刑ヲ執行シタル時ハ犯人ノ屬籍氏名年齢職業住所
 及ヒ其罪狀刑名ヲ記載シテ左ノ各所ニ榜示公告ス可シ
 刑ヲ宣告シタル裁判所ノ門前
 犯罪ノ地
 犯人住居ノ地
 第九條 徒流ノ囚ヲ發遣スルハ裁判ヲ爲タル地ノ監獄管理長

發船フチヲ護送マモ
ダスリオモ
ク便宜ツカ獄外ヤ
ノ
ト島地グニ
工業シ幽閉ト
メルコ

家屬サイシケ
ンツク
路費ダウチウ
イリヨウ
監督ミハリメ事故ケ
ヲ
ガ限外カギリ
ノソト

官ヨリ内務卿ニ上申シ其命令ヲ待テ發船ノ地ニ護送ス可シ
第十條 徒刑ノ囚ハ島地ニ於テ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十一條 流刑ノ囚幽閉中獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十二條 流刑ノ囚幽閉ヲ免ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ内務司法兩卿ニ上申シ其許可ヲ受ク可シ

第十三條 徒刑ノ囚假出獄ヲ許サレタル者又ハ流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者家屬ヲ招キ同居スルヲ請フ時ハ之ヲ許スルヲ得但其路費ハ自ラ之ヲ辨ス可シ

第十四條 流刑ノ囚幽閉ヲ免シ地ヲ限り居住セシムル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限り典獄ノ監督ヲ受ケシム若シ己ムヲ得サル事故アル時ハ典獄ニ請フテ限外ニ出ルヲ得

第十五條 流刑ノ囚幽閉ヲ免セラレタル者再ヒ罪ヲ犯シタル時ハ本刑期限内ト雖モ島地ニ於テ直ニ刑ヲ執行ス可シ

第十六條 懲役重禁錮ノ囚ハ便宜ニ從ヒ獄外ノ役ニ服セシムルヲ得

第十七條 禁獄輕禁錮ノ囚獄内ニ於テ自ラ工業ヲ爲サント請フ者ハ典獄之ヲ許ス可シ

第十八條 服役限内更ニ罪ヲ犯シ再ヒ定役ニ服スル者後犯ノ刑期百日以内ハ工錢ヲ給與セス

第十九條 囚人ニ給與スル工錢ノ額ヲ定メ之ヲ交付シ及ヒ領置スル方法ハ監獄規則ニ從フ

第二十條 罰金科料ノ宣告ヲ受ケ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之ヲ徵收セス附加ノ罰金ニ於ル亦同シ

第二章 監視

第二章 刑法第一編第二章 第三節

工錢テマ
チン
交付ワス
領置トリ
オク

納完ミナ
チル
徵收トリ
テル

第二章 監視

刑法附則

ル附加刑處分中監視ノ條ヲ明細ニセシモ也將來スエ檢束シマル犯人シタルヒト護送オクリトケル

文書ツケ騰本シウツ一日程イナニチノ最近イナバン

里程ノリ限定サダメル旅券ダウチウ付與シタ到着ツキ事故トガ淹滞トウ送致ルヲ淹滞リウ送致ル

第二十一條 監視ハ主刑ノ終リタル後仍ホ將來ヲ檢束スル爲メ警察官吏ヲシテ犯人ノ行狀ヲ監視セシムル者トス
第二十二條 監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ主刑ノ終リタル時典獄ヨリ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ監視ヲ執行セシム主刑ノ期滿免除ヲ得タル者又ハ主刑ヲ免シ止テ監視ニ付スル者ハ其裁判所ノ檢察官ヨリ警察所ニ護送ス可シ

第二十三條 犯人ヲ警察所ニ護送スル時ハ其監視ノ期算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ騰本ヲ附ス可シ
第二十四條 犯人ノ住居遠地ニ在テ一日程ヲ過クル者ハ典獄若クハ警察官ヨリ先ツ最近ノ警察所ニ護送シ其警察所ヨリ住居ノ地ノ警察所ニ送致ス可シ
第二十五條 警察所ヨリ犯人ヲ住居ノ地ノ警察所ニ送致スル

時ハ其里程ヲ計リ日數ヲ限定シテ旅券ヲ附與シ犯人到着ノ日直チニ之ヲ其他ノ警察所ニ差出サシム但途中事故アリテ淹滞シタル時ハ第三十一條ノ例ニ從フ可シ
犯人ヲ送致スル時ハ第三十二條ニ記載シタル書類ヲ其地ノ警察所ニ送致ス可シ
第二十六條 犯人住居ノ地ノ警察所ニ於テハ監視ノ期間間遵守ス可キ條件ヲ讀聞カセ監視ノ票ヲ下付ス可シ
第二十七條 監視ニ付セラレタル者ハ其期間間左ノ條件ヲ遵守ス可シ
一 毎月二度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表示シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルヲ能ハサル時ハ其事由ヲ届ケ出ツ可シ

酒宴サカ遊興オモシモリモリ遊興ロクアオモシ
 ソ席ザシ群集タイセブ席キ群集イアツママ參會ユク移轉ウツ申請チガヒ許可ユル申請イヅル許可シヲ
 擅カツ旅行ダウ具申具申ヲ
 クワシクマ時宜ソノチシイヅル時宜トキノ
 ノツ臨檢シユツヲヨガフ臨檢ウシテシラ
 ベ轉住ウツリ通知ラル轉住スム通知ラ
 セ往復ユキカ限定カル往復ヘリ限定ギ
 リサダ還納カヘシオメル還納サムルオ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
 三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ
 四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若己ムヲ得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可ヲ受ク可シ
 第二十八條 監視ノ期間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアル可シ
 第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シタル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ
 第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時ハ其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日數ヲ限定シ旅券ヲ付與ス可シ

天災 風雨洪水地臨時 震等ヲ云フ臨時
 オモヒ具申ツブサニノホカ具申マナシイ
 ツ歸着カヘリ別房ツル歸着ツシ別房ツ
 ダンノ留置トメ工業工業イヘ留置オキ工業工業
 テシ使役ツカ資力資力トモト使役ツカ資力資力
 テ
 殘期 監獄中ノ別房ニ 在リシ日ヲ引去
 ノ日數

犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅券ヲ警察所ニ還納ス可シ
 第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時滯留シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日數ニ添ヘ警察所ニ差出ス可シ
 第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸着スル資力ナキ者亦同シ
 第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸着スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

第三章 假出獄及特別監視

第三十四條 假令ハ初六ヶ月ニシテ再犯ノ監視九ヶ月ナルハ十五月ノ監視ニ付シ其監視間ニ罪ヲ犯シテ再ヒ監視ニ付スル如キハ其主刑ノ満期ニ至リ前ノ監視ノ殘日數ト後ノ監視ト合算シテ監視ニ付スルナリ 謹守シシマ 悛改 アラタムモル

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期間再ヒ罪ヲ犯シ更監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑満限ノ前後ノ期限ヲ通算シ監視ヲ執行ス可シ

第三十五條 罰金ノ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ遵守シ悛改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其實情ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルコトヲ得

第三十七條 假ニ監視ヲ命セラレタル者住居ヲ轉移スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ可シ

第三章 假出獄及ヒ特別監視

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシ

請票 シヨウコノカキツケ

屬籍 華士族 平民 罪名 重罪 輕罪 徒流懲役 禁錮ノ類 處刑ノ年月日 ツミツケセラレタルチンゲ ツジ 停止メ

申請 イツル許可ウチ

ナ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一 本人ノ屬籍氏名年齢住所罪各刑名及ヒ處刑ノ年月日

二 殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三 假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四 假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セザル事

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財產ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ

贍本 シ ッ
施行 ナ フ
適用 モ ル

毎週間 七 日
毎 ニ

出獄ノ日典獄ヨリ其證票ノ贍本ヲ添ヘ犯人ヲ其住居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ施行セシム可シ

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第廿三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第卅一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セザレタル者ハ其期間間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ至リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ己ムヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届ケ出ツ可シ

二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ羣集ノ場所ニ參會スルヲ許サス

三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許

可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルヲ許サス

四 往復一日程ヲ過ル地ニ旅行スルヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期間間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルヲアルヘシ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假

出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典

獄ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ受取人ナキ時

ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中ノ別房ニ留置ス可シ

第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辨

第四章 刑事裁判費用

第四章 刑法第四十五條第四十七條ノ徵償處分ノ中ニテ刑事ノ裁判費用ニ係

刑法附則

ハルモノナリ
セシモノナリ

豫審判事ノ下
吟味ナリ

日當テ
テア 旅費
ウノニ

ヒフ

人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ第五十一條第五
十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ
日當五十錢

旅費一里十錢

止宿料一宿貳拾五錢

住居三甲以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地
ニ滞在申ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者
ハ旅費止宿料ヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非
サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條
ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給ス

請求
マナシ
ダテ

生業
スキ
ワヒ

要求
モト 若干
ナニホ
ドカ

解剖
ケツ 舍密
セキ

ルコアル可シ

第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要スル
料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサル前ニ於
テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵收ス

第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者ニ還付ス
ト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被害者ノ請求ニ因
リ還給セシムル者トス

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ因リ買取
シタル物品ハ其公商若シクハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償
ハザレハ直チニ還給セシムルヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ

第五章 賠償處分

第五章 刑法第四十六
條ヨリ第四十

八條マテノ徵償處分
ノ中ニテ賠償ニカハ

ルモノヲ明細ニ 贓物
セシモノナリ

不正ノモノ 輾轉マハ
ススミモノ

ハ公商 例ヘハ衣類ハ
ル 古手商ノ取扱

フヘキモノ 書類ハ書
林ノ取り扱フヘキモ

ノ反物ハ呉服店ノ取
リ扱フヘキモノタル

刑法附則

如買取カヒトル原價モト子
 轉償カハリノシナカマダハモト子ヲ
 イレサ受ケモロ典物
 シテ交換コウエキ現在シ
 ニツノヒト典主オキ
 ノテニアルヲシ
 費用シマフ識別ミケル
 所在アリ損害ノ賠償
 ツノツンガイダ名譽
 ケノツンナヒ
 ホマ審判サイ民事裁
 判所云々新ニ民事裁
 ノ訴ヲ爲サ子バ
 ナラヌナリ

得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得
 第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者其贓物現
 在スル時ハ還給ヲ拒ムルヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ
 典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得
 第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トチ
 區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ
 第五十八條 贓物己ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラザル時
 又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得
 第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ
 爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ
 此限ニ在ラス
 第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁
 判所ニ請求スルヲ得若其審判己ニ終リタル後ハ民事裁判

通常ノ文書ナミカタ
 ケ言語コウジ程式シ
 ヲノテ本犯ツミシ
 ヲキ
 タルホ
 ンニ
 處分トリハ請求モト
 カラヒ

所ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ得ス
 第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求
 スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其民事
 裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ
 第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時ハ其相續
 人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得
 第六十三條 贓物ノ還給損害賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠
 償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ
 請求スルヲ得

福井 淳 註 釋

鼈 頭

註 釋

標 註 傍 訓 治 罪 法

附 參 考 諸 布 令

明 治 十 七 年 三 月 出 版

治罪法目録

第一編 總則 自第一條 至第三十條

第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限 自第三十一條 至第九十一條

第一章 通則 自第三十一條 至第四十八條

第二章 違警罪裁判所 自第四十九條 至第五十三條

第三章 輕罪裁判所 自第五十四條 至第六十二條

第四章 控訴裁判所 自第六十三條 至第六十九條

第五章 重罪裁判所 自第七十條 至第七十六條

第六章 大審院 自第七十七條 至第八十二條

第七章 高等法院 自第八十三條 至第九十一條

第三編 犯罪ノ捜査起訴及ヒ豫審 自第九十二條 至第二百六十二條

治罪法目録

第一章 捜査 自第九十二條 至第百六條

第一節 告訴及ヒ告發 自第九十三條 至第九十九條

第二節 現行犯罪 自第百條 至第百六條

第二章 起訴 自第百七條 至第百十二條

第一節 檢察官ノ起訴 自第百七條 至第百九條

第二節 民事原告人ノ起訴 自第百十條 至第百十二條

第三章 豫審 自第百十三條 至第百三十三條

第一節 令狀 自第百十八條 至第百四十二條

第二節 密室監禁 自第百四十三條 至第百四十五條

第三節 證據 自第百四十六條 至第百四十八條

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質 自第百四十九條 至第百五十七條

第五節 檢證及ヒ物件差押 自第百五十八條 至第百六十九條

第六節 證人訊問 自第百七十條 至第百九十條

第七節 鑑定 自第百九十一條 至第百條

第八節 現行犯ノ豫審 自第百二十一條 至第百二十九條

第九節 保釋 自第百三十條 至第百三十九條

第十節 豫審終結 自第百四十條 至第百三十三條

第四章 豫審上訴 自第百三十四條 至第百六十一條

第四編 公判 自第百六十二條 至第百九條

第一章 通則 自第百六十二條 至第百二十一條

第二章 違警罪公判 自第百二十一條 至第百四十六條

第三章 輕罪公判 自第百四十七條 至第百七十一條

第四編 重罪公判 自第三百七十二條 至第四百九條

第五編 大審院ノ職務 自第四百十條 至第四百五十八條

第一章 上告 自第四百三十八條 至第四百四十七條

第二章 再審ノ訴 自第四百三十九條 至第四百四十七條

第三章 裁判管轄ヲ定ムルノ訴 自第四百四十八條 至第四百五十一條

第四章 公安又ハ嫌疑ノ爲ノ裁判管轄ヲ移スノ訴 自第四百五十一條 至第四百五十八條

第六編 裁判執行復権及ヒ特赦 自第四百五十九條 至第四百八十九條

第一章 裁判執行 自第四百五十九條 至第四百六十九條

第二章 復権 自第四百七十條 至第四百七十六條

第三章 特赦 自第四百七十七條 至第四百八十九條

第一編 總則

總則 此治罪法全体ニツキ豫審公判ヲ問ハス總テ通用スベキ法則ナリ

公益ニガ、證明ラカニシテ適用メタル法律ニ定メタル區別 輕罪ニツキテハ始審裁判所檢事公訴ヲ行フ 檢察官檢事ノ類ナリ

長檢事檢事補及ヒ違警罪裁判所ニ於テハ刑事原告ノ職務ヲ行フ 警部ヲ總稱ス

私訴 公益ニ係ハル損失ヲ取戻スルナリ

第一編 總則

第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスル者ニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢察官之ヲ行フ

第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスル者ニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス

第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待チ起ル者ニアラス又告訴私訴ノ棄權ニ因テ消滅スル者ニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニアラス

第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得但法律ニ於テ其裁判所ニ私訴ヲ爲スヲ許サハル場合ハ此限ニ在ラス

又私訴ハ別ニ民事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得

治罪法

リ賠償ツケ贓物不正ノ又ス返還トリモ民法ヨハニ民法被害者ガイナカフ屬ス私ハ爲スト爲サハルトハ本人ノ隨意ナリユニ行フトセスシテ屬スト記スナリ

告訴アリシトツクル稟權ナガラ面倒ナリトテ訴へ出消滅キヘテサルナリ

法律ニ於テ特ニ定メタル場合例ハバ姦罪

第五條 公訴私訴ノ裁判ハ管轄裁判所ニ於テ現ニ施行スル法律ニ定メタル訴訟手續ニ從ヒ之ヲ爲ス可シ

第六條 刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所トニ於テ公訴私訴並起ル時ハ公訴ノ裁判ニ先テ私訴裁判ヲ爲カラス若シ賠償返還ノ言渡アリタル後刑ノ言渡アリタル時ハ共ニ其効ナカル可シ

第七條 民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル時ハ檢察官ノ起訴アルニ非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得

第八條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受タリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムル妨礙ト爲ナカル可シ

第九條 公訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條件ニ因テ消滅ス

金額キム附帶ツキマ但法律ニ於テ云々例ハ軍事裁判所ニ於テハ私訴ノ裁判ヲ爲サイルカ如別ニ附帶セキ類也別ニスシテ別ニ管轄裁判所ノ種類性質場所及ヒ被告ノ身分ニツキ各其所轄ヲ異ニス第三十八條第四十條第八十三條ヲ見現ニ施行スル法律ニ定メタル云々

犯罪ノ日時ノ法律ニ拘ハラス訴ヲナス當時現ニ施行スル訴訟手續ニ從フベキ

一 被告人ノ死去

二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付ハ被害者ノ稟權又ハ私和ニ確定裁判

三 確定裁判

四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

五 大赦

六 期滿免除

第十條 私訴ヲ爲スノ權ハ左ノ條ニ因テ消滅ス

一 被害者ノ稟權又ハ私和ニ確定裁判

二 確定裁判

三 期滿免除

第十一條 公訴期滿免除ノ期限左ノ如シ

一 違警罪ハ六月

二 輕罪ハ三年

ヲ云 若シ賠償云々

賠償ヲ免ルハノ言渡アリタルハ公訴私訴共ニ其効承諾シヨク存ス

免訴 第二百二十四條ヲ見ル可シ

無罪ノ言渡 第三百三十五條一項

第三百五十八條一項 第四百條一項ヲ見ル可

賠償返還ヲ要ムル云々 賠償ノ義務ハ起因スルモノニ非

由テモ生スル私和イ

アレバナリ私和イ

サ確定裁判 裁判所ノ言渡ニ對

三重罪八十年

第十二條 私訴期滿免除ノ期限ハ被害者無能力ナル時又ハ民事裁判所ニ其訴ヲ爲シタル時ト雖モ公訴期滿免除ノ期限ト同一ナリトス

公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタル時ハ民法ニ定メタル期滿免除ノ例ニ從フ

第十三條 公訴私訴期滿免除ノ期限ハ犯罪ノ日ヨリ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

第十四條 期滿免除ハ刑事裁判所ニ於テ檢察官若クハ民事原告人ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シ又豫審若クハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期限ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セザル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ

期滿免除ノ期限ノ經過シ中斷シタル時ハ起訴豫審又ハ公判

シ故障控訴上告ヲナスベキ期限ヲ經過シ

其他上訴ノ途絶ヘタルヲイフナリ

赦カレコノクベツナクエニスコト

期滿免除 刑法第一編第二章第七節及ヒ治罪法第十

一條ヲ見ルベシ 無能力一未丁年者ニ妻

癡人四治産ノ禁ヲ受ケタル者通常民事期

滿免除ノ期限ハコレ等ノ者ニ對シテハ後

見人ノ有無ニ拘ハラズ其期限ヲ中止スレ

ル犯罪ヨリ生スル民事ノ期滿免除ニ於テ

ハ中止セ 繼續犯罪時

ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期限ヲ起算ス但前後ノ日數ヲ通算ノ第十一條ニ定メタル期限ノ二倍ヲ超過ス可カラス

第十五條 起訴豫審又ハ公判ノ手續其規則ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スル時ハ期滿免除ノ期限ノ經過ヲ中斷スルノ効ナカル可シ但裁判官ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スル時ハ此限ニ在ラス

第十六條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重キ過失ニ出タル時ハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ルコト得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重キ過失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタル時ハ亦同シ

民事原告人豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上訴ヲ爲シ敗訴シタ

治罪法

犯ニ對スル稱呼ニシテ多少ノ時間一犯罪事ノ繼續シテ成リ立ツ性質ノモノヲ謂フナリ國事犯偽造貨幣擅ニ人ヲ監禁スル罪等コレ豫審シタシ公ナリ裁判所ニ於テ衆人判ノ傍聽ヲ許シ公ケニ判決スル中斷ナカクナイフ

ニテ正犯 刑法第一編第八章第一節 從犯 刑法第一編第八章第二節

民事擔當人 一未丁年シクハ母父ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲スモノニ夫タル者三白痴瘋癲人ノ保管者

ル時ハ被告人其上訴ニ因リ生タル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得
要償ノ 訴ハ本案ノ裁判官渡アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十七條 被告人無罪ノ言渡ヲ受タリト雖モ裁判官 檢察官書記又ハ司法警察官ニ對シ要償ノ 訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ非ラス

第十八條 此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスル者ハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスル者ハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ル時ハ期限ニ算入ス可カラズ但期滿免除ノ期限ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

四 雇 超過ル 理由モ
主 犯罪ニ由リ損
告 訴人 害ヲ被リタル
者ノ 訴ヲ告 告發人他
訴ト云フ
ノ和罪ヲ知リタルモ
之ヲ官ニツクル之
ハ告發 重キ過失例ヘ
ト云フ
人ノ所有物ヲ己レノ
モノト誤認シ其穿鑿
ヲ遂ケス輕卒ニ盜マ
レタルト告訴スルノ
類也 過實例ヘハ人アリ
也 過實例ヘハ人アリ
人ヲ銃殺シタルニ被
害者ノ相續人故殺又
ハ謀殺ノ罪ヲ以テ被
告人ニ歸スル類ナリ
敗訴 マケ要償 ツクナ
ヒモト

第十九條 此法律ニ定メタル期限ニハ陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿サル者ト雖モ三里以上ナル時亦同シ島地又ハ外國トノ路程ノ猶豫ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フ可シ

第二十一條 訴訟關係人ハ裁判所々在ノ地ニ住セザル時ハ其地ニ假住所ヲ定メ書記局ニ届置ク可シ否ラサル時ハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第二十二條 此法律ニ於テ訴訟關係人ニ書類ヲ送達スルニ付キ別ニ規則アラサル時ハ書記其送達書ヲ作り書記局所屬ノ使丁ヲシテ之ヲ送達セシム

▲參看 使丁規則ハ明治十四年司法省丁第廿六號達ニ就テ見ル可シ

治罪法

ル本條ノシ 故意
 刑法ニ定メタル罪
 刑罰第二編第 曆ニ
 九章第二節
 從フ 歳月ノ大小ニ拘
 ニ沙ルチ云即チ一ケ
 年ノ禁獄ナレハ今年
 七月十一日ヨリ來路
 年七月十日迄ナリ路
 程ノリ 訴訟通常ノ訴
 障控訴上告其他 特別
 再審ノ訴等ナリ
 ノ場合 第二百五十八
 條ヲ見 訴訟關係人 檢
 官民事原告人及民 送
 事擔當人等ナリ

若シ書類ニ送達ヲ受ク可キ者裁判所ノ管轄地外ニ在ル時ハ
 其地ノ裁判所ノ書記ニ送達ノ事ヲ囑託ス可シ
 第二十三條 送達書ハ二通ヲ作り其一通ヲ本人ニ渡ス可シ本
 人ニ渡スコトヲ得ザル時ハ其住所ニ於テ同居ノ親屬又ハ雇人
 ニ渡ス可シ
 送達人ハ之ヲ受取りタル者ヲシテ其二通ニ署名捺印セシム
 若シ署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ
 同居ノ親屬又ハ雇人ニ書類ヲ渡スコトヲ得ス若クハ是等ノ者
 之ヲ受取ルコトヲ肯セザル時ハ其地ノ戸長ニ渡置キ戸長ハ其
 書類ニ認印シ速ニ本人ニ送達スルノ處分ヲ爲ス可シ
 送達人ハ書類ヲ受取りタル者ノ氏名場所及ヒ日時ヲ其二通
 ニ記載ス可シ
 本條ノ規則ニ背キタル時ハ書類送達ノ効ナカル可シ

達、ケル 別ニ規則
 アラザル云々 別段定
 規則トハ第百三十條
 第二項ニ於テ勾引狀
 勾留狀收監狀ハ巡查
 チシテ執行セシムト
 ナスモノ、署名捺印
 如キ是ナリ
 ナチシルシ 肯セザル
 インチオス 認印
 時シヨウチセ 認印
 ギルトキ
 メイン 處分カライハ日
 チオス
 何年何月 還納シカハ
 時何日何時
 サメ 保存 ナクセズヤ
 ル 保存 ウニシマヒ
 オ 毎葉 イチマイ 契印
 ク 毎葉 イチマイ 契印

送達人ハ其一通ヲ書記局ニ還納シ書記局ニ於テハ送達ノ證
 トシテ之ヲ保存ス可シ
 第二十四條 休暇ノ日及ヒ日出前日没後ハ書類ノ送達ヲ爲ス
 可カラズ此規則ニ背キタル時ハ其送達ノ効ナカル可シ
 但本人承諾シテ其送達ヲ受ケタル時ハ此限ニ在ラス
 第二十五條 官吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署ノ印ヲ用ヒ年
 月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ若シ
 官署ノ印ヲ用フルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス
 可シ此規則ニ背キタル時ハ其書類ノ効ナカル可シ官吏ニ非
 ル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ若シ署名
 捺印スルコト能ハサル時ハ官吏ノ面前ニ於テ作りタル場合ヲ
 除クノ外立會人代書シ其事由ヲ記載ス可シ
 第二十六條 官吏其他何人ニ限ラス訴訟ニ關スル書類ノ正本

ワリ官署ノ印ヲ用フ
 能ハザル場合豫審
 ノ家宅臨検或ハ現行
 犯ノ場合ニ於テ檢證
 調書ヲ作ル 正本 署
 等コレナリ 捺印シテ 謄本シテ 改
 竄カキカヘタリ 挿入
 カキ削除ケツ 欄外ノ
 ヲム 削除ケツ 欄外ノ
 ト記入カキ變更アラ
 ル 増減マシヘ 頒布
 ス 別段ノ法律出版條
 規則海關稅則郵便罰
 則鐵道罰則等ノ如キ

又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入削除
 及ヒ欄外ノ記入アル時ハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スル時
 ハ之ヲ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規則ニ
 背キタル時ハ其變更増減ノ効ナカルヘシ
 第二十七條 此法律ニ於テ定メタル豫審又ハ公判ニ付テノ規
 則ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス
 頒布以前ニ爲シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサル時ハ其
 効アリトス
 第二十八條 此法律ハ將來頒布ス可キ別段ノ法律ニ於テ豫審
 又ハ公判ノ手續ヲ定メタル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス但其法律
 ニ抵觸スル規則ハ此限ニ在ラス
 從前頒布シタル別段ノ法律ニ於テ豫審又ハ公判ノ手續ヲ定
 メタル犯罪ニ付テハ前項ノ例ニ在ラス

第二編 刑事裁判所ノ
 構成及ヒ權限
 第一章 通則

コレ抵觸サルハ前項ハ
 ナリ
 第二編 刑事裁判所ノ
 構成及ヒ權限
 第一章 通則
 第一條 刑事裁判所ノ如
 キハ民刑ノ裁判權ヲ
 合一セスコレ特ニ通
 常刑事ト掲グ位置シ
 ヲ管轄シハ區劃ツ

第二十九條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ
 者ニ適用スルコトヲ得ス
 第三十條 此法律ニ於テ親屬ト稱スルハ刑法第百十四條第百
 十五條ノ例ニ從フ
 第二編 刑事裁判所ノ構成及ヒ權限
 第一章 通則
 第三十一條 通常刑事ノ裁判權ハ民事ノ裁判權ト同一ノ裁判
 所ニ屬ス
 第三十二條 裁判所ノ位置及ヒ管轄ノ區劃ハ司法卿ノ奏請ニ
 因リ上裁ヲ以テ之ヲ定ム
 第三十三條 裁判所ニハ檢察官一名又ハ數名ヲ置ク
 第三十四條 刑事ニ付キ檢察官ノ職務左ノ如シ

奏請 天皇陛下 上裁 天皇陛下ノ職務 モヤ 御裁斷 マヘ 捜査 第九十二條ノ規則ニ 從ヒタル手續ヲナス

ナ 取調ノ處分ヲ求

犯罪ノ證據ヲ顯 著ナラシムル手 段即第九九條ニ記載 スル者ノ如キ是ナリ

法律ノ適用ヲ請求ス 法律ノ正條ヲ以テ被 告事件ヲ處分スル

ヲ求ム即チ第三白九 十八條ノ如キ是ナリ

命令 裁判所カ法律ニ 從ヒ職務ヲ以テ

隨時意見ヲ 言渡シ裁 下スモノ

一 犯罪ヲ捜査ス

二 犯罪ニ付キ取調ノ處分及ヒ法律ノ適用ヲ裁判官ニ請求ス

三 裁判所ノ命令及ヒ言渡ノ執行ヲ指揮ス

四 裁判所ニ於テ公益ヲ保護ス

第三十五條 檢察官一名ハ公庭ニ立會フ可シ

第三十六條 裁判所ニハ書記一名又ハ數名ヲ置ク

第三十七條 書記ハ豫審及ヒ公判ニ立會ヒ調書公判始末書其 他訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ作ル可シ

又裁判言渡書其他一切ノ書類ヲ保存ス可シ

第三十八條 犯罪ノ種類ニ因リ裁判管轄ヲ定ムルノ左ノ如シ

一 違警罪ハ違警罪裁判所

二 輕罪ハ輕罪裁判所

三 重罪ハ重罪裁判所

所ヨリコノ所爲ハ刑 法第何條ニ當ルヲ以 テ何ヤノ刑ニ處スト 宣告スル

指彈 第四百六十二條 指彈ノ如キ是ナリ

公益ヲ保護ス 訴訟中 タル事件ニ付キ意見 ヲ陳述シ裁判管轄 判公行及傍聽禁止證 據提出法式履行等ニ ツキ公益又ハ被告ノ 利益ノ爲メ請求ス

ル所アルハ皆公益ニ 附テ保護スル者ナリ

帶ノ犯罪 一罪他ノ數 連スル者 罪ト密着率 連スル者 通謀ソフ容 易スグ 同等例ハ輕 判所トナ云フ 分明キ

カ 第四十條 犯罪ノ地 裁判所

重罪及ヒ輕罪又ハ輕罪及ヒ違警罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告 人ニ對シ訴アリタル時ハ附帶ノ犯罪ニ非ト雖モ上等ノ裁判 所併セテ之ヲ管轄ス

第三十九條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタ ル時

二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタル時

三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免カル 爲メ他ノ罪ヲ犯シタル時

第四十條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫 審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

犯罪ノ地分明ナラサル時ハ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ 其管轄ナリトス

ヲ以テ管轄セシムルハ証據ヲ得易ク其他裁判ト便宜逮捕ヘル多キ故ナリ
 同時ニ一箇ノ罪ヲ犯ス例ハハ管轄境中英ノ如キヨ
 簡ノ罪ヲ犯ス各地ニ造鑄造ノ度量衡ヲ使用シテ利ヲ得ルカ如キコレ最近ノ管轄裁判所ニ送致ス可シ
 ハ西京大阪ノ兩地ニ於テ數箇ノ罪ヲ犯シタル者ヲ滋賀縣ニ於テ逮捕シタル時ハ之ヲ西京裁判所ニ送致シ神戸ニ於テ逮捕シタルハ大阪裁判所ニ送致スベキノ類

第四十一條 數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ於テ同時ニ又ハ繼續シテ一箇ノ罪ヲ犯シタル時ハ其中ニテ被告人逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
 數罪俱發ノ場合ニ於テモ亦同シ
 第四十二條 犯罪ノ地ニ非サル裁判所ノ管轄地内ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ最近ノ管轄裁判所ニ送致ス可シ
 令狀ヲ以テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ其令狀ヲ發シタル裁判所ニ送致ス可シ
 第四十三條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テ被告人ヲ逮捕スルノ能クハス若クハ法律上逮捕スルヲ許サ、ル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
 第四十四條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

法律上逮捕スルコトヲ許サ、ル時犯罪ノ種類違警罪又ハ罰金ノ刑ニ當ル可キ輕罪ノ如キコレナリ
 處斷 原告人又ハ關席裁判被告人裁判所ニ出テズシテ最終裁判スルヲ云フ
 住所 イチバンアトニイマヒセシトコ
 別ニ法律ヲ以テ之ヲ

トス
 數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アル時ハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
 高等法院及ヒ陸海軍裁判所ノ管轄ニ付キ法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ本條ノ例ニ在ラス
 第四十五條 外國ニ在テ犯シタル罪日本國ノ法律ニ依リ處斷ス可キ者ニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル時ハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタル時ハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
 關席裁判ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最終住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス其住所分明ナラサル時ハ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲ス可シ
 第四十六條 商船内ノ犯罪ニ付テノ管轄及ヒ訴訟手續ハ別ニ

定 明治十四年十二月第六十五号布告干預ハル 哀訴 四百三 十六條

第二章 違警罪 裁判所

本案ノ事件終審ナル 場合例ヘバ輕罪裁判 件違警罪ノ控訴ヲ受 クル并又ハ違警罪裁 判所ニテ違警罪ノ科 料ヲ言渡ス如キコレ リナ

法律ヲ以テ之ヲ定ム

第四十七條 豫審ヲ爲シタル裁判官ハ其公判ニ干預ス可カラ ス前ニ豫審又ハ公判ヲ爲シタル裁判官ハ哀訴及ヒ闕席裁判 ニ對スル故障ヲ除クノ外其上訴ノ裁判ニ干預ス可カラス此 規則ニ背キタル時ハ其言渡ノ効ナカル可シ

第四十八條 裁判所ハ訴ヲ受ケタル事件ニ付キ自ラ其管轄ナ ルヤ否ヲ判決スルノ權アリ其判決ニ付テハ本案ノ事件終審 ナル可キ場合ト雖モ通常ノ規則ニ從ヒ檢察官其他訴訟關係 人ヨリ上訴スルコトヲ得

第二章 違警罪裁判所

第四十九條 治安裁判所ハ違警罪裁判所トシテ其管轄地内ニ 於テ犯シタル違警罪ヲ裁判ス

參看 明治十四年九月二十日第四十八號布告

刑法治罪法中違警罪裁判ノ儀ハ當分三府五港ノ市區ヲ除クノ 外府縣警察署又ハ警察分署ニテ裁判可致候條此旨布達候 事

同年十月六日第五十四號布告

刑法治罪法實施ノ儀布告候ニ付テハ當分ノ内輕罪ニシテ檢察 官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限り始審裁判所所在ノ 地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲 スコトヲ得可シ此旨布告候事但シ本文ノ場合ニ於テ訟廷内治罪 ノ手續ハ便宜可取計且其手續上ニ付テハ上訴ヲ許サス

第五十條 違警罪裁判所判事ノ職務ハ治安裁判所判事之ヲ行 フ判事差支アル時ハ判事補其職務ヲ行フ

第五十一條 違警罪裁判所檢察官ノ職務ハ其裁判所所在ノ地 警部之ヲ行フ

▲參看 明治十四年十月十日司法省甲第五號布達
新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ
代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

同年十月司法省丙丁第十三號達署ス

未決 サイパンノイ既
マダスママ

決 サイバンノ
スミタル

第五十二條 違警罪裁判所檢察官ハ毎月未決既決ノ事件表ヲ
作り輕罪裁判所檢事ニ差出ス可シ
事件表ニハ違警罪裁判所判事認印シ且意見アル時ハ之ヲ附
記ス可シ

第五十三條 違警罪裁判所書記ノ職務ハ治安裁判所書記之ヲ
行フ

テ行フ

第三章 輕罪裁判所

第五十四條 始審裁判所ハ輕罪裁判所トシテ其管轄地内ニ於

第三章 輕罪裁判所

テ犯シタル輕罪ヲ裁判ス

又重罪及ヒ輕罪ノ豫審ヲ行フ

又其管轄地内ノ違警罪裁判所ノ始審ノ裁判ニ對スル控訴ヲ
裁判ス

順次 マハ繼續 ツトメ
リニ繼續 ツトメ

第五十五條 輕罪裁判所判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ始審裁判
所判事一名又ハ數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第五十六條 豫審判事ノ職務ハ司法卿ヨリ始審裁判所判事一
名又ハ數名ニ滿一年間之ヲ命ス

又滿一年以上其職務ヲ繼續ス可キヲ命スルヲ得

第五十七條 判事差支アル時ハ其他ノ判事又ハ判事補其職務
ヲ行フ

判事補ハ豫審又ハ公判ニ立會ヒ意見ヲ述ルヲ得

其他ノ判事 民事局詰
判事ヲ

モ合 意見ヲ述ルヲ得
得 決議ニ參加ス
ルヲ得ス

治罪法

指名シタル検事補其
判所検事ノ上席人ノ
指名シテ以テ檢察官
ノ職務ヲ行ハシ司法
ムルモノナイフ
警察 重軽及ヒ違警ノ
犯罪ヲ捜査シ之
レカ證據徴憑ヲ蒐集
審査シテ其犯人ヲ管
轄裁判所検事ニ送付
スルヲ以テ目的トナ
スモノ 東京府長官ニ
トス 専任ノ警視廳アル
補ヲ以テ之ヲ除ク
佐 スケ
ダナ

第五十八條 輕罪裁判所檢察官ノ職務ハ始審裁判所検事又ハ
其指名シタル検事補之ヲ行フ
第五十九條 輕罪裁判所書記ノ職務ハ始審裁判所書記之ヲ行
フ
第六十條 東京警視本署長及ヒ府縣長官ハ 各 其管轄地内ニ
於テ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スルニ付キ檢事ト同一ノ
權ヲ有ス但シ東京府長官ハ此限ニ在ラス
左ニ記載シタル官吏ハ檢事ノ補佐トシテ其指揮ヲ受ケ第三
編ニ定メタル規則ニ從ヒ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査ス可
シ
一 警視警部
二 區長郡長
三 治安判事

四 警部ノ在ラサル地ノ戶長

第六十一條 司法警察官檢察官又ハ裁判官ハ他ノ司法警察官
檢察官又ハ裁判官ヨリ犯罪取調ノ爲メ其管轄地内ニ於テ證
憑其他事實參考ト爲ル可キ事物ヲ集取ス可キノ囑託ヲ受ク
ルコアル可シ

第六十二條 檢事ハ二月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事件
表ヲ作り控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ
又違警罪裁判所檢察官ヨリ差出シタル事件表ヲ同時ニ檢事
長ニ差出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ
第四章 控訴裁判所
第六十三條 控訴裁判所ニ刑事局ヲ置キ輕罪裁判所ノ始審ノ
裁判ニ對スル控訴ヲ裁判ス但其裁判ハ判事三名以上ニテ之

第四章
控訴
裁判所

證據 シヨウ事實 コト
參考 マジヘカ集取ツア
メト 囑託 ミ
附記 ナキ
ヘル

ヲ爲ス可シ

第六十四條 刑事局判事ノ職務ハ裁判所長ヨリ其裁判所判事
數名ニ順次滿一年間之ヲ命ス

又滿一年間更ニ其職務ヲ繼續セシムルヲ得

第六十五條 刑事局判事差支アル時ハ裁判所長ヨリ民事局判
事ヲシテ其職務ヲ行ハシム

裁判所長ハ何時ニテモ裁判長トナルヲ得

第六十六條 刑事局檢察官ノ職務ハ其裁判所檢察長又ハ其指
名シタル檢事之ヲ行フ

第六十七條 檢事長ハ其裁判所ノ管轄地内ニ於テ輕罪裁判所
檢事ニ屬スル司法警察及ヒ起訴ノ職務ヲ行ヒ又ハ其所屬ノ

起訴 ヲツタヘ所屬附
ヲオコス
ト同
告達 ツゲシ
ラセ

檢事ヲシテ之ヲ行ハシムルヲ得
又起訴及ヒ其他ノ職務ニ付キ其管轄地内ノ檢察官ニ告達ス

司法警察官 重モニ警
視本署長

府縣長官 監督 ヲツケ
ナイフ

ルコアル可シ

檢事長ハ其管轄地内ノ檢察官及ヒ司法警察官ヲ監督ス

第六十八條 檢事長ハ三日毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事
件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ

又輕罪裁判所檢事ヨリ差出タル事件表ヲ同時ニ司法卿ニ差
出シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

事件表ニハ裁判所長認印シ且意見アル時之ヲ附記ス可シ

第六十九條 刑事局書記ノ職務ハ其裁判所書記之ヲ行フ
第五章 重罪裁判所

第七十條 重罪裁判所ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル重罪ヲ裁
判ス

第七十一條 重罪裁判所ハ三月毎ニ之ヲ開ク
若シ事件夥多ナル時ハ控訴裁判所長及ヒ檢事長ヨリ司法卿

三月毎ニ之ヲ開ク罪
極

第五章 重罪裁判所

メテ重ケレハ之ヲ犯
スノ人モ亦極メテ多
カラサルハ既ニ經驗
ノ許ス所ナリ故ニ常
立ノ裁判所ト爲サス
シテ三月毎ニ之ヲ開
ク夥多ク開廳シヨク
ヲヒ
ヲク

ニ具申シ其許可ヲ得テ臨時開廳スルコトヲ得
第七十二條 重罪裁判所ハ控訴裁判所又ハ始審裁判所ニ於テ
之ヲ開ク

第七十三條 重罪裁判所ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ
一 裁判長一名但控訴裁判所長ヨリ其裁判所判事ニテ之ヲ
命ス

二 陪席判事四名但控訴裁判所ニ於テ開ク時ハ裁判所長ヨリ
其裁判所判事ニテ之ヲ命シ始審裁判所ニ於テ開ク時ハ其
裁判所長及ヒ先任ノ判事ヲ以テ之ニ充ツ

▲參看 明治十四年九月廿日第四十六號布告治罪法第七十三
條第二項ノ陪席判事四名ト有之候ハトモ當分ノ内二名ト相ヒ
定メ候事

明治十四年十月六日第五十五號布告 (全文ハ第七十九

陪席判事 立會ス
ル判事
先任 ハヤク判
事トナル

條ニ掲クルヲ以テ參看セシコトヲ要ス

第七十四條 重罪裁判所檢察官ノ職務ハ控訴裁判所檢察長又
ハ其指名シタル檢事之ヲ行フ

始審裁判所ニ於テ開ク時ハ檢事長ヨリ始審裁判所檢事ヲシ
テ其職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第七十五條 重罪裁判所書記ノ職務ハ開廳ス可キ裁判所ノ書
記之ヲ行フ

第七十六條 控訴裁判所檢察長ハ開廳ノ後既決事件表ヲ作リ
司法卿ニ差出ス可シ

事件表ニハ控訴裁判所長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス
可シ

第六
章
大
審
院
上
告
第
四
百
十
條
以
下

第六章 大審院
第七十七條 大審院ニ刑事局ヲ置キ左ノ條件ヲ裁判ス

再審ノ訴 四百三十
九條以下

裁判管轄ヲ定ムル訴

第四百四十公安又ハ嫌

疑ノ爲メ裁判管轄ヲ

移スノ訴 第四百五十

一條以下
奏請 天子ハ申
シ上ケ

一上告

二再審ノ訴

三裁判管轄ヲ定ムル訴

四公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

第七十八條 刑事局ニ於テハ判事五名以上ニ非ザルハ裁判ヲ

爲ス可カラズ

第七十九條 刑事局判事ノ職務ハ司法卿ノ奏請ニ因リ其院判

事ニ之ヲ命ス

判事差支アル時ハ民事局判事授任ノ順序ニ從其職務ヲ行フ

▲參看 明治十四年十月六日第五十五號布告

治罪法第七十六條末文陪席判事第七十九條第二項補充判事ノ

儀當分其裁判所長又ハ院長ノ臨時指定スル所ニ任シ候條此旨

布告候事

第八十條 刑事局檢察官ノ職務ハ其院檢察長又ハ其指名シタ

ル檢事之ヲ行フ

第八十一條 刑事局書記ノ職務ハ其院書記之ヲ行フ

第八十二條 檢事長ハ三月毎ニ豫審及ヒ公判ノ未決既決ノ事

件表ヲ作り司法卿ニ差出ス可シ

事件表ニハ院長認印シ且意見アル時ハ之ヲ附記ス可シ

第七章 高等法院

第八十三條 高等法院ニ於テハ刑法第二編第一章第二章ニ記

載シタル重罪ヲ裁判ス

又皇族ノ犯シタル重罪及ヒ禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪ヲ裁判

ス

又勅任官ノ犯シタル重罪ヲ裁判ス

前二項ニ記載シタル者ノ正犯及ヒ從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハ

第七章
高等法院

授任
ハイ順序シ
メイ

刑法第二編第一章第

二章ニ記載シタル重

罪 皇室ニ對スル罪内

亂ニ關スル罪外忠

ニ關スル罪 皇族 天皇

子皇太子ヲ除クノ外皇

治罪法

子皇妃其他世襲ト一代トナ問ハス皇族ノ貴號ヲ帶フル天鈿禁皇ノ御一族ナリ輕罪ニテモノ刑云々禁錮ノ刑ニ於テ裁判スルナリ該ル可キ時ハ本院ニ奏請 天皇陛下 上裁 天皇ノ御 判決

ス其院ニ於テ之ヲ裁判ス
 第八十四條 高等法院ハ司法卿ノ奏請ニ因リ上裁ヲ以テ之ヲ開ク其裁判ス可キ事件及ヒ開院ス可キ場所モ亦上裁ヲ以テ之ヲ定ム
 第八十五條 高等法院ハ左ノ職員ヲ以テ裁判ヲ爲ス可シ
 一 裁判長一名 倍席裁判官六名 但元老院議官大審院判事中日リ毎年豫メ上裁ヲ以テ之ヲ命ス
 二 豫備裁判官二名 但前項ノ式ニ從ヒ之ヲ命ス
 第八十六條 豫審判事ノ職務ハ上裁ヲ以テ大審院刑事局判事一名又ハ數名ニ之ヲ命ス
 第八十七條 高等法院檢察官ノ職務ハ大審院檢察長又ハ司法卿ヨリ指名シタル檢察之ヲ行フ
 第八十八條 高等法院書記ノ職務ハ大審院書記之ヲ行フ

一 故障ヲ許スハモト一 欠席裁判ハ一時假ノ裁判ニシテ本人ノ辨護ヲ聽カス止タレ方ノ言ニ依リテ裁判シタルモノナレバ其難枉ナキヲ保シ二 衷ハ裁判ノ手續ニ錯誤アリタルハ再審ノ訴キ最終手三 再審ノ訴段ナリハ再審ニ錯誤アルハ於テ非常定裁判ヲ取消ス非常ナリ

第三編 檢察官及豫審判事ノ職務ヲ示スモノニテ即チ犯罪ノ搜查ヨリ始メ以

第八十九條 高等法院ノ裁判ニ對シテハ上訴ヲ許サス但左ノ條件ニ於テハ其院ニ上訴スルコトヲ得
 一 一閑席裁判アリタル場合ニ於テ故障
 二 第四百三十六條ト同一ノ場合ニ於テ哀訴
 三 第四百三十九條ト同一ノ場合ニ於テ再審ノ訴
 第九十條 被告事件夥多ナル時又ハ再審ノ訴ヲ裁判ス可キ時ハ新ニ職員ヲ命スルコトアル可シ
 第九十一條 高等法院ノ訴訟手續ハ通常ノ規則ニ從フ

第三編 犯罪ノ搜查起訴及豫審

第一章 搜查

第九十二條 檢察官ハ後ニ記載シタル告訴告發現行犯其他ノ原由ニ因リ犯罪アルコトヲ認知シ又ハ犯罪アリト思料シタル

テ管轄裁判所ノ公判ヲ求ムルニ終ルマテノ手續ヲ定ム。捜査罪ルモノトス。アリタルヲ知リタル場合ニ於テ其發見シタル證據ヲ集取シ或ハ被告人ノ身分ニ關シ一應ノ取調ヲ爲シ公訴ヲ起スノ手續ニ運ハシ認知シリツムルヲ云ケル。思料カモハ証憑ケル現行犯罪ニ行ヒ又ハ現行犯罪ニ行ヒ終リタル際ニ發覺シタル罪ナリ

犯罪ノ地 違警罪ハ事件輕小ナル

時ハ其証憑及ヒ犯人ヲ捜査シ第百七條以下ノ規則ニ從ヒ起訴手續ヲ爲ス可シ

第一節 告訴及ヒ告發

第九十三條 何人ニ限ラス重罪輕罪ニ因リ損害ヲ受ケタル者ハ犯罪ノ地若クハ被告人所在ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警察官ニ告訴スルヲ得。豫審判事告訴ヲ受ケタル時ハ第百十四條以下ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

檢事告訴ヲ受ケタル時ハ第百七條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲ス可シ

司法警察官告訴ヲ受ケタル時ハ速ニ其書類ヲ檢事ニ送致ス可シ

違警罪ニ付テハ犯罪ノ地ノ違警罪裁判所檢察官又ハ司法警察官ニ告訴スルヲ得其告訴ヲ受ケタル司法警察官ハ之ヲ

テ以テ被告人逃亡シテ他管ニ在ルヲ少ナシ故ニ犯罪ノ地ノミヲ以テ其告訴ヲ受ク可キ管轄ヲ定ム

又告訴人ハ云々 犯罪ニ

ヲ告訴シタルニ付或ハ私訴ヲ爲シ能ハザルヤノ疑アランヲ慮リ爰ニ此項ヲ置キ私訴ヲ爲スヲ得ルヲ示ス

第九十四條 告訴人ハ成ル可ク其証憑及ヒ事實參考ト爲ル可キヲ申立ツ可シ

又告訴人ハ第百十條以下ノ規則ニ從ヒ民事原告人ト爲ルヲ得

第九十五條 告訴ハ告訴人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

又告訴ハ口述ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作り告訴人ニ之ヲ讀聞カセ共ニ署名捺印ス可シ

若シ告訴人署名捺印スルコト能ハサル時ハ其旨ヲ附記ス可シ

告訴人ニハ告訴ヲ受ケタルノ證書ヲ渡ス可シ

官吏其職務ヲ行フニ
 因リ民事ノ裁判官審
 吏ノ罪ヲ發見シ税關官
 吏振荷ヲ發見シ酒造
 檢査官吏免許外過額
 ノ酒造アルヲ發見
 シタル場 何人ニ限ラ
 合是ナリ
 ス官吏ト雖モ職務外
 ニ在テハ總テ此中
 ニ在 其所在ノ地ノ犯人
 ルト
 コロト

委任マカセ法律ニ定

第九十六條 官吏其職務ヲ行フニ因リ重罪輕罪アルヲ認知
 シ又ハ重罪輕罪アリト思料シタル時ハ速其ニ職務ヲ行フ地
 ノ檢事ニ告發ス可シ
 告發ハ官吏ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ之ヲ爲シ成ル可ク
 證憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ添フ可シ
 違警罪ニ付テハ違警罪裁判所檢査官ニ告發ス可シ
 第九十七條 何人ニ限ラス重罪輕罪アルヲ認知シ又ハ重罪
 輕罪アリト思料シタル時ハ第九十四條第九十五條ノ規則ニ
 從ヒ其所在ノ地若クハ犯罪ノ地ノ豫審判事檢事又ハ司法警
 察官ニ告發スルルヲ得
 告發ヲ受ケタル官吏ハ第九十三條ノ規則ニ從ヒ其處分ヲ爲
 ス可シ
 第九十八條 告訴告發ハ代人ニ委任シテ之ヲ爲スヲ得但第

メタル代人一未丁年
 者ノ父若
 クハ母又ハ親屬後見
 人ニ夫タル者三白痴
 癡癡人ノ保管者四治
 産ノ禁ヲ受ケタル者
 ノ財産變更
 管理人カヘ

准オナシコト
 ハミナス

第二節
 現行犯
 罪

九十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス
 無能力者ノ告訴ハ法律ニ定メタル代人之ヲ爲スモ其効アリ
 トス
 第九十九條 告訴告發ハ其願下ヲ爲シ又ハ其申立ヲ變更スル
 ヲ得此場合ト雖モ第十六條ノ規則ニ從ヒ被告人ヨリ要償
 ノ訴ヲ受クルヲアル可シ
 第二節 現行犯罪
 第一百條 現行犯罪トハ現ニ行ヒ又ハ現ニ行ヒ終リタル際ニ發
 覺シタル罪ヲ謂フ
 第一百一條 重罪輕罪ニ付左ノ場合ハ現行犯ニ准ス
 ▲參看明治十四年九月二十日第四十六號布告
 治罪法第一百條ニ准現行犯ノ場合列記有之候處其舉動犯人ト
 思料ス可キ者アルトハ當分ノ内現行犯ニ准シ處分スルコトナ

治罪法

得

追呼 オヒカケヨビ
タテラル、

兇器 ヒトヲコロスニ
タルベキダウグ

贓物 ヌスミ 携帯 モチ
シテ

檢證 ケンサシテシ
ヨウコナトル

逮捕 トラ
ヘル

令狀 召換狀勾引狀勾
留狀收監狀ニシ

テ獨リ豫審判事ノ職
權ニ因リ發付スルモ

ノト 命令 概テ本屬長
官ノ指揮

引致 ヒキヲ 逃亡 ニゲ
タル

一犯人トシテ一人又ハ數人追呼セラル、時
二兇器贓物其他犯人ト思料ス可キ物件ヲ携帯シタル時
三家宅内ニ於テ犯シタル罪ヲ檢證スル爲メ又ハ其犯人ト思
料ス可キ者ヲ逮捕スル爲メ戶主ヨリ官吏ニ其處分ヲ求メタ
ル時

第二百二條 司法警察官及ヒ巡査其職務ヲ行フニ當リ重罪輕罪

ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ令狀又ハ命令ヲ待タスシテ
被告人ヲ逮捕ス可シ
違警罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ被告人ノ氏名住居ヲ
問ヒ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ告發ス可シ其氏名住居分明
ナラス又ハ逃亡ノ恐アルモノ違警罪裁判所ニ引致ルコトヲ
得

第二百三條 巡査被告人ヲ逮捕シタル時ハ速ニ之ヲ司法警察官

ニ引致スベシ

其被告人ヲ受取りタル司法警察官ハ逮捕及ヒ告發ニ付テノ
調書ヲ作ルベシ

第二百四條 司法警察官被告人ヲ逮捕シ又ハ之ヲ受取りタル時

ハ假ニ被告人ノ訊問及ヒ檢證處分ヲ爲スベシ

第二百五條 何人ニ限ラス重罪輕罪ノ現行犯アル場合ニ於テハ

直チニ被告人ヲ逮捕スルコトヲ得

第二百六條 前條ノ場合ニ於テ被告人ヲ逮捕シタル者ハ之ヲ司

法警察官ニ引致ス可シ若シ引致スルコトヲ得サル時ハ自己ノ
氏名職業住所及ヒ其逮捕ノ事由ヲ陳述シ假ニ之ヲ巡査ニ引
渡スコトヲ得

被告人ヲ巡査ニ引渡タル時ハ速ニ告訴又ハ告發ヲ爲ス可シ

訊問 シテ
ベシ

引致スルヲ得ザル時
日時又ハ場所ノ都合
ニ依リ引致スル能ハ
ス又ハ被告人ノ抗抵
チ制壓スルニ堪ヘス
シテ之ヲ引致スル能
ハザル時ノ如キコレ

第二章 起訴 第一章 檢察官ノ起訴

ナ 被告人ヲ巡查ニ引
渡シ云々 司法警察官
其事由ヲ陳供スル片
ハ告訴發テ看做ス
可シト雖 巡査ニシ
テ其引渡ヲ受クル片
ハ巡查ハ告訴發テ
以テ正當ナル順序ヲ
以テ必ス告訴發起
テハサハル可ラス 起
訴出ル拒ムシヨウチ
輕重 カルキ難易ソノ
オモキ 難易ソノ
ノイリコミタルコト
又ハタヤスキコト

被告人又ハ巡查ハ逮捕ヲ爲シタル者ニ對シ共ニ官署ニ至ル
ヲ求ムルヲ得但逮捕ヲ爲シタル者ハ正當ノ事由アルニ非
サレハ其求ヲ拒ムヲ得ス

第二章 起訴

第一章 檢察官ノ起訴

第七條 檢事犯罪ノ捜査ヲ終タル時ハ左ノ手續ヲ爲ス可シ
一 重罪ト思料シタル事件ニ付テハ豫審判事ニ豫審ヲ求可シ
二 輕罪ト思料シタル事件ニ付テハ其輕重難易ニ從ヒ豫審ヲ
求メ又ハ直チニ輕罪裁判所ニ其訴ヲ爲ス可シ
三 違警罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添
ヘ之ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致ス可シ
四 被告人ノ身分犯罪ノ種類又ハ場所ニ因リ其管轄ニ屬セザ
ル者ト思料シタル事件ニ付テハ之ヲ管轄裁判所檢察官ニ

送致ス可シ

被告事件罪ト爲ラス又ハ公訴受理ス可カラサル者ト思料シ
タル時ハ起訴ノ手續ヲ爲ス可カラス

第八條 前條ノ場合ニ於テ被告事件告訴ニ係ル時ハ檢事ヨ
リ其處分ヲ被害者ニ通知ス可シ

第九條 檢事豫審ヲ求ムル時ハ證據及ヒ事實參考ト爲ル可
キ事物ヲ送致シ且臨檢ス可キ場所逮捕ス可キ人名及ヒ原被
ノ證人ト爲ル可キ者ヲ指示ス可シ

第二節 民事原告人ノ起訴

第十條 重罪輕罪ノ被害者公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲サント
スル時ハ告訴ト共ニ之ヲ申立テ又ハ告訴ヲ爲シタル後其旨
ヲ豫審判事ニ申立ツ可シ
豫審判事直チニ被害者ヨリ民事原告人ト爲ル可キノ申立ヲ

第二節 民事原告人ノ起訴

處分 如何ニ處分セ
ラレタルカ

何レノ場合ニテモ 訴
ト共ニ民事原告人ト
ナル可キ申立ヲ受ケ
タル場合ニテモ又其
後ニ右ノ申立ヲ受ケ
タル場合ニ
テモナリ

願下 證憑ノ缺乏及ヒ
其他ノ事由ニ依
リ權利ヲ拋棄スル
ナクシテ一時訴訟停
止スル 棄權全ク訴訟
ナリ 棄權ヲ爲スノ

受ケタル時ハ檢察官ノ起訴ナシト雖モ公訴私訴ヲ併セテ受
理シタル者トス
豫審判事ハ何レノ場合ニ於テモ直チニ被害者ヨリ民事原告
人ト爲ル可キノ申立テテ受ケケタル時ハ其旨ヲ檢事ニ通知
ス可シ
第百十一條 被害者ハ公訴ノ本案ニ付キ始審終審ノ裁判言渡
アルマテ何時ニテモ私訴ヲ爲シ若クハ其要ムル所ヲ變更ス
ルヲ得
又私訴ノ願下ヲ爲シタル後更ニ其申立ヲ爲シ若クハ其要ム
ル所ヲ變更スルヲ得
第百十二條 被害者ハ代人ニ委任シテ私訴ヲ爲シ又ハ其願下
若クハ棄權ヲ爲スヲ得
被害者無能力ナル時ハ法律ニ定メタル代人之ヲ爲ス可シ

第三章 豫審

權ヲ拋棄
スルナリ

法律ニ定メタル代人
父又ハ後見
人ヲ云フ
豫審
ヲハ

召喚狀 ヨヒタシ 訊問
トヒタ
トス

急速
シキ
勾引狀 ヒキタテ 勾留
狀 トメオキ
シヨウ

第三章 豫審

第百十三條 現行ノ重罪輕罪ヲ除クノ外豫審判事ハ前章ニ定
メタル規則ニ從ヒ檢事又ハ民事原告人ノ請求アルニ非サレ
ハ豫審ニ取掛ルヲ得ス此規則ニ背キタル時ハ其請求ヨリ
以前ニ係ル手續ノ効ナカル可シ

第百十四條 豫審判事ハ重罪輕罪ニ付キ直チニ告訴又ハ告發
ヲ受ケタル時ハ召喚狀ヲ以テ被告人ヲ呼出シ之ヲ訊問スル
ヲ得若シ引續キ取調ヲ爲ス可キ者ト思料シタル時ハ其事
件ヲ檢事ニ送致ス可シ

第百十五條 豫審判事ハ告訴告發ノ事件急速ヲ要スル時ハ直
チニ被告人ニ對シ勾引狀ヲ發シ又ハ訊問シタル後勾留狀ヲ
發スルヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ檢事ニ通知シ且證
憑及ヒ事實參考ト爲ル可キ事物ヲ送致ス可シ

治罪法